

# 男女共同参画社会づくりのための 意識調査

## 報 告 書

平成22年3月

大 分 県

## はじめに

平成11年に制定された男女共同参画社会基本法では、男女が、お互いの人権を尊重しつつ、喜びも責任も分かち合い、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を、「21世紀の我が国社会を決定する最重要課題」と位置付けております。

本県では、平成14年に「大分県男女共同参画推進条例」を制定し、平成15年には「大分県消費生活・男女共同参画プラザ（アイネス）」開設、平成17年には「大分県DV対策基本計画」策定、平成20年には同計画を改定するなど、推進体制の整備を図るとともに、男女共同参画社会の実現に向けた意識啓発や環境整備などの各種施策を積極的に実施してまいりました。

また、平成18年3月には、男女共同参画社会の実現を総合目標に、男女共同参画に向けた意識改革・男女の人権の尊重・男女共同参画実現のための環境整備を基本目標とし、「おおいた男女共同参画プラン（改訂版）」を策定し、男女共同参画社会の実現に向け、一層の取り組みを進めているところです。

今回の調査は、平成16年度に実施した調査以来、個人の考え方や生き方が多様化している中で、男女共同参画に関する県民の意識や実態を把握することにより、今後の施策展開、「おおいた男女共同参画プラン」改定の基礎資料とするために実施してまいりました。

この報告書が、県民の皆様幅広くご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、この調査を実施するにあたりご協力いただきました県民の皆様厚くお礼申し上げます。

平成22年3月

大分県生活環境部長 城井 秀郎

# 目次

1. 調査の目的と概要 .....	1
2. 対象者の概要 .....	1
①性別 .....	1
②年齢 .....	2
③結婚の状況 .....	2
④夫婦の就労状況 .....	2
⑤同居している子どもについて .....	3
⑥家族構成 .....	3
⑦職業 .....	3
⑧居住地域 .....	4
3. 男女の意識について .....	5
(1)性別役割分担に対する意識 .....	5
(2)男女の地位の平等感 .....	6
①家庭生活 .....	6
②職場 .....	7
③学校教育の場 .....	8
④政治の場 .....	9
⑤法律や制度の上 .....	10
⑥社会通念・慣習・しきたり .....	11
⑦社会全体 .....	12
(3)家庭内における役割分担 .....	14
①家計の管理 .....	14
②食料品などの買い物 .....	14
③食事のしたく .....	15
④食後の片づけ .....	16
⑤掃除・洗濯 .....	16
⑥乳幼児の世話・育児 .....	17
⑦子どもの教育としつけ .....	18
⑧PTAへの出席 .....	18
⑨町内行事等への参加 .....	19
⑩高齢者の世話・介護 .....	20
(4)男性の参加を進めるために必要なこと .....	21

4. 仕事について	23
(1) 仕事との関係	23
(2) 仕事のやりがい	24
(3) 今後の仕事について	25
(4) 女性が職業をもつことについて	26
(5) 職場における待遇	27
① 差別の有無	28
② 差別の内容	28
(6) 男性の育児・介護休業取得について	29
① 男性の取得に対する考え方	30
② 取りづらい理由	31
(7) 女性が仕事を続けるために必要な支援	32
5. 地域活動について	34
(1) 女性が活動しにくい状況の有無	34
(2) 女性が活動しにくい状況の内容	35
6. 子どもの教育について	37
(1) しつけや教育	37
(2) 学歴	41
7. 女性の人権について	43
(1) 心身の健康に必要なこと	43
8. ドメスティック・バイオレンス(夫婦・恋人間の暴力)について	44
(1) ドメスティック・バイオレンスに関する実態	44
(2) 被害の相談	65
① 相談の有無	65
② 相談した結果	65
③ 相談しなかった理由	66

9. セクシュアル・ハラスメント等について .....	67
(1) セクシュアル・ハラスメントに関する実態 .....	67
(2) 被害の相談 .....	69
① 相談の有無 .....	69
② 相談した結果 .....	69
(3) 女性への暴力・性犯罪をなくすために必要な支援 .....	70
10. メディアでの表現について .....	72
11. 女性の参画や施策への要望などについて .....	73
(1) 女性の参画が少ない理由 .....	74
(2) 男女共同参画に関する認知度 .....	76
① 男女共同参画 .....	76
② ジェンダー(社会的、文化的につくられた性差) .....	76
③ セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ) .....	76
④ ドメスティック・バイオレンス(夫婦、恋人間の暴力) .....	77
⑤ ポジティブアクション(積極的改善措置) .....	77
⑥ エンパワーメント(力をつけ、発揮すること) .....	77
⑦ ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭の調和) .....	78
⑧ 大分県消費生活・男女共同参画プラザ(愛称:アイネス) .....	78
(3) 行政に望むこと .....	79
12. 調査結果のまとめ .....	81
13. アンケート調査票 .....	95



## 1. 調査の目的と概要

大分県は2005（平成17）年に『男女共同参画社会づくりのための意識調査』を実施しました。急激な経済社会状況の変化をふまえ、大分県民の人権に関する意識の現在の全体状況を把握するとともに、男女共同参画社会づくりに向けた施策展開、「おおいた男女共同参画プラン」改定の基礎資料とするとともに、県民の男女共同参画に関する意識啓発を行うことを目的に、2009（平成21）年7月に調査を実施しました。

今回の調査は、過去の調査結果との比較を行い、変化をある程度見ることができるよう考慮しましたが、社会経済の変化をふまえ、いくつかの調査項目を入れ替えています。また、前回以降に発表された国の調査も参考に調査項目を検討しました。参考にした国の調査は、内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」、2009（平成21）年10月調査です。

今回の調査票は、大分県生活環境部県民生活・男女共同参画課を中心に、大分県の関係各課の意見を採り入れ、作成しました。

2009（平成21）年3月2日現在の大分県有権者名簿から約0.3%・3,000人を抽出し、同年7月に調査票を発送、返送の締め切りは7月から8月ですが、9月末日までに返送されたものは集計しました。無記入のものやほとんど記入されていないものを除き、有効回収数1,043票で有効回収率は34.8%でした。前回（平成17年県調査）も県内有権者3000人を対象に実施していますが、有効回収数1,511票・有効回収率53.6%でした。前回と比べ回収率の低下が見られます。個人情報保護法の成立2003（平成15）年以降、各種の世論調査の回収率が軒並み下がっているといわれますが、この調査も例外ではなかったようです。個人の情報やプライバシーに関する意識の向上は好ましいことですが、調査の目的をより理解してもらう必要があります。回収率は下がりましたが、結果の数値を過去の調査や全国調査の結果と比較することで、慎重に分析をしました。比較の結果、あまり大きくないがいは見られず、十分な信頼性があると思われます。分析の方法は前回の調査や全国で行われた調査結果の比較を行うことと、性別、年齢別、職業別との関連を分析しました。

大分県生活環境部県民生活・男女共同参画課が調査を実施し、調査の集計・分析・報告は「大分県人権問題調査研究会」（代表 吉良伸一大分県立芸術文化短期大学情報コミュニケーション学科長・教授）が行いました。なお、調査票は内封筒に入れて封をし、これを返信用封筒に入れて返送してもらい、内封筒に入れた調査票は回答者が誰か特定できないようにして集計しました。なお、本書の文中や表等の%表示は小数点以下第2位を四捨五入しており、合計が100%とならない場合があります。また、質問によって無記入や非該当の数が違いますので合計数は質問によって異なります。また、調査結果の比率から母集団の傾向を推測するには統計上の標本誤差が伴います。今回の調査の標本数は約1,000ですので、もっとも誤差が大きい50%での誤差は±3.1%となります。

回答比率	5%	10%	20%	30%	40%	50%
(調査数)	95%	90%	80%	70%	60%	50%
1,000	±1.4%	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%

## 2. 対象者の概要

### ① F1. あなたの性別は

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査	国勢調査	全国調査
1	女性	575	55.1	55.3	57.9	53.9	53.4
2	男性	464	44.5	44.7	41.7	46.1	46.6
	不明(無記入)	4	0.4		0.4		
	サンプル数(%ベース)	1,043	100.0	1,039			

\* (全体)%は有効回答数全体に対する%、(除不)%は不明(無記入)をのぞく%

国勢調査は平成17年国勢調査の20歳以上人口での割合

前回調査は平成17年『男女共同参画社会づくりのための意識調査』

平成 17 年国勢調査では、大分県の 20 歳以上人口での男女の割合は女性 53.9%・男性 46.1%となっています。今回調査では不明(無記入)を除くと、女性 55.3%・男性 44.7%と、国勢調査より少し女性が多く男性が少なくなっていますが、大きな差はありません。前回平成 17 年の調査に比べて、少し女性が少なく男性の回答が多くなっています。平成 21 年度の全国調査と比べ女性が少なく男性が少ないですが大きな違いはありません。前回調査・全国調査と、今回調査の調査結果を比較する上で、性別については問題はないと見られます。

② F2. あなたの年齢は

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査	全国調査	国勢調査
1	20～29歳	78	7.5	7.5	7.3	9.8	13.2
2	30～39歳	160	15.3	15.4	14.0	14.6	14.7
3	40～49歳	165	15.8	15.9	19.5	16.2	14.7
4	50～59歳	196	18.8	18.8	23.5	19.0	19.2
5	60～69歳	251	24.1	24.1	35.5	22.2	15.8
6	70歳以上	190	18.2	18.3		18.1	22.3
	不明	3	0.3		0.2	0.1	
	N (%ベース)	1043	100.0	1040			

次に、年齢構成を見てみます。60歳代が最も多く 24.1%、次に 50歳代が 18.8%、70歳以上 18.2%、40歳代 15.8%、30歳代 15.3%、20歳代 7.5%となっています。前回調査では 60歳以上をまとめていますが、60歳以上が上の表から計算すると今回調査 42.3%・前回調査 35.5%・全国調査 40.3%・国勢調査では 38.1%となります。60歳以上が前回・国勢調査より多くなっていますが、全国調査とあまり変わりません。高齢化が進んでいることを考えれば実勢に近いのではないのでしょうか。前回調査より 50代が少なくなっていますが、全国調査・国勢調査とは変わりません。前回調査よりも 50代が少なく 60歳以上が多い傾向がありますが、比較する上では問題がないと思われます。

③ F3. あなたは結婚(事実婚を含む)をしていますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査	全国調査
1	結婚している(事実婚を含む)	775	74.3	74.5	81.5	75.2
2	結婚したことがない	136	13.0	13.1	10.0	14.8
3	結婚していたが、離婚死別した	129	12.4	12.4	8.3	10.0
	不明	3	0.3		0.2	
	N (%ベース)	1043	100.0	1040		

婚姻関係について、結婚している(事実婚を含む)が 74.3%・結婚したことがない 13.0%・結婚していたが離別または死別した 12.4%・不明 0.3%となっています。前回調査より結婚しているが少なく未婚と離死別が多くなっています。全国と比べあまり違いはありませんが未婚が少なく離死別が多くなっています。

④ F4. あなたは共働き(パート・アルバイトなどを含む)ですか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	共働きである	336	43.4	44.0	46.3
2	共働きでない	249	32.1	32.6	31.5
3	夫婦共に働いていない	178	23.0	23.3	19.8
	不明	12	1.5		2.4
	N (%ベース)	775	100.0	763	

結婚している人 775 人について、あなたは共働き(パート・アルバイトなどを含む)ですかという質問では、共働きである 43.4%・共働きでない 32.1%・夫婦共に働いていない 23.0%・不明 1.5%となっています。前回より共働きが 2.9%減って、夫婦共に働いていないが 3.2%増えています。不況や高齢化が影響しているようです。

⑤ F5. 同居している子どもについて。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	F5同居している子ども 乳児(1歳未満)	20	2.2	2.4
2	F5同居している子ども 幼児(1歳以上)	100	11.1	12.2
3	F5同居している子ども 小学生	126	13.9	15.3
4	F5同居している子ども 中学生	85	9.4	10.4
5	F5同居している子ども 高校、大学、高専、短大	139	15.4	16.9
6	F5同居している子ども 学校を卒業した未婚の子ども	259	28.7	31.5
7	F5同居している子ども 結婚した子ども	429	47.5	52.3
	不明	83	9.2	
	N (%ベース)	904	100.0	821

未婚をのぞく結婚しているまたは結婚したが離別死別した人 904 人について、同居している子どもを質問した。結婚した子ども 47.5%・学校を卒業した未婚の子ども 28.7%・高校、大学、高専、短大 15.4%・小学生 13.9%・幼児(1歳以上)11.1%・中学生 9.4%・乳児(1歳未満)2.2%・不明 9.2%です。

⑥ F6. あなたのお宅のご家族の構成。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	一人暮らし	111	10.6	10.8	7.2
2	夫婦のみ	325	31.2	31.5	27.9
3	二世帯世帯(親と未婚の子ども)	326	31.3	31.6	38.2
4	二世帯世帯(親と子ども夫婦)	76	7.3	7.4	7.5
5	三世帯世帯(祖父母と親と子ども)	100	9.6	9.7	12.2
6	その他の世帯	94	9.0	9.1	5.2
	不明	11	1.1		1.8
	N (%ベース)	1043	100.0	1032	

家族構成について、二世帯世帯(親と未婚の子ども)31.3%・夫婦のみ 31.2%・一人暮らし 10.6%・三世帯世帯(祖父母と親と子ども)9.6%・その他の世帯 9.0%・二世帯世帯(親と子ども夫婦)7.3%・不明 1.1%となっています。前回調査より二世帯世帯(親と未婚の子ども)が 6.9%・三世帯世帯(祖父母と親と子ども)が 2.6%減って、夫婦のみが 3.3%・一人暮らしが 3.4%増えています。全国的な傾向がこの調査でも出ています。

⑦ F7. あなたの職業は？

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	自営業	154	14.8	14.9	21.0
2	企業・団体の正社員・正規職員	236	22.6	22.8	29.2
3	企業・団体の契約社員	36	3.5	3.5	
4	公務員	49	4.7	4.7	
5	教職員	11	1.1	1.1	
6	臨時雇用、パート、アルバイト	150	14.4	14.5	9.2
7	家事専業	204	19.6	19.7	14.5
8	無職	97	9.3	9.4	
9	学生	6	0.6	0.6	
10	その他	90	8.6	8.7	
	不明	10	1.0		
	N (%ベース)	1043	100.0	1033	

職業について、企業・団体の正社員・正規職員 22.6%・家事専業 19.6%・自営業 14.8%・臨時雇用、パート、アルバイト

14.4%・無職 9.3%・その他 8.6%・公務員 4.7%・企業・団体の契約社員 3.5%・学生 0.6%・不明 1.0%となっています。前回と分類が異なるので比較しにくいところがありますが、前回調査では雇用者の常勤(フルタイム)が 29.2%、今回調査で正社員正規職員・契約社員・公務員・教職員あわせて 31.9%となります。あまり大きな差はありません。自営業は前回より 6.2%少なくなっています。臨時・パート・アルバイトは前回より 5.2%、家事専門は 5.1%増えています。

F1性別 × F7 職業

		職 業										
		合計	自営	正社員 正規職員	契約 社員	公務 員	教職 員	臨時 パート バイト	家事 専門	無職	学生	その他
性別	全 体	1031	154	236	36	49	10	150	203	97	6	90
		100.0	14.9	22.9	3.5	4.8	1.0	14.5	19.7	9.4	0.6	8.7
	女 性	570	70	85	16	12	5	123	193	21	4	41
		100.0	12.3	14.9	2.8	2.1	0.9	21.6	33.9	3.7	0.7	7.2
	男 性	461	84	151	20	37	5	27	10	76	2	49
		100.0	18.2	32.8	4.3	8.0	1.1	5.9	2.2	16.5	0.4	10.6

女性では、家事専門 33.9%、臨時・パート・アルバイト 21.6%、正社員・正規職員 14.9%、自営 12.3%などとなっています。男性は、正社員・正規職員 32.8%、自営 18.2%、無職 16.5%、その他 10.6%などです。正社員・正規職員が男性では 32.8%に対して女性で 14.9%、臨時・パート・アルバイトが女性で 21.6%に対して男性 5.9%、契約社員が女性 4.3%に対して男性 2.8%と、不安定就業が女性に多いことがわかります。

⑧ F8. あなたは現在どこにお住まいですか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	大分市	402	38.5	39.0
2	別府市	88	8.4	8.5
3	中津市	60	5.8	5.8
4	日田市	57	5.5	5.5
5	佐伯市	61	5.8	5.9
6	臼杵市	34	3.3	3.3
7	津久見市	17	1.6	1.7
8	竹田市	29	2.8	2.8
9	豊後高田市	20	1.9	1.9
10	杵築市	38	3.6	3.7
11	宇佐市	51	4.9	5.0
12	豊後大野市	53	5.1	5.1
13	由布市	34	3.3	3.3
14	国東市	36	3.5	3.5
15	姫島村	2	0.2	0.2
16	日出町	24	2.3	2.3
17	九重町	10	1.0	1.0
18	玖珠町	14	1.3	1.4
	不明	13	1.2	
	N (%へス)	1043	100.0	1030

現在の住所は、大分市 38.5%・別府市 8.4%・中津市 5.8%・日田市 5.5%・佐伯市 5.8%・臼杵市 3.3%・津久見市 1.6%・竹田市 2.8%・豊後高田市 1.9%・杵築市 3.6%・宇佐市 4.9%・豊後大野市 5.1%・由布市 3.3%・国東市 3.5%・

姫島村 0.2%・日出町 2.3%・九重町 1.0%・玖珠町 1.3%・不明 1.2%となっています。

別杵国東地域が今回 18.0%・前回 18.7%、大分臼津関地域が今回 43.4%・前回 43.5%、大野直入地域今回 11.2%・前回 7.0%、県北地域今回 12.7%・前回 13.6%、県南地域今回 5.8%・前回 6.9%、日田玖珠地域今回 7.8%・前回 9.0%となっています。平成の市町村合併前の地域別区分は以下のようになっています。合併によって一部変更もありますが、ほぼ対応する市町村で計算し比較しました。

大分臼津	大分市、臼杵市、津久見市、大分郡、北海部郡
別杵国東	別府市、杵築市、東国東郡、速見郡
大野直入	竹田市、大野郡、直入郡
県北	中津市、豊後高田市、宇佐市、西国東郡、下毛郡、宇佐郡
県南	佐伯市、南海部郡
日田玖珠	日田市、玖珠郡、日田郡

### 3. 男女の意識について

#### 問 1 「男は仕事、女は家庭」などと性別によって役割を固定する考え方について

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査	全国調査
1	同感する	126	12.1	12.4	12.2	41.3
2	同感しない	472	45.3	46.5	43.7	55.1
3	どちらともいえない	400	38.4	39.4	40.0	
4	わからない	16	1.5	1.6	2.2	3.6
	不明	29	2.8		1.9	
	N (%ベース)	1043	100.0	1014		

「男は仕事、女は家庭」についてどう思うかきいたものです。同感しないが 45.3%、どちらともいえない 38.4%、同感する 12.1%、わからない 1.5%、不明 2.8%となっています。同感しないが前回調査より 1.6%増え、どちらともいえない・わからないが少し減っています。同感するはほとんど変化がありません。全国調査では夫は外で働き妻は家庭を守るべきであるについて、賛成 10.6%・まあ賛成 30.7%・わからない 3.6%・どちらかといえば反対 31.3%・反対 23.8%となっており、どちらともいえないがありません。全国より多いか少ないかははっきりとは言えませんが、はっきりと同感しないと断定する人が半数近くになっていることは確かです。

次に、単一選択肢(選択肢を一つだけ選ぶ)の質問について、性別・年齢別・職業別の影響を調べるために、カテゴリデータの回帰分析を行います(Catreg Version 3.0 by Data Theory Scaling System Group DTSS Faculty of Social and Behavioral Science Leiden University, The Netherlands. SPSS Statistics 18)。「男は仕事、女は家庭」の質問を従属変数としてその選択肢に適切なスコアを与え、性別・年齢別・職業別からそのスコアを予測する最適なモデルをつくるものです。モデルの多重相関係数は.208、見かけ上の予測誤差.957で充分信頼できます。性別の標準化係数 $\beta$ は.039・有意確率.258で有意とはいえません。年齢別は $\beta$ .111で有意確率.000で有意。職業は $\beta$ .139で有意確率.000で有意、職業の偏相関.134で重要度.562、年齢の偏相関.106で重要度.399となります。このモデルとの相関係数は.208で充分ではありませんが、3つの変数だけで説明するものとしてはかなりいいものです。このモデルのうち職業が 56.2%、年齢が 39.9%寄与しているということです。性別は有意ではないし、重要ではないということです。表面的な割合だけで関連を判断する危険を避けること、関連の大きさがどのくらいかを数量的に判断することを目的とします。以下、こうした説明を省き結果だけを記述します。

以下の表において、同感するが男性 14.9%・女性 10.2%と差が出ていますが、分析の結果、統計的に有意な差ではありません。職業別で、教職員、公務員、契約社員で同感しないが多く、無職、自営業、その他で同感するが多くなっています。年齢では年齢が高いほど同感するが多い傾向にあり、若いほど同感しないが多い傾向にあります。

%		問1 「男は仕事、女は家庭」				
		合計	1.同感する	2.同感しない	3.どちらともいえない	4.わからない
F1. あなたの性別は	全体	1011	12.3	46.6	39.6	1.6
	1 女性	560	10.2	47.1	40.7	2.0
	2 男性	451	14.9	45.9	38.1	1.1
F2 年齢	全体	1012	12.4	46.5	39.5	1.6
	1. 20～29 歳	78	11.5	50.0	35.9	2.6
	2. 30～39 歳	159	8.8	45.9	43.4	1.9
	3. 40～49 歳	165	6.1	53.9	38.2	1.8
	4. 50～59 歳	188	11.7	48.9	38.3	1.1
	5. 60～69 歳	242	11.6	44.2	43.4	0.8
	6. 70 歳以上	180	23.3	39.4	35.0	2.2
F7. あなたの職業は	全体	1007	12.4	46.6	39.4	1.6
	1. 自営業	151	15.2	47.7	37.1	—
	2. 正社員・正規職員	232	11.6	47.4	40.5	0.4
	3. 契約社員	34	5.9	50.0	41.2	2.9
	4. 公務員	48	8.3	60.4	31.3	—
	5. 教職員	11	9.1	81.8	9.1	—
	6. 臨時、パート、バイト	146	4.8	54.1	40.4	0.7
	7. 家事専業	196	13.8	40.8	43.4	2.0
	8. 無職	95	20.0	45.3	30.5	4.2
	9. 学生	6	—	33.3	50.0	16.7
10. その他	88	17.0	31.8	46.6	4.5	

## 問 2 次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

### a. 家庭生活

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査	全国調査
1	男性の方が非常に優遇されている	109	10.5	10.8	13.6	7.8
2	どちらかというと男性の方が優遇	496	47.6	49.0	51.4	38.7
3	平等である	292	28.0	28.9	22.3	43.1
4	どちらかというと女性の方が優遇	49	4.7	4.8	4.5	6.7
5	女性の方が非常に優遇	7	0.7	0.7	0.7	1.7
6	分からない	59	5.7	5.8	3.8	1.9
	不明	31	3.0		3.7	
	N (%ベース)	1043	100.0	1012		

家庭生活で男女は平等になっているでしょうかという質問について、どちらかというと男性の方が非常に優遇 10.5%、どちらかといえば男性の方が優遇 47.9%、平等 28.0%、どちらかといえば女性が優遇 4.7%、女性が非常に優遇 0.7%、わからない 5.7%、不明 3.0%となっています。前回調査に比べ男性が非常に優遇が 2.8%、どちらかといえば男性が優遇が 3.8%減って、平等が 5.7%増えています。すこし家庭生活上で平等になったとする人が増えています。全国調査と比べると(不明を除く%)、男性が非常に優遇が 3.0%、どちらかといえば男性が優遇が 10.3%少なく、平等が 14.7%少なくなっています。

年齢・性別・職業で有意な関連があります。年齢と性別の重要度が高いです。女性で男性が非常に優遇されているが多く、男性で平等であるが多くなっています。年齢が高い方が平等である・どちらかといえば男性が優遇が多くなっています。臨時・パート・アルバイトで男性が非常に優遇が多く、公務員・無職で平等が多くなっています。

%		a. 家庭生活において男女の地位は平等になっていると思いますか						
		合計	1.男性の方が非常に優遇されている	2.どちらかというと男性の方が優遇	3.平等である	4.どちらかというと女性の方が優遇	5.女性の方が非常に優遇	6.分からない
F1. あなたの性別は	全体	1009	10.8	49.0	28.8	4.9	0.7	5.8
	1 女性	554	15.0	52.5	21.3	4.0	1.1	6.1
	2 男性	455	5.7	44.6	38.0	5.9	0.2	5.5
F2 年齢	全体	1010	10.8	48.9	28.9	4.9	0.7	5.8
	1. 20～29 歳	78	11.5	34.6	23.1	10.3	1.3	19.2
	2. 30～39 歳	160	4.4	45.6	33.1	5.6	1.9	9.4
	3. 40～49 歳	164	13.4	46.3	29.3	4.3	—	6.7
	4. 50～59 歳	190	16.8	54.2	23.2	4.2	0.5	1.1
	5. 60～69 歳	242	11.2	55.0	26.9	2.9	0.4	3.7
	6. 70 歳以上	176	6.8	46.6	36.4	5.7	0.6	4.0
F7. あなたの職業は	全体	1004	10.8	49.0	29.0	4.8	0.7	5.8
	自営業	151	12.6	51.7	30.5	4.0	0.7	0.7
	正社員	234	9.4	43.2	32.1	6.4	0.4	8.5
	契約社員	35	5.7	51.4	22.9	8.6	—	11.4
	公務員	48	8.3	45.8	39.6	—	—	6.3
	教職員	11	9.1	54.5	36.4	—	—	—
	臨時、パート、アルバイト	144	16.0	47.2	24.3	6.3	0.7	5.6
	家事専業	193	10.9	57.0	22.8	3.1	1.6	4.7
	無職	95	6.3	50.5	33.7	3.2	1.1	5.3
	学生	6	—	50.0	33.3	—	—	16.7
	その他	87	11.5	43.7	29.9	6.9	—	8.0

b. 職場

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査	全国調査
1	1.男性の方が非常に優遇されている	172	16.5	17.4	16.2	15.6
2	2.どちらかというと男性の方が優遇	492	47.2	49.6	45.4	46.5
3	3.平等である	205	19.7	20.7	18.3	24.4
4	4.どちらかというと女性の方が優遇	46	4.4	4.6	5.2	4.4
5	5.女性の方が非常に優遇	7	0.7	0.7	0.7	0.9
6	6.分からない	69	6.6	7.0	7.5	8.1
	不明	52	5.0		6.7	
	N (%ベース)	1043	100.0	991		

職場では男女は平等になっているかという質問について、どちらかというと男性の方が非常に優遇 16.5%、どちらかといえば男性の方が優遇 47.2%、平等 19.7%、どちらかといえば女性が優遇 4.4%、女性が非常に優遇 0.7%、わからない 6.6%。不明 5.0%となっています。前回調査とほとんど変わりませんが、どちらかといえば男性が優遇が 1.8%増えています。全国とあまり差はありませんが、男性が優遇が少し多く、平等が少し少ないようです。

%		b. 職場において男女の地位は平等になっていると思いますか						
		合計	1.男性の方が非常に優遇されている	2.どちらかというと男性の方が優遇	3.平等である	4.どちらかというと女性の方が優遇	5.女性の方が非常に優遇	6.分からない
F1. あなたの性別は	全体	989	17.4	49.7	20.5	4.7	0.7	7.0
	1 女性	538	21.0	50.2	15.8	3.0	0.6	9.5
	2 男性	451	13.1	49.2	26.2	6.7	0.9	4.0
F2 年齢	全体	990	17.4	49.7	20.6	4.6	0.7	7.0
	1. 20～29 歳	78	20.5	34.6	28.2	7.7	2.6	6.4
	2. 30～39 歳	160	18.1	41.3	26.9	5.0	1.9	6.9
	3. 40～49 歳	164	18.3	52.4	17.1	4.9	—	7.3
	4. 50～59 歳	189	19.0	50.8	18.5	5.8	0.5	5.3
	5. 60～69 歳	236	14.8	55.1	20.3	4.2	—	5.5
	6. 70 歳以上	163	16.0	53.4	17.2	1.8	0.6	11.0
F7. あなたの職業は	全体	983	17.5	49.5	20.7	4.7	0.7	6.9
	自営業	140	17.9	46.4	23.6	7.1	—	5.0
	正社員	235	18.3	47.7	22.1	5.5	2.1	4.3
	契約社員	36	11.1	44.4	27.8	11.1	—	5.6
	公務員	48	8.3	37.5	39.6	10.4	2.1	2.1
	教職員	11	9.1	18.2	72.7	—	—	—
	臨時、パート、アルバイト	143	20.3	53.1	20.3	2.8	—	3.5
	家事専業	187	19.3	53.5	10.2	2.7	—	14.4
	無職	94	9.6	59.6	19.1	4.3	—	7.4
	学生	6	16.7	33.3	33.3	—	—	16.7
	その他	83	24.1	48.2	15.7	1.2	1.2	9.6

職業・性別・年齢で有意な関連がでています。臨時・パート・アルバイトと専業主婦で男性が非常に優遇が多くとどちらかといえば男性が優遇が多くなっています。若い人で男性が非常に優遇、年配でどちらかといえば男性が優遇が多い傾向にあります。女性で男性が非常に優遇、男性で平等が多くなっています。

c. 学校教育において

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査	全国調査
1	1.男性の方が非常に優遇されている	27	2.6	2.8	2.6	1.9
2	2.どちらかというと男性の方が優遇	125	12.0	12.8	13.4	12.0
3	3.平等である	621	59.5	63.6	53.7	68.1
4	4.どちらかというと女性の方が優遇	32	3.1	3.3	3.7	3.9
5	5.女性の方が非常に優遇	6	0.6	0.6	0.6	0.9
6	6.分からない	166	15.9	17.0	18.8	13.1
	不明	66	6.3		7.1	
	N (%ベース)	1043	100.0	977		

学校教育では男女は平等になっているのでしょうかという質問について、どちらかというと男性の方が非常に優遇 2.6%、どちらかといえば男性の方が優遇 12.0%、平等 59.5%、どちらかといえば女性が優遇 3.1%、女性が非常に優遇 0.6%、わからない 15.9%。不明 6.3%となっています。前回調査とほとんど変わりませんが、平等が5.8%増えています。全国とは、平等が少し少ないようです。

%		c. 学校教育において男女の地位は平等になっていると思いますか						
		合計	1.男性の方が非常に優遇されている	2.どちらかというとなりの方が優遇	3.平等である	4.どちらかというとなりの女性が優遇	5.女性の方が非常に優遇	6.分からない
F1. あなたの性別は	全体	974	2.8	12.8	63.4	3.3	0.6	17.0
	女性	531	3.4	14.1	61.0	2.4	0.6	18.5
	男性	443	2.0	11.3	66.4	4.3	0.7	15.3
F2 年齢	全体	975	2.8	12.8	63.5	3.3	0.6	17.0
	20～29 歳	78	3.8	14.1	57.7	7.7	2.6	14.1
	30～39 歳	158	3.2	9.5	63.3	2.5	—	21.5
	40～49 歳	162	2.5	13.6	66.0	2.5	0.6	14.8
	50～59 歳	187	1.1	12.8	68.4	2.7	—	15.0
	60～69 歳	233	3.0	13.3	59.7	3.0	1.3	19.7
	70 歳以上	157	3.8	14.0	63.7	3.8	—	14.6
F7. あなたの職業は	全体	970	2.8	12.7	63.5	3.3	0.6	17.1
	自営業	138	4.3	15.9	63.0	1.4	0.7	14.5
	正社員	232	1.3	9.5	67.2	4.7	1.3	15.9
	契約社員	35	—	17.1	45.7	5.7	—	31.4
	公務員	47	2.1	10.6	70.2	2.1	—	14.9
	教職員	11	—	—	100.0	—	—	—
	臨時、パート、アルバイト	141	4.3	12.1	58.9	5.0	0.7	19.1
	家事専業	187	2.1	15.0	61.0	2.7	—	19.3
	無職	92	—	15.2	69.6	2.2	1.1	12.0
	学生	6	16.7	16.7	50.0	—	—	16.7
	その他	81	7.4	9.9	60.5	2.5	—	19.8

職業と年齢が関連しています。公務員と無職で平等が多く、契約社員・学生でどちらかといえば男性が優遇が多いようです。年配の方が平等が多く、若い人でどちらかといえば男性が優遇が多いようです。

d. 政治の場において

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査	全国調査
1	1.男性の方が非常に優遇されている	245	23.5	24.7	28.3	23.7
2	2.どちらかというとなりの男性の方が優遇	431	41.3	43.4	39.3	48.1
3	3.平等である	190	18.2	19.2	15.0	21.0
4	4.どちらかというとなりの女性が優遇	9	0.9	0.9	1.1	1.9
5	5.女性の方が非常に優遇	1	0.1	0.1	0.1	0.3
6	6.分からない	116	11.1	11.7	10.0	5.1
	不明	51	4.9		6.2	
	N (%ベース)	1043	100.0	992		

政治の場では男女は平等になっているのでしょうかという質問について、どちらかというとなりの男性の方が非常に優遇 23.5%、どちらかといえば男性の方が優遇 41.3%、平等 18.2%、どちらかといえば女性が優遇 0.9%、女性が非常に優遇 0.1%、わからない 11.1%、不明 4.9%となっています。前回調査より男性が非常に優遇が少し減って平等が少し増えています。全国調査と比べどちらかといえば男性が優遇が少し多いようです。

%		d. 政治の場において男女の地位は平等になっていると思いますか						
		合計	1.男性の方が非常に優遇されている	2.どちらかというと男性の方が優遇	3.平等である	4.どちらかというと女性の方が優遇	5.女性の方が非常に優遇	6.分からない
F1. あなたの性別は	全体	989	24.8	43.4	19.1	0.9	0.1	11.7
	女性	541	31.6	41.4	11.6	1.1	—	14.2
	男性	448	16.5	45.8	28.1	0.7	0.2	8.7
F2. 年齢	全体	990	24.7	43.4	19.1	0.9	0.1	11.7
	20～29歳	78	34.6	37.2	6.4	1.3	1.3	19.2
	30～39歳	160	33.1	40.6	11.9	0.6	—	13.8
	40～49歳	164	28.7	47.6	16.5	0.6	—	6.7
	50～59歳	190	24.2	46.8	19.5	0.5	—	8.9
	60～69歳	235	20.0	44.3	24.3	0.9	—	10.6
	70歳以上	163	15.3	39.9	27.0	1.8	—	16.0
F7. あなたの職業は	全体	984	24.8	43.4	19.2	0.9	0.1	11.6
	自営業	140	22.1	44.3	25.7	—	—	7.9
	正社員	235	21.3	47.2	19.6	0.9	0.4	10.6
	契約社員	35	22.9	42.9	17.1	—	—	17.1
	公務員	48	25.0	47.9	20.8	—	—	6.3
	教職員	11	45.5	45.5	9.1	—	—	—
	臨時、パート、アルバイト	143	35.7	41.3	10.5	0.7	—	11.9
	家事専業	191	26.7	43.5	11.5	2.6	—	15.7
	無職	93	12.9	47.3	30.1	1.1	—	8.6
	学生	6	66.7	—	16.7	—	—	16.7
	その他	82	24.4	30.5	29.3	—	—	15.9

性別・年齢別・職業別で関連があります。女性で男性が非常に優遇が多く、男性で平等が多くなっています。年齢が若い方が男性が非常に優遇が多く、年配の方が平等が多くなっています。教職員・学生・臨時・パート・アルバイトで男性が非常に優遇が多く、無職で平等が多くなっています。

e. 法律や制度の上において

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査	全国調査
1	1.男性の方が非常に優遇されている	84	8.1	8.6	10.3	7.8
2	2.どちらかというと男性の方が優遇	309	29.6	31.5	28.1	33.5
3	3.平等である	385	36.9	39.3	33.2	44.4
4	4.どちらかというと女性の方が優遇	55	5.3	5.6	5.7	6.5
5	5.女性の方が非常に優遇	5	0.5	0.5	1.0	0.9
6	6.分からない	142	13.6	14.5	15.1	6.9
	不明	63	6.0		6.7	
	N (%ベース)	1043	100.0	980		

法律や制度の上では男女は平等になっているでしょうかという質問について、どちらかというと男性の方が非常に優遇 8.1%、どちらかといえば男性の方が優遇 29.6%、平等 36.9%、どちらかといえば女性が優遇 5.3%、女性が非常に優遇 0.5%、わからない 13.6%。不明 6.0%となっています。前回調査より男性が非常に優遇が少し減って平等が少し増えています。全国調査と比べどちらかといえば平等が少し少ないようです。

%		e. 法律や制度の上において男女の地位は平等になっていると思いますか						
		合計	1.男性の方が非常に優遇されている	2.どちらかというとなりの方が優遇	3.平等である	4.どちらかというとなりの女性が優遇	5.女性の方が非常に優遇	6.分からない
F1. あなたの性別は	全体	977	8.6	31.3	39.4	5.6	0.5	14.5
	女性	532	12.0	35.2	29.3	4.3	0.4	18.8
	男性	445	4.5	26.7	51.5	7.2	0.7	9.4
F2 年齢	全体	978	8.6	31.4	39.4	5.6	0.5	14.5
	20～29 歳	77	11.7	32.5	24.7	5.2	2.6	23.4
	30～39 歳	159	11.9	23.3	37.7	8.2	0.6	18.2
	40～49 歳	163	11.7	37.4	31.3	7.4	0.6	11.7
	50～59 歳	187	8.6	32.6	38.5	5.9	—	14.4
	60～69 歳	235	4.3	31.5	49.8	3.4	0.4	10.6
	70 歳以上	157	7.0	31.2	42.0	4.5	—	15.3
F7. あなたの職業は	全体	973	8.6	31.2	39.6	5.7	0.5	14.4
	自営業	140	8.6	30.0	47.1	2.9	—	11.4
	正社員	233	9.4	27.9	38.2	9.4	0.9	14.2
	契約社員	35	8.6	22.9	48.6	2.9	—	17.1
	公務員	47	4.3	38.3	42.6	8.5	—	6.4
	教職員	11	—	54.5	45.5	—	—	—
	臨時、パート、アルバイト	141	17.0	27.0	33.3	5.7	1.4	15.6
	家事専業	186	5.9	37.6	32.8	2.2	0.5	21.0
	無職	92	2.2	34.8	46.7	6.5	—	9.8
	学生	6	—	16.7	66.7	—	—	16.7
	その他	82	9.8	29.3	40.2	7.3	—	13.4

性別・年齢別・職業別で関連があります。女性で男性が非常に優遇・どちらかといえば男性が優遇が多く、男性で平等が多いようです。若い人で男性が非常に優遇が多く、年配の人で平等が多くなっています。臨時・パート・アルバイトで男性が非常に優遇が多く、教職員・公務員・家事専業でどちらかといえば男性が優遇が多くなっています。

f. 社会通念・慣習・しきたりにおいて

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査	全国調査
1	男性の方が非常に優遇されている	221	21.2	22.3	23.2	18.7
2	どちらかというとなりの男性の方が優遇	556	53.3	56.0	52.2	53.2
3	平等である	117	11.2	11.8	9.0	20.6
4	どちらかというとなりの女性が優遇	21	2.0	2.1	2.3	3.4
5	女性の方が非常に優遇	2	0.2	0.2	0.2	0.5
6	分からない	75	7.2	7.6	6.6	3.6
	不明	51	4.9		6.5	
	N (%ベース)	1043	100.0	992		

社会通念・慣習・しきたりにおいて男女は平等になっているのでしょうかという質問について、どちらかというとなりの男性の方が非常に優遇 21.2%、どちらかといえば男性の方が優遇 53.3%、平等 11.2%、どちらかといえば女性が優遇 2.1%、女性が非常に優遇 0.2%、わからない 7.2%、不明 4.9%となっています。前回調査とほとんど変わりません。全国調査と比べ平等が少し少なく男性が優遇が少し多いようです。

%		f. 社会通念・慣習・しきたりにおいて男女の地位は平等になっていると思いますか						
		合計	1.男性の方が非常に優遇されている	2.どちらかというと男性の方が優遇	3.平等である	4.どちらかというと女性の方が優遇	5.女性の方が非常に優遇	6.分からない
F1. あなたの性別は	全体	989	22.2	56.0	11.8	2.1	0.2	7.6
	1 女性	541	28.5	51.6	9.1	2.0	0.2	8.7
	2 男性	448	14.7	61.4	15.2	2.2	0.2	6.3
F2 年齢	全体	990	22.2	56.1	11.8	2.1	0.2	7.6
	20～29 歳	78	33.3	34.6	11.5	2.6	1.3	16.7
	30～39 歳	160	23.1	51.9	11.9	1.3	—	11.9
	40～49 歳	163	30.1	54.6	9.8	0.6	0.6	4.3
	50～59 歳	190	20.5	62.6	8.4	1.6	—	6.8
	60～69 歳	238	17.2	62.2	13.9	2.9	—	3.8
	70 歳以上	161	17.4	55.3	14.9	3.7	—	8.7
F7. あなたの職業は	全体	984	22.3	56.1	11.8	2.1	0.2	7.5
	自営業	140	20.7	62.1	11.4	2.1	0.7	2.9
	正社員	235	20.0	56.6	11.9	1.7	0.4	9.4
	契約社員	35	14.3	60.0	11.4	5.7	—	8.6
	公務員	48	20.8	66.7	6.3	—	—	6.3
	教職員	11	54.5	36.4	9.1	—	—	—
	臨時、パート、アルバイト	142	33.8	48.6	11.3	2.8	—	3.5
	家事専業	190	23.7	53.7	10.0	1.6	—	11.1
	無職	93	11.8	64.5	18.3	3.2	—	2.2
	学生	6	16.7	33.3	16.7	—	—	33.3
	その他	84	20.2	50.0	13.1	2.4	—	14.3

年齢・性別・職業の順で有意な関連があります。若い人で男性が非常に優遇が多く、年配の人でどちらかといえば男性が優遇が多くなっています。女性で男性が非常に優遇が多く、男性でどちらかといえば男性が優遇が多くなっています。教職員、臨時・パート・アルバイトで男性が非常に優遇が多く、公務員、無職、自営業でどちらかといえば男性が優遇が多くなっています。

g. 社会全体において

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査	全国調査
1	男性の方が非常に優遇されている	108	10.4	10.8	11.5	9.7
2	どちらかというと男性の方が優遇	615	59.0	61.7	58.6	61.9
3	平等である	150	14.4	15.0	12.2	23.2
4	どちらかというと女性の方が優遇	39	3.7	3.9	3.6	3.4
5	女性の方が非常に優遇	8	0.8	0.8	0.3	0.3
6	分からない	77	7.4	7.7	8.0	1.6
	不明	46	4.4		5.8	
	N (%ベース)	1043	100.0	997		

社会全体において男女は平等になっているでしょうかという質問について、どちらかというと男性の方が非常に優遇 10.4%、どちらかといえば男性の方が優遇 59.0%、平等 14.4%、どちらかといえば女性が優遇 3.7%、女性が非常に優遇 0.8%、わからない 7.4%不明 4.4%となっています。前回調査とほとんど変わりません。全国調査と比べ平等が少し少ないようです。

%		g. 社会全体において男女の地位は平等になっていると思いますか						
		合計	1.男性の方が非常に優遇されている	2.どちらかというとなりの方が優遇	3.平等である	4.どちらかというとなりの女性が優遇	5.女性の方が非常に優遇	6.分からない
F1. あなたの性別は	全体	994	10.9	61.7	15.0	3.9	0.8	7.7
	1 女性	543	13.6	62.6	10.5	3.3	0.6	9.4
	2 男性	451	7.5	60.5	20.4	4.7	1.1	5.8
F2 年齢	全体	995	10.9	61.7	15.0	3.9	0.8	7.7
	20～29 歳	78	16.7	53.8	15.4	3.8	2.6	7.7
	30～39 歳	160	11.9	56.9	15.0	6.3	0.6	9.4
	40～49 歳	163	7.4	70.6	11.7	2.5	—	8.0
	50～59 歳	190	10.5	68.9	10.5	3.2	—	6.8
	60～69 歳	239	10.0	65.3	15.1	4.6	0.8	4.2
	70 歳以上	165	12.1	47.9	23.0	3.0	1.8	12.1
F7. あなたの職業は	全体	989	10.6	61.9	15.2	3.8	0.8	7.7
	自営業	142	14.1	66.2	12.0	2.1	0.7	4.9
	正社員	235	9.8	63.8	14.0	3.8	1.3	7.2
	契約社員	35	5.7	71.4	14.3	2.9	—	5.7
	公務員	48	8.3	68.8	14.6	2.1	—	6.3
	教職員	11	—	90.9	9.1	—	—	—
	臨時、パート、アルバイト	143	14.0	59.4	16.1	4.2	—	6.3
	家事専業	188	9.6	60.1	12.2	5.9	0.5	11.7
	無職	95	6.3	52.6	29.5	3.2	—	8.4
	学生	6	—	50.0	33.3	—	—	16.7
	その他	86	14.0	57.0	12.8	4.7	3.5	8.1

性別・職業・年齢の順で関連がでています。女性で男性が非常に優遇が多く、男性で平等が多くなっています。若い人で男性が非常に優遇が多く、年配の人で平等が多くなっています。臨時・パート・アルバイトで男性が非常に優遇が多く、公務員、自営業でどちらかといえば男性が優遇が多くなっています。無職で平等が多くなっています。

#### 全体の比較

No.	カテゴリ	家庭	職場	学校	政治	法律	慣習	社会
1	男性の方が非常に優遇されている	10.8	17.4	2.8	24.7	8.6	23.2	10.8
2	どちらかというとなりの男性の方が優遇	49.0	49.6	12.8	43.4	31.5	56.0	61.7
3	平等である	28.9	20.7	63.6	19.2	39.3	11.8	15.0
4	どちらかというとなりの女性が優遇	4.8	4.6	3.3	0.9	5.6	2.1	3.9
5	女性の方が非常に優遇	0.7	0.7	0.6	0.1	0.5	0.2	0.8
6	分からない	5.8	7.0	17.0	11.7	14.5	7.6	7.7

各領域について、不明を除いた割合で比較しました。もっとも平等と考えられているのが学校教育 63.6%で、これだけが半数を超えています。次は法律や制度の上ではの 39.3%です。逆に、男性が優遇されていると感じられているのが、社会通念・慣習・しきたりにおいては(非常に・どちらかといえば合わせ 79.2%)、社会全体(72.5%)、政治の場(68.1%)、職場(67.0%)、家庭生活(59.8%)となっています。

問 3 あなたの家庭では以下の役割分担を誰がしていますか。

※ 次に家庭内の役割分担について、配偶者がいると答えた人 775 人に、現状と理想をきいています。

① 家計の管理(現状)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫	121	15.6	16.1	13.8
2	主に妻	487	62.8	64.8	67.1
3	夫婦共同で	134	17.3	17.8	14.5
4	主に父	2	0.3	0.3	0.2
5	主に母	3	0.4	0.4	0.5
6	その他	4	0.5	0.5	0.2
	不明	24	3.1		3.7
	N (%ベース)	775	100.0	751	

家計の管理(理想)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫	52	6.7	7.6	5.5
2	主に妻	294	37.9	43.2	39.2
3	夫婦共同で	328	42.3	48.2	42.6
4	主に父	-	-	-	0.1
5	主に母	1	0.1	0.1	0.2
6	その他	5	0.6	0.7	0.6
	不明	95	12.3		11.9
	N (%ベース)	775	100.0	680	

家計の管理について、現状では、主に妻が 62.8%、夫婦共同で 17.3%、主に夫 16.1%、主に母 0.4%、主に父 0.3%、その他 0.5%、不明 3.1%となっています。理想では、夫婦共同が 42.3%と最も多く、次いで主に妻が 37.9%、主に夫 6.7%、主に母 0.1%、その他 0.6%、不明 12.3%となっています。現状について、前回調査と比べ主に妻が少し減って夫婦共同が少し増えています。理想については変化がありません。

家計の管理の現状では、職業だけが有意な関連があります。臨時・パート・アルバイトで主として妻が 71.4%、契約社員で 71.4%、家事専業で 70.4%、正社員で 70.9%と多く、教職員、公務員、自営業で夫婦共同でが多くなっています。

家計の管理理想では、職業と年齢が関連しています。自営業で主に夫が多く、契約社員、正社員で主に妻が、教職員、公務員、自営業で夫婦共同でが多くなっています。

① 食料品などの買い物(現状)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫	19	2.5	2.5	1.8
2	主に妻	580	74.8	77.1	79.7
3	夫婦共同で	142	18.3	18.9	13.8
4	主に父	1	0.1	0.1	0.1
5	主に母	5	0.6	0.7	0.8
6	その他	5	0.6	0.7	0.5
	不明	23	3.0		3.3
	N (%ベース)	775	100.0	752	

食料品などの買い物(理想)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫	2	0.3	0.3	0.2
2	主に妻	316	40.8	46.7	44.7
3	夫婦共同で	351	45.3	51.8	42.2
4	主に父				
5	主に母	2	0.3	0.3	0.2
6	その他	6	0.8	0.9	0.4
	不明	98	12.6		12.3
	N (%ベース)	775	100.0	677	

食料品などの買い物について、現状では、主に妻が74.8%、夫婦共同で18.3%、主に夫2.5%、主に母0.6%、主に父0.1%、その他0.6%、不明3.0%となっています。理想では、夫婦共同が45.3%と最も多く、次いで主に妻が40.8%、主に夫0.3%、主に母0.3%、その他0.8%、不明12.6%となっています。現状について、前回調査と比べ主に妻が少し減って夫婦共同が少し増えています。理想についても主に妻が減って夫婦共同でが少し増えています。

現状では、年齢と職業で関連がでています。若い人ほど主に妻が多く、20歳代では90.5%となっています。年配で夫婦共同が多く、60歳代で20.2%、70歳以上で27.8%となっています。教職員87.5%・契約社員81.0%・家事専業81.1%と主に妻が多く、自営業で夫婦共同で23.1%と多くなっています。

理想では、職業と年齢で関連がでています。主に妻が正社員で55.7%、家事専業で51.1%と多く、夫婦共同でが公務員で69.2%、契約社員で61.9%と多くなっています。

② 食事のしたく(現状)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫	6	0.8	0.8	0.6
2	主に妻	689	88.9	91.1	89.5
3	夫婦共同で	47	6.1	6.2	5.0
4	主に父	1	0.1	0.1	
5	主に母	9	1.2	1.2	1.1
6	その他	4	0.5	0.5	0.6
	不明	19	2.5		3.2
	N (%ベース)	775	100.0	756	

食事のしたく(理想)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫	2	0.3	0.3	0.1
2	主に妻	343	44.3	50.4	46.4
3	夫婦共同で	319	41.2	46.9	39.4
4	主に父	-	-	-	0.1
5	主に母	5	0.6	0.7	0.2
6	その他	11	1.4	1.6	1.2
	不明	95	12.3		12.7
	N (%ベース)	775	100.0	680	

食事のしたくについて、現状では、主に妻が88.9%、夫婦共同で6.1%、主に夫0.8%、主に母1.2%、主に父0.1%、その他0.5%、不明2.5%となっています。理想では、主に妻が44.3%、夫婦共同が41.2%と多く、主に夫0.3%、主に母0.7%、その他1.4%、不明12.3%となっています。現状、理想ともに前回とほとんど変化がありません。

食事のしたくの現状では、職業と年齢で有意な関連があります。家事専業で主に妻が96.9%と高く、公務員で夫婦共同が15.0%と高くなっています。年配ほど主に妻が多く、若い人ほど夫婦共同が多くなっています。

食事のしたく理想では、性別・年齢・職業で有意な関連がでています。主に妻が女性で 44.9%、男性で 56.7%、夫婦共同でが女性 51.7%に対して、男性 41.5%となっています。年配ほど主に妻が多く、若い人ほど夫婦共同でが多くなっています。正社員で主に妻が 55.0%と多く、教職員・公務員で夫婦共同でが多くなっています。

③ 食事の片付け(現状)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫	12	1.5	1.6	1.7
2	主に妻	638	82.3	85.0	83.2
3	夫婦共同で	88	11.4	11.7	10.1
4	主に父	2	0.3	0.3	0.2
5	主に母	5	0.6	0.7	0.7
6	その他	6	0.8	0.8	0.8
	不明	24	3.1		3.3
	N (%へ入)	775	100.0	751	

食事の片付け(理想)

問3 理想 食事の片づけ (SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫	9	1.2	1.3	0.9
2	主に妻	235	30.3	34.9	32.5
3	夫婦共同で	413	53.3	61.3	51.5
4	主に父	2	0.3	0.3	0.1
5	主に母	2	0.3	0.3	0.2
6	その他	13	1.7	1.9	2.2
	不明	101	13.0		12.6
	N (%へ入)	775	100.0	674	

食事の片づけについて、現状では、主に妻が 82.3%と最も多く、夫婦共同で 11.4%、主に夫 1.5%、主に母 0.6%、主に父 0.3%、その他 0.8%、不明 3.1%となっています。理想では、夫婦共同が 53.3%と最も多く、次いで主に妻が 30.3%、主に夫 1.2%、主に母 0.3%、主に父 0.3%、その他 1.7%、不明 13.0%となっています。現状、理想ともに前回とほとんど変化がありません。

食事の後片付けの現状では、職業と年齢で有意な関連がでています。主に妻が契約社員で 95.0%、家事専業で 90.2%と多く、夫婦共同でが教職員 25.0%・公務員 20.0%と多くなっています。若い人ほど夫婦共同でが多くなっています。

食事の後片付けの理想では、性別・職業・年齢で関連があります。主に妻が男性 40.7%・女性 29.7%、夫婦共同でが男性 56.5%・女性 65.4%となっています。主に妻が正社員で 41.1%・契約社員で 40.0%と多く、夫婦共同が公務員 76.9%・教職員 75.0%・臨時・パート・アルバイト 70.0%で多くなっています。

④ 掃除・洗濯(現状)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫	10	1.3	1.3	0.9
2	主に妻	624	80.5	83.6	82.1
3	夫婦共同で	98	12.6	13.1	11.6
4	主に父	1	0.1	0.1	0.1
5	主に母	9	1.2	1.2	1.1
6	その他	4	0.5	0.5	0.9
	不明	29	3.7		3.2
	N (%へ入)	775	100.0	746	

掃除・洗濯(理想)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫	3	0.4	0.4	0.2
2	主に妻	247	31.9	36.9	33.7
3	夫婦共同で	404	52.1	60.4	50.4
4	主に父		-	-	0.2
5	主に母	4	0.5	0.6	0.2
6	その他	11	1.4	1.6	2.0
	不明	106	13.7		13.3
	N (%ベース)	775	100.0	669	

掃除・洗濯について、現状では、主に妻が 80.5%、夫婦共同で 12.6%、主に夫 1.3%、主に母 1.2%、主に父 0.1%、その他 0.5%、不明 3.7%となっています。理想では、夫婦共同が 52.1%と最も多く、次いで主に妻が 31.9%、主に夫 0.4%、主に母 0.5%、その他 1.4%、不明 13.7%となっています。現状、理想ともに前回とほとんど変化がありません。

掃除・洗濯の現状では、性別・年齢・職業で有意な関連がでています。主に妻が女性で 88.9%・男性 78.3%、夫婦共同が女性 8.3%・男性 18.1%となっています。主に妻が年配で多く、若い人で夫婦共同が多くなっています。家事専業で主に妻が 90.7%と多く、夫婦共同が正社員 19.7%・公務員 17.5%・無職 19.1%が多いようです。

理想では、職業だけで関連がでています。主として妻が自営業で 46.0%・家事専業で 41.9%と多く、夫婦共同では教職員 87.5%・公務員 74.4%・契約社員 66.7%・臨時・パート・アルバイト 68.4%が多くなっています。

#### ⑥ 育児(乳幼児の世話) 現状

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫	3	0.4	0.6	
2	主に妻	379	48.9	71.4	51.4
3	夫婦共同で	111	14.3	20.9	13.9
4	主に父				
5	主に母	6	0.8	1.1	0.5
6	その他	32	4.1	6.0	2.4
	不明	244	31.5		31.8
	N (%ベース)	775	100.0	531	

#### 育児(乳幼児の世話) 理想

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫				0.2
2	主に妻	118	15.2	21.9	14.0
3	夫婦共同で	411	53.0	76.1	53.4
4	主に父		-		
5	主に母	1	0.1	0.2	0.2
6	その他	10	1.3	1.9	1.4
	不明	235	30.3		31.0
	N (%ベース)	775	100.0	540	

育児(乳幼児の世話)について、現状では、主に妻が 48.9%、夫婦共同で 14.3%、主に夫 0.4%、主に母 0.8%、その他 4.1%、不明 31.5%となっています。理想では、夫婦共同が 53.0%と最も多く、次いで主に妻が 21.9%、主に夫 0%、主に母 0.1%、その他 1.3%、不明 30.3%となっています。現状、理想ともに前回とほとんど変化がありません。

乳幼児の世話の現状では、年齢と職業で有意な関連があります。若い人で夫婦共同が多く 20 歳代では 46.7%・30 歳代で 34.0%になります。主に妻が臨時・パート・アルバイト 79.8%、自営業 78.2%と多く、夫婦共同が公務員で 38.2%・教職員 33.3%・契約社員 28.6%・正社員 26.2%と多くなっています。

理想では性別・職業別・年齢別で関連があります。主に妻が女性 12.9%・男性 31.7%、夫婦共同でが女性 85.7%・男性 65.6%と異なっています。20歳はやや異なりますが30歳代以上では年齢が高いほど主として妻が多く、若いほど夫婦共同が多くなっています。無職・自営業で主として妻が多く、臨時・パート・アルバイト、教職員、公務員、契約社員で夫婦共同が多くなっています。

⑦ 子どもの教育としつけ(現状)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫	14	1.8	2.5	1.1
2	主に妻	261	33.7	46.5	36.1
3	夫婦共同で	259	33.4	46.2	31.0
4	主に父				0.2
5	主に母	4	0.5	0.7	0.2
6	その他	23	3.0	4.1	2.2
	不明	214	27.6		29.2
	N (%ベース)	775	100.0	561	

子どもの教育としつけ(理想)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫	9	1.2	1.6	1.0
2	主に妻	47	6.1	8.4	5.4
3	夫婦共同で	496	64.0	88.7	62.5
4	主に父	1	0.1	0.2	
5	主に母	1	0.1	0.2	0.2
6	その他	5	0.6	0.9	1.5
	不明	216	27.9		29.4
	N (%ベース)	775	100.0	559	

子どもの教育としつけについて、現状では、主に妻が 33.7%、夫婦共同で 33.4%、主に夫 1.8%、主に母 0.5%、その他 3.0%、不明 27.6%となっています。理想では、夫婦共同が 64.0%と最も多く、次いで主に妻が 6.1%、主に夫 1.2%、主に母 0.1%、主に父 0.1%、その他 0.6%、不明 27.9%となっています。現状、理想ともに前回とほとんど変化がありません。

子どもの教育としつけの現状では、年齢と職業で関連があります。夫婦共同が 20歳代で 60.0%・30歳代で 53.0%と若い人で多くなっています。主に妻が、契約社員 56.3%、臨時・パート・アルバイト 58.7%、家事専業 53.7%と多く、夫婦共同でが公務員 61.1%、正社員 53.4%で多くなっています。

理想では、職業でだけ関連がでています。夫婦共同が教職員 100.0%、臨時・パート・アルバイト 94.2%、家事専業 92.3%で多くなっています。

⑧ PTAへの出席(現状)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫	16	2.1	3.0	1.5
2	主に妻	401	51.7	74.4	51.1
3	夫婦共同で	81	10.5	15.0	12.2
4	主に父	4	0.5	0.7	0.2
5	主に母	5	0.6	0.9	0.3
6	その他	32	4.1	5.9	3.3
	不明	236	30.5		31.4
	N (%ベース)	775	100.0	539	

PTAへの出席(理想)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫	10	1.3	1.8	0.7
2	主に妻	111	14.3	20.3	13.6
3	夫婦共同で	410	52.9	75.1	53.2
4	主に父				0.1
5	主に母	3	0.4	0.5	0.2
6	その他	12	1.5	2.2	1.5
	不明	229	29.5		30.7
	N (%ベース)	775	100.0	546	

PTAへの出席について、現状では、主に妻が51.7%、夫婦共同で10.5%、主に夫2.1%、主に母0.6%、主に父0.5%、その他4.1%、不明30.5%となっています。理想では、夫婦共同が52.9%と最も多く、次いで主に妻が14.3%、主に夫1.3%、主に母0.4%、その他1.5%、不明29.5%となっています。現状、理想ともに前回とほとんど変化がありません。

PTAの出席、現状では年齢・職業・性別で関連がでています。40歳代で主として妻が81.3%と夫婦共同が20歳代で26.7%と多くなっています。主として妻が臨時・パート・アルバイトで83.0%、家事専業で81.2%と多く、夫婦共同が教職員で33.3%、公務員22.2%、自営業22.6%と多くなっています。

理想では年齢・職業・性別で関連がでています。主として妻が若い人で多い傾向があります。夫婦共同では50歳代で多くなっています。主として妻は正社員で23.6%、無職21.6%、公務員21.6%と多く、夫婦共同は臨時・パート・アルバイト84.7%、教職員83.3%と多くなっています。主として妻は男性で26.5%、女性14.6%、夫婦共同が女性82.9%・男性66.7%となっています。

⑨ 町内行事等への参加(現状)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫	219	28.3	31.7	27.1
2	主に妻	217	28.0	31.4	31.4
3	夫婦共同で	217	28.0	31.4	27.9
4	主に父	13	1.7	1.9	1.2
5	主に母	4	0.5	0.6	0.5
6	その他	21	2.7	3.0	1.5
	不明	84	10.8		10.6
	N (%ベース)	775	100.0	691	

町内行事等への参加(理想)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫	111	14.3	17.3	13.7
2	主に妻	33	4.3	5.1	3.7
3	夫婦共同で	483	62.3	75.1	62.2
4	主に父	5	0.6	0.8	1.1
5	主に母				0.2
6	その他	11	1.4	1.7	1.1
	不明	132	17.0		18.1
	N (%ベース)	775	100.0	643	

町内行事等への参加について、現状では、主に夫28.3%と最も多く、主に妻が28.0%、夫婦共同で28.0%、主に父1.7%、主に母0.5%、その他2.7%、不明10.8%となっています。理想では、夫婦共同が62.3%と最も多く、次いで主に夫14.3%、主に妻が4.3%、主に母1.4%、その他1.4%、不明17.0%となっています。現状、理想ともに前回とほとんど変化がありません。

町内会行事等への参加の現状は、年齢と職業で関連があります。主として夫が70歳以上で46.8%、60歳代で36.4%と年配

ほど多くなっています。主として妻は40歳代で38.8%と多く、夫婦共同は30歳代で39.6%と多くなっています。自営業と無職で主として夫が多く、主として妻は家事専業で40.8%、公務員で38.8%と多くなっています。

理想では、年齢と職業で関連がでてきます。主として夫は年齢が高いほど多くなっています。自営業で主として夫が23.5%と多くなっています。

⑩ 高齢者の世話・介護(現状)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫	13	1.7	2.5	1.0
2	主に妻	243	31.4	47.6	36.0
3	夫婦共同で	166	21.4	32.5	20.6
4	主に父	3	0.4	0.6	0.1
5	主に母	5	0.6	1.0	0.5
6	その他	80	10.3	15.7	7.9
	不明	265	34.2		34.0
	N (%ベース)	775	100.0	510	

高齢者の世話・介護(理想)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	主に夫	3	0.4	0.6	0.5
2	主に妻	50	6.5	9.5	5.3
3	夫婦共同で	447	57.7	85.0	60.8
4	主に父	2	0.3	0.4	0.1
5	主に母				0.2
6	その他	24	3.1	4.6	2.7
	不明	249	32.1		30.5
	N (%ベース)	775	100.0	526	

高齢者の世話・介護について、現状では、主に妻が31.4%、夫婦共同で21.4%、主に夫1.7%、主に母0.6%、主に父0.4%、その他10.3%、不明34.2%となっています。理想では、夫婦共同が57.7%と最も多く、次いで主に妻が6.5%、主に夫0.4%、主に父0.3%、その他3.1%、不明32.1%となっています。現状について、前回調査と比べ主に妻が少し減っています。理想について夫婦共同でが少し増えています。

高齢者の世話・介護の現状では、年齢と性別で関連がでてきます。年配の人で主として妻が多く、若い人ほど夫婦共同が多くなっています。臨時・パート・アルバイト54.2%、自営業52.7%で主として妻が多く、教職員60.0%・公務員42.4%・正社員40.0%で夫婦共同が多くなっています。

理想では、年齢・性別・職業で関連がでてきます。年配ほど主として妻が多くなっています。主として妻が男性で13.8%・女性5.5%、夫婦共同が女性87.5%・男性82.3%となっています。夫婦共同が自営業で89.7%・家事専業で89.8%・無職で88.9%と多くなっています。

問 4 家事・育児・介護・地域活動等への男性の参加を進めるために必要なことは何だと思えますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	家事などに参加することに対する男性自信の抵抗感をなくすこと	571	54.7	57.9
2	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	215	20.6	21.8
3	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	695	66.6	70.5
4	職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動等についても理解し、支援すること	591	56.7	59.9
5	労働時間の短縮や休暇制度を普及すること	459	44.0	46.6
6	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	519	49.8	52.6
7	国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や、子育て、介護等の技能を高めること	259	24.8	26.3
8	男性が育児や介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りを進めること	247	23.7	25.1
9	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	280	26.8	28.4
10	その他	36	3.5	3.7
11	特に必要なことはない	49	4.7	5.0
	不明	57	5.5	
	N (%ベース)	1043	100.0	986

家事・育児・介護・地域活動等への男性の参加を進めるために必要なことをきいてみました。夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかることが対象者の 66.6%で最も多く、職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動等についても理解し、支援することが 56.7%、家事などに参加することに対する男性自信の抵抗感をなくすことが 54.7%と次に多くなっています。社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めることが 49.8%、労働時間の短縮や休暇制度を普及すること 44.0%、家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること 26.8%、国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や、子育て、介護等の技能を高めること 24.8%、男性が育児や介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りを進めること 23.7%、男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと 20.6%、その他 3.5%、とくに必要なことはない 4.7%、不明 5.5%などとなっています。

職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動等についても理解し、支援することが女性 61.9%・男性 50.2%、家事などに参加することに対する男性自信の抵抗感をなくすことが女性 61.7%・男性 46.3%、社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めることが女性 55.7%・男性 42.7%、国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や、子育て、介護等の技能を高めることが女性 28.5%・男性 20.5%と、多くの質問で男性より女性が問題点を指摘しています。職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動等についても理解し、支援すること、労働時間の短縮や休暇制度を普及すること、社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めることは、若い人ほど多くなっています。職業別より、性別や年齢別の違いが大きいです。

%		問 4 男性の参加を進めるために									
		合計	家事などに参加することに 対する男性自信の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することに 対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションを よくはかること	職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動等について も理解し、支援すること	労働時間の短縮や 休暇制度を普及すること	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について も、その評価を高めること	国や地方自治体などの研修等により、 男性の家事や、子育て、介護等の技能を 高めること	男性が育児や介護、地域活動を行うための、 仲間(ネットワーク)作りを進めること	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、 男性が相談しやすい窓口を設けること
性別	全体	1,039	54.9	20.6	66.7	56.7	44.1	49.9	24.9	23.8	26.9
	女性	575	61.7	23.1	68.7	61.9	42.1	55.7	28.5	25.4	27.1
	男性	464	46.3	17.5	64.2	50.2	46.6	42.7	20.5	21.8	26.7
年齢	全体	1,040	54.9	20.7	66.7	56.7	44.1	49.9	24.9	23.8	26.9
	20～29歳	78	59.0	14.1	71.8	73.1	57.7	55.1	24.4	26.9	29.5
	30～39歳	160	53.8	10.6	65.0	67.5	53.8	58.1	15.6	20.6	22.5
	40～49歳	165	53.9	20.6	66.7	63.6	43.0	59.4	21.2	19.4	23.6
	50～59歳	196	53.6	21.9	65.8	52.6	47.4	49.0	25.5	25.0	26.0
	60～69歳	251	61.0	23.1	66.5	50.2	39.8	46.2	26.3	27.9	27.5
	70歳以上	190	48.4	27.4	67.4	47.9	33.7	38.4	33.7	22.1	32.6
職業	全体	1,033	55.0	20.6	67.0	56.7	44.1	50.0	24.9	23.7	26.8
	自営業	154	56.5	21.4	72.1	46.1	39.0	40.9	30.5	24.0	27.9
	正社員	236	51.3	14.8	63.1	58.5	55.1	48.3	22.9	24.2	26.3
	契約社員	36	63.9	19.4	63.9	63.9	41.7	58.3	13.9	11.1	13.9
	公務員	49	42.9	14.3	65.3	53.1	44.9	59.2	6.1	14.3	12.2
	教職員	11	72.7	18.2	72.7	72.7	63.6	81.8	27.3	18.2	27.3
	臨時パート	150	58.7	21.3	66.7	66.7	36.7	56.0	22.7	28.0	22.0
	家事専業	204	57.8	26.5	68.1	61.8	43.1	53.9	27.5	23.0	28.4
	無職	97	50.5	20.6	69.1	51.5	40.2	41.2	23.7	24.7	38.1
	学生	6	33.3		66.7	66.7	66.7	66.7	50.0	33.3	33.3
	その他	90	56.7	25.6	65.6	44.4	40.0	46.7	32.2	25.6	31.1

## 4. 仕事について

問 5 あなたと仕事の関係は次のどれですか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	卒業して以来、継続して働いている	325	31.2	33.4	33.3
2	結婚出産で一時やめ、また働いている	153	14.7	15.7	14.8
3	その他の事情で一時やめ、また働いている	105	10.1	10.8	9.8
4	卒業してから働いていなかったが、その後働いている	11	1.1	1.1	1.9
5	卒業してから働いていたが、結婚・育児(出産)のため仕事をやめた	106	10.2	10.9	13.2
6	卒業してから働いていたが、その他の事情で仕事をやめた	55	5.3	5.6	4.9
7	これまで働いたことはない	14	1.3	1.4	1.5
8	定年退職により現在働いていない	138	13.2	14.2	13.7
9	現在、学生である	5	0.5	0.5	0.9
10	その他	62	5.9	6.4	3.2
	不明	69	6.6		2.8
	N (%ベース)	1043	100.0	974	

あなたと仕事の関係は次のどれですかという質問について、卒業して以来、継続して働いている 31.2%(前回 33.3%)・結婚出産で一時やめ、また働いている 14.7%(前回 14.8%)、その他の事情で一時やめ、また働いている 10.1%(前回 9.8%)・卒業してから働いていなかったが、その後働いている 1.1%(前回 1.9%)・卒業してから働いていたが、結婚・育児(出産)のため仕事をやめた 10.2%(前回 13.2%)・卒業してから働いていたが、その他の事情で仕事をやめた 5.3%(前回 4.9%)・これまで働いたことはない 1.3%(前回 1.5%)・定年退職により現在働いていない 13.2%(前回 13.7%)・現在、学生である 0.5%(前回 0.9%)・その他 5.9%(前回 3.2%)・不明 6.6%(前回 2.8%)となっています。前回と大きな差はありませんが、結婚・育児(出産)のために仕事をやめたが少し減っています。

女性について、就業状況をみたものが、上の表です。20歳代で継続して働いているが前回 49.2%から今回 41.5%と減っています。結婚・出産育児でやめたが前回 19.7%から今回 9.4%と減っています。結婚出産で一時やめたがまた働いているが前回 1.6%が今回 9.4%と増えています。30歳代では結婚・育児・出産でやめたが前回 36.9%から今回 27.8%と減少、結婚・出産で一時やめたがまた働いているが 27.2%から 33.3%と増えています。50歳代で結婚出産で一時やめたがまた働いているが、前回 31.8%から今回 47.2%に増えています。

女性 %		問5 現在働いている										
		合計	卒業して以来、継続して働いている	結婚出産で一時的にやめ、また働いている	一時的にやめ、また働いている	働いていなかったが、その後働いている	結婚・育児(出産)のため仕事をやめた	その他の事情で仕事をやめた	働いたことはない	定年退職により現在働いていない	学生である	その他
F7. あなたの職業は	全体	528	16.7	28.6	7.8	0.9	19.7	8.5	2.3	7.4	0.6	7.6
	自営業	61	26.2	37.7	9.8	1.6	8.2	3.3	—	1.6	—	11.5
	正社員	84	46.4	36.9	13.1	1.2	1.2	—	—	1.2	—	—
	契約社員	15	33.3	46.7	13.3	6.7	—	—	—	—	—	—
	公務員	12	66.7	16.7	16.7	—	—	—	—	—	—	—
	教職員	5	80.0	20.0	—	—	—	—	—	—	—	—
	臨時、パート、アルバイト	121	12.4	70.2	12.4	1.7	—	1.7	—	0.8	—	0.8
	家事専業	172	0.6	0.6	—	—	51.7	18.6	4.7	12.8	—	11.0
	無職	19	—	—	—	—	26.3	21.1	—	31.6	—	21.1
	学生	4	—	—	—	—	—	—	25.0	—	75.0	—
	その他	35	—	2.9	14.3	—	11.4	14.3	8.6	22.9	—	25.7

問5 副問1 今のあなたの仕事にやりがいがありますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	17年3月
1	やりがいがある	356	59.9	60.3	53.3
2	やりがいはない	47	7.9	8.0	8.8
3	どちらともいえない	187	31.5	31.7	37.1
	不明	4	0.7		0.8
	N (%ベース)	594	100.0	590	

現在働いている人について、仕事のやりがいを聞いてみました。やりがいがある59.9%(前回53.3%)・やりがいはない7.9%(前回8.8%)・どちらともいえない31.5%(前回37.1%)・不明0.7%(前回0.8%)で、前回よりやりがいがあるが増えています。

1 女性 %		問5副問1今のあなたの仕事にやりがいがありますか。			
		合計	やりがいがある	やりがいはない	どちらともいえない
F7. あなたの職業は	全体	281	58.0	8.5	33.5
	1. 自営業	45	66.7	6.7	26.7
	2. 正社員正規職員	81	60.5	11.1	28.4
	3. 契約社員	15	53.3	13.3	33.3
	4. 公務員	12	50.0		50.0
	5. 教職員	5	60.0	20.0	20.0
	6. 臨時パートバイト	117	53.8	7.7	38.5
	10. その他	5	60.0		40.0

2 男性 %		問5 副問1 今のあなたの仕事にやりがいがありますか。			
		合計	1.やりがいがある	2.やりがいはない	3.どちらともいえない
F7. あなたの職業は	全体	303	62.4	7.6	30.0
	1. 自営業	66	66.7	4.5	28.8
	2. 正社員正規職員	145	64.1	8.3	27.6
	3. 契約社員	18	55.6	5.6	38.9
	4. 公務員	37	62.2	2.7	35.1
	5. 教職員	5	100.0		
	6. 臨時パートバイト	23	39.1	21.7	39.1
	10. その他	9	55.6	11.1	33.3

男性と女性ではやりがいがあるが女性 58.0%にたいして男性 62.4%と女性が少し低くなっています。企業等の正社員で女性 60.5%に対して男性 64.1%と低くなっています。契約社員・臨時、パート、アルバイトで正社員よりやりがいがあるが少なくなっています。

**問 5 副問 2 現在、働いていないあなたは、今後のご自身の仕事についてどうお考えですか。**

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	17年3月
1	すぐ働きたい	45	11.8	13.0	13.8
2	将来働きたい	69	18.2	19.9	16.4
3	働くつもりはない	183	48.2	52.9	46.8
4	わからない	49	12.9	14.2	15.2
	不明	34	8.9		7.8
	N (%ベース)	380	100.0	346	

現在働いていないと答えた人に就労意思をたずねました。すぐ働きたい 11.8%(前回 13.8%)・将来働きたい 18.2%(前回 16.4%)・働くつもりはない 48.2%(前回 46.8%)・わからない 8.9%(前回 7.8%)となっています。すぐ働きたいが少し減って将来働きたい・働くつもりがないが少し増えています。

%		あなたは、今後のご自身の仕事についてどうお考えですか。				
		合計	1.すぐ働きたい	2.将来働きたい	3.働くつもりはない	4.わからない
女性	全体	223	13.0	24.2	48.4	14.3
	1. 20～29 歳	15	20.0	73.3		6.7
	2. 30～39 歳	32	21.9	62.5	12.5	3.1
	3. 40～49 歳	25	20.0	60.0	8.0	12.0
	4. 50～59 歳	31	12.9	3.2	61.3	22.6
	5. 60～69 歳	68	11.8	10.3	60.3	17.6
	6. 70 歳以上	52	3.8		80.8	15.4
男性	全体	122	13.1	12.3	60.7	13.9
	1. 20～29 歳	2	50.0	50.0		
	2. 30～39 歳	3		33.3	-	66.7
	3. 40～49 歳	3	100.0			
	4. 50～59 歳	6	-	50.0	50.0	
	5. 60～69 歳	48	14.6	16.7	54.2	14.6
	6. 70 歳以上	60	8.3	3.3	75.0	13.3

女性の 20 歳代ではすぐ働きたいが 20%(前回 30.4%)、将来働きたい 73.3%(前回 60.9%)、30 歳代ではすぐ働きたいが 21.9%(前回 26.8%)、将来働きたい 62.5%(前回 57.1%)、40 歳代ではすぐ働きたいが 20.0%(前回 13.3%)、将来働きたい 60.0%(前回 40.0%)と就業意欲が高いことがわかります。しかし、前回調査と比べ将来働きたいが増えています。不況で希望する仕事がすぐにはないためかもしれません。

#### 問6 女性が職業をもつことについて、あなたはどのように思いますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	17年3月	全国調査
1	結婚や出産にかかわらず職業を持ち続けた方がよい	432	41.4	43.0	36.7	45.9
2	結婚するまでは職業を持つ方がよい	38	3.6	3.8	3.7	5.5
3	子どもが出来るまでは職業をもつほうがよい	46	4.4	4.6	4.0	10.7
4	子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	393	37.7	39.1	45.1	31.3
5	職業を持たない方がよい	9	0.9	0.9	1.5	3.5
6	その他	59	5.7	5.9	3.6	1.4
7	分からない	27	2.6	2.7	2.8	1.8
	不明	39	3.7		2.4	
	N (%ベース)	1043	100.0	1004		

女性が職業をもつことについて、結婚や出産にかかわらず職業を持ち続けた方がよい 41.4%(前回 36.7・全国 45.9%)、結婚するまでは職業を持つ方がよい 3.6%(前回 3.7・全国 5.5%)、子どもが出来るまでは職業をもつほうがよい 4.4%(前回 4.0・全国 10.7%)、子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい 37.7%(前回 45.1・全国 31.3%)、職業を持たない方がよい 0.9%(前回 1.5・全国 3.5%)、その他 5.7%(前回 3.6・全国 1.4%)、分からない 2.6%(前回 2.8・全国 1.8%)、不明 3.7%(前回 2.4・全国は不明を除く)となっています。前回は子どもが小さいうちは職業をやめ大きくなったら働くのがよいが多かったのですが、今回は結婚出産にかかわらず職業を持ち続けたほうがよいが多くなっています。前回に比べ結婚出産にかかわらず職業を持ち続けたほうがよいが増え、子どもが小さいうちは職業をやめ大きくなったら働くのがよいが少なくなっています。全国と比べ結婚出産にかかわらず職業を持ち続けたほうがよいがすこし少なく、子どもが小さいうちは職業をやめ大きくなったら働くのがよいが多くなっています。

性別ではあまり差がなくなっています。年齢別では 50 歳以上で子どもが小さいうちは仕事をやめが 4 割を超え多く、20・30・50 歳代で継続して働くのがよいが半数近くになっています。職業別では、教員・学生・公務員・パート・アルバイトで継続して働くが多く、家事専業と自営業で子どもが小さいうちは仕事をやめが多くなっています。

%		問6 女性が職業をもつことについて、あなたはどのように思いますか。							
		合計	1.結婚や 出産にか かわらず 職業を持 ち続けた 方が良い	2.結婚 するま では職 業を持 つ方が よい	3.子ども が出来 るま では職 業をも つほう がよい	4.子ども が出来 たら職 業をや め、大 きくな ったら 再び職 業をも つ方が 良い	5.職業 を持た ない方 が良い	6.その 他	7.分か らない
性別	全体	1001	43.1	3.8	4.6	39.1	0.9	5.9	2.7
	1 女性	552	41.7	4.9	4.7	39.9	0.2	6.2	2.5
	2 男性	449	44.8	2.4	4.5	38.1	1.8	5.6	2.9
年齢	全体	1002	43.1	3.8	4.6	39.0	0.9	5.9	2.7
	20～29	77	49.4	5.2	9.1	24.7	-	7.8	3.9
	30～39	158	46.8	3.8	4.4	31.6	0.6	10.8	1.9
	40～49	163	41.1	4.3	5.5	36.8	1.2	7.4	3.7
	50～59	188	46.3	2.1	2.1	41.5		5.9	2.1
	60～69	242	40.5	3.7	5.8	43.8	1.2	3.3	1.7
	70 以上	174	39.1	4.6	2.9	44.8	1.7	2.9	4.0
職業	全体	996	43.2	3.8	4.6	38.9	0.9	5.9	2.7
	自営業	145	44.1	0.7	3.4	42.1	1.4	4.1	4.1
	正社員	230	40.4	3.0	8.3	37.0	0.9	7.8	2.6
	契約社員	35	42.9	8.6	5.7	34.3		5.7	2.9
	公務員	49	65.3	6.1	2.0	18.4		6.1	2.0
	教職員	11	81.8		-			18.2	
	パート・アルバイト	147	51.0	3.4	2.7	38.1		2.0	2.7
	家事専業	193	34.2	6.2	2.6	48.2	-	6.7	2.1
	無職	91	40.7	2.2	7.7	38.5	3.3	5.5	2.2
	学生	6	66.7		-	33.3			
	その他	89	39.3	5.6	3.4	38.2	2.2	7.9	3.4

問7 あなたの今の職場では、女性は男性に比べ、仕事の内容や待遇面で差別されていると思いますか。別にそのようなことはないと思いますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	17年3月
1	差別されていると思う	230	22.1	28.6	19.7
2	そのようなことはないと思う	418	40.1	52.0	41.5
3	分からない	156	15.0	19.4	12.7
	不明	239	22.9		26.1
	N (%ベース)	1043	100.0	804	

あなたの今の職場では、女性は男性に比べ、仕事の内容や待遇面で差別されていると思いますかという質問について、差別されていると思う 22.1%(前回 19.7%)、そのようなことはないと思う 40.1%(前回 41.5%)、分からない 15.0%(前回 12.7%)、不明 22.9%(前回 26.1%)となっています。差別されていると思うが少し増えています。

%		問7 あなたの今の職場では、女性は男性に比べ、仕事の内容や待遇面で差別されていると思いますか。別にそのようなことはないと思いますか。			
		合計	1.差別されていると思う	2.そのようなことはないと思う	3.分からない
F1. あなたの性別は	全体	801	28.7	51.9	19.4
	1 女性	411	28.5	49.6	21.9
	2 男性	390	29.0	54.4	16.7
F2 年齢	全体	802	28.7	52.0	19.3
	1. 20～29 歳	70	28.6	57.1	14.3
	2. 30～39 歳	143	26.6	53.8	19.6
	3. 40～49 歳	150	29.3	54.0	16.7
	4. 50～59 歳	162	27.8	56.2	16.0
	5. 60～69 歳	172	27.9	52.9	19.2
	6. 70 歳以上	105	33.3	35.2	31.4
F7. あなたの職業は	全体	798	28.8	51.8	19.4
	1. 自営業	122	17.2	54.1	28.7
	2. 正社員・正規職員	230	31.7	60.4	7.8
	3. 契約社員	33	30.3	45.5	24.2
	4. 公務員	49	20.4	69.4	10.2
	5. 教職員	11	9.1	90.9	—
	6. 臨時、パート、アルバイト	145	30.3	57.2	12.4
	7. 家事専業	95	25.3	26.3	48.4
	8. 無職	51	43.1	35.3	21.6
	9. 学生	4	—	50.0	50.0
10. その他	58	43.1	36.2	20.7	

職業と年齢で関連がでています。差別されているが70歳以上で、そのようなことはないが20歳代と50歳代でやや多くなっています。職業別では、差別されているが無職・臨時パート・正社員・契約社員でやや多く、そのようなことはないが教員・公務員・正社員などで多くなっています。

#### 職場での差別の内容

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回調査
1	賃金に格差がある	114	49.6	51.1	50.0
2	昇進、昇格に差別がある	78	33.9	35.0	29.9
3	能力を正當に評価しない	59	25.7	26.5	24.8
4	補助的な仕事しかやらせてくれない	28	12.2	12.6	18.1
5	女性を幹部職員に登用しない	33	14.3	14.8	8.4
6	結婚したり子どもが産まれたりすると勤めにくい雰囲気がある	44	19.1	19.7	23.5
7	女性は定年まで勤めにくい雰囲気がある	23	10.0	10.3	9.1
8	教育・訓練を受ける機会が少ない	9	3.9	4.0	4.0
9	その他	16	7.0	7.2	4.7
	不明	7	3.0		2.3
	N (%ベース)	230	100.0	223	100.0

いまの職場について差別があるとした人について、その内容は賃金に格差がある49.6%(前回50.0%)、昇進、昇格に差別がある33.9%(前回29.9%)、能力を正當に評価しない25.7%(前回24.8%)、補助的な仕事しかやらせてくれない12.2%(前回

18.1%)、女性を幹部職員に登用しない 14.3%(前回 8.4%)、結婚したり子どもが産まれたりすると勤めにくい雰囲気がある 19.1%(前回 23.5%)、女性は定年まで勤めにくい雰囲気がある 10.0%(前回 9.1%)、教育・訓練を受ける機会が少ない 3.9%(前回 4.0%)、その他 7.0%(前回 4.7%)、不明 3.0%(前回 2.3%)となっています。

前回と比べ昇進、昇格に差別があるが少し増えています。結婚したり子どもが産まれたりすると勤めにくい雰囲気があると補助的な仕事しかやらせてくれないはやや減っています。

%		職場での差別								
		合計	1 賃金に格差がある	2 昇進、昇格に差別がある	3 能力を正當に評価しない	4 補助的な仕事しかやらせてくれない	5 女性を幹部職員に登用しない	6 結婚したり子どもが産まれたりすると勤めにくい雰囲気がある	7 女性は定年まで勤めにくい雰囲気がある	8 教育・訓練を受ける機会が少ない
性別	全体	230	49.6	33.9	25.7	12.2	14.3	19.1	10.0	3.9
	1 女性	117.0	53.8	29.1	28.2	9.4	12.8	23.9	10.3	3.4
	2 男性	113.0	45.1	38.9	23.0	15.0	15.9	14.2	9.7	4.4
年齢	全体	230.0	49.6	33.9	25.7	12.2	14.3	19.1	10.0	3.9
	20～29 歳	20.0	25.0	35.0	25.0	10.0	20.0	30.0	10.0	-
	30～39 歳	38.0	39.5	36.8	13.2	21.1	15.8	34.2	5.3	5.3
	40～49 歳	44.0	40.9	40.9	34.1	15.9	15.9	18.2	11.4	2.3
	50～59 歳	45.0	60.0	28.9	26.7	11.1	15.6	8.9	8.9	4.4
	60～69 歳	48.0	50.0	35.4	29.2	10.4	12.5	12.5	14.6	6.3
	70 歳以上	35.0	71.4	25.7	22.9	2.9	8.6	20.0	8.6	2.9
職業	全体	230.0	49.6	33.9	25.7	12.2	14.3	19.1	10.0	3.9
	自営業	21.0	47.6	9.5	33.3	-	9.5	14.3	19.0	4.8
	正社員	73.0	49.3	35.6	23.3	17.8	21.9	16.4	6.8	1.4
	契約社員	10.0	60.0	30.0	10.0	-	10.0	20.0	30.0	-
	公務員	10.0	-	80.0	40.0	20.0	20.0	10.0		
	教職員	1.0		-		-		100.0	-	100.0
	臨時パート、アルバイト	44.0	50.0	29.5	38.6	18.2	9.1	13.6	9.1	4.5
	家事専業	24.0	45.8	29.2	12.5	4.2	12.5	37.5	8.3	
	無職	22.0	63.6	36.4	22.7	9.1	4.5	22.7	9.1	13.6
	学生	-								
その他	25.0	60.0	44.0	20.0	8.0	16.0	20.0	12.0	4.0	

\* 差別の内容のその他は省略

賃金に格差があるは女性 55.8%・男性 46.4%、結婚したり子どもが産まれると勤めにくい女性 24.8%・男性 14.5%などでは女性の方が多ですが、昇進昇格に差がある女性 30.1%・男性 40.0%、能力を正當に評価してくれない女性 29.2%・男性 23.6%、女性を幹部社員に登用しない女性 13.3%・男性 16.4%では男性の方が多くなっています。賃金や勤務そのものが続けられるかというところで女性は問題を感じていますが、男性は待遇や能力の評価というところで感じているようです。

年齢別では、賃金に格差が 50 歳代と 70 歳以上で多く、昇進昇給に差別があるは 40 歳代、能力を正當に評価しないが 40 歳代、子どもが産まれると勤めにくい 30 歳代で、補助的な仕事しかやらせてくれないは若い人ほど多い傾向があります。

正社員で能力を正當に評価しない、臨時パートアルバイトで補助的な仕事しかさせないが多くなっています。

問 8 男性も育児・介護休業を取ることができますが、このことについてあなたはどのように思いますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	17年3月
1	男性も育児・介護休業を積極的に取るべきである	141	13.5	14.6	11.3
2	男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実にはとりづらいと思う	742	71.1	76.8	76.2
3	育児・介護は女性が摺るべきであり、男性が休暇をとる必要はない	65	6.2	6.7	6.2
4	その他	18	1.7	1.9	1.6
	不明	77	7.4		4.8
	N (%ベース)	1043	100.0	966	

男性も育児・介護休業を取ることができますが、このことについてどうおもいますか、という質問では、男性も育児・介護休業を積極的に取るべきである 13.5%(前回 11.3%)、男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実にはとりづらいと思う 71.1%(前回 76.2%)、育児・介護は女性が摺るべきであり、男性が休暇をとる必要はない 6.2%(前回 6.2%)、その他 1.7%(前回 1.6%)、不明 7.4%(前回 4.8%)、となっています。前回よりも男性も育児・介護休業を積極的に 4 に取るべきであるが 3.3%増えています。

%		問 8 男性も育児・介護休業を取ることができますが、このことについてあなたがどう思いますか。				
		合計	1.男性も育児・介護休業を積極的に取るべきである	2.男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実にはとりづらいと思う	3.育児・介護は女性が摺るべきであり、男性が休暇をとる必要はない	4.その他
F1. あなたの性別は	全体	963	14.5	76.9	6.6	1.9
	1 女性	527	14.4	77.2	6.3	2.1
	2 男性	436	14.7	76.6	7.1	1.6
F2 年齢	全体	964	14.6	76.9	6.6	1.9
	1. 20～29歳	74	17.6	77.0	4.1	1.4
	2. 30～39歳	157	10.8	85.4	1.9	1.9
	3. 40～49歳	159	12.6	83.0	3.8	0.6
	4. 50～59歳	185	9.2	83.8	4.9	2.2
	5. 60～69歳	224	18.8	69.6	8.9	2.7
F7. あなたの職業は	6. 70歳以上	165	19.4	64.8	13.9	1.8
	全体	959	14.6	76.9	6.7	1.9
	1. 自営業	139	15.8	73.4	8.6	2.2
	2. 正社員・	227	10.1	83.7	4.4	1.8
	3. 契約社員	34	5.9	91.2	2.9	—
	4. 公務員	48	12.5	87.5	—	—
	5. 教職員	11	36.4	63.6	—	—
	6. 臨時、パート、バイト	146	13.0	81.5	4.1	1.4
	7. 家事専業	179	16.8	70.9	10.1	2.2
	8. 無職	88	15.9	75.0	8.0	1.1
9. 学生	5	40.0	60.0	—	—	
10. その他	82	22.0	61.0	12.2	4.9	

年齢と職業に有意な関連が見られます。職業の方が規定力は大きいです。学生・教職員・家事専業で男性も育児・介護休業を積極的に取るべきであるが多く、契約社員・公務員・正社員・臨時パート・アルバイトで男性も育児・介護休業を取ることは

賛成だが、現実にはとりづらと思うが多くなっています。現実には育児休業や介護休業をとれるかどうか回答に影響を及ぼしているようにおもわれます。年齢別では30・40・50歳代で男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実にはとりづらと思うが多くなっています。育児・介護は女性が摺るべきであり、男性が休暇をとる必要はないが60歳代・70歳以上で多くなっていますが、70歳以上でも13.9%くらいです。

**問 8 副問 1 男性が育児休暇を取ることは賛成だが、育児・介護休業をとりにくい理由**

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前 回
1	過去に取った男性がいない	101	13.6	13.9	9.1
2	職場に取りやすい雰囲気がない	242	32.6	33.2	36.3
3	仕事が忙しい	149	20.1	20.5	21.2
4	取ると仕事上の人に迷惑がかかる	302	40.7	41.5	37.2
5	取ると人事評価や昇給などに悪い影響がある	73	9.8	10.0	10.4
6	取ると経済的に困る	171	23.0	23.5	17.3
7	男性が取ることについて、社会全体の認識が十分でない	311	41.9	42.7	43.9
8	男性の育休 その他	12	1.6	1.6	1.0
	不明	14	1.9		1.3
	N (%ベース)	742	100.0	728	1152

男性が育児休暇を取ることは賛成だが、育児・介護休業をとりにくい理由について、男性が取ることについて、社会全体の認識が十分でない 41.9%(前回 43.9%)、取ると仕事上の人に迷惑がかかる 40.7%(前回 37.2%)、職場に取りやすい雰囲気がない 32.6%(前回 36.3%)、取ると経済的に困る 23.0%(前回 17.3%)、仕事が忙しい 20.1%(前回 21.2%)、過去に取った男性がいない 13.6%(前回 9.1%)、取ると人事評価や昇給などに悪い影響がある 9.8%(前回 10.4%)、その他 1.6%(前回 1.0%)、不明 1.9%(前回 1.3%)となっています。男性が取ることについて、社会全体の認識が十分でない、取ると仕事上の人に迷惑がかかるが依然として多く、前回とあまり変化がありません。

		合計	過去に取った男性がいない	職場に取りやすい雰囲気がない	仕事が忙しい	取ると仕事上の人に迷惑がかかる	取ると人事評価や昇給などに悪い影響がある	取ると経済的に困る	男性が取ることについて、社会全体の認識が十分でない
性別	全体	727	13.9	33.3	20.5	41.4	10.0	23.5	42.6
	女性	400.0	11.3	35.8	18.3	41.3	10.3	25.5	44.3
	男性	327.0	17.1	30.3	23.2	41.6	9.8	21.1	40.7
年齢	全体	727.0	13.9	33.3	20.5	41.4	10.0	23.5	42.6
	20～29歳	56.0	14.3	46.4	14.3	33.9	7.1	25.0	42.9
	30～39歳	133.0	18.0	38.3	19.5	44.4	10.5	30.1	36.1
	40～49歳	130.0	16.2	33.8	24.6	35.4	16.2	23.8	46.9
	50～59歳	153.0	9.8	30.7	26.1	46.4	9.2	26.1	41.8
	60～69歳	154.0	11.0	31.8	18.8	44.2	7.1	20.1	48.7
	70歳以上	101.0	15.8	24.8	13.9	37.6	8.9	14.9	37.6
職業	全体	723.0	14.0	33.3	20.6	41.2	10.1	23.4	42.7
	自営業	100.0	7.0	30.0	25.0	37.0	7.0	23.0	42.0
	正社員	188.0	31.0	34.0	22.9	37.8	10.1	24.5	38.3
	契約社員	29.0	31.0	34.5	17.2	34.5	6.9	27.6	51.7
	公務員	42.0	19.0	35.7	33.3	45.2	9.5	23.8	35.7
	教職員	5.0	20.0	20.0	60.0	40.0	—	20.0	40.0
	臨時パート	118.0	10.2	34.7	15.3	47.5	11.0	28.8	43.2

家事専業	127.0	7.9	27.6	20.5	46.5	14.2	20.5	48.8
無職	63.0	9.5	36.5	15.9	41.3	9.5	17.5	42.9
学生	3.0	—	66.7	—	—	—	33.3	100.0
その他	48.0	14.6	41.7	10.4	37.5	8.3	18.8	41.7

\*その他・不明等を省略

男性が取ることについて、社会全体の認識が十分でないが女性 44.3%・男性 40.7%、職場に取りやすい雰囲気がないが女性 35.8%・男性 30.3 と、女性のほうが多くなっています。仕事が忙しいが女性 18.3%・男性 23.2%、過去に取った男性がいないが女性 11.3%・男性 17.1%と男性が多くなっています。職場に取りやすい雰囲気がないが若い人で多く、仕事が忙しいは 40 歳代・50 歳代が多くなっています。男性が取ることについて、社会全体の認識が十分でないは単別の年齢で多く、男性が育児休暇や介護休業をとれない基本的な理由と考えられていることがわかります。過去に取った男性がいないは契約社員で 31.0%、正社員で 31.0%と多く、仕事が忙しいは教職員 60.0%・公務員で 33.3%・自営業 25.0%が多い。職場に取りやすいは公務員で 35.7%、取ると他の人に迷惑がかかるは臨時・パート・アルバイトで 47.5%・公務員 45.2%が多くなっています。

#### 問 9 あなたは女性が仕事を続けていくためには、どのような支援や改善が必要だと思いますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	696	66.7	69.9
2	育児や介護のための施設を充実すること	598	57.3	60.0
3	育児や介護の休業利用者が不利な扱いを受けず、身分保障がされていること	510	48.9	51.2
4	給与などで男女間格差をなくすこと	182	17.4	18.3
5	パートタイマーや派遣労働者の労働条件をよくすること	388	37.2	39.0
6	在宅勤務やフレックス制をもうけること	232	22.2	23.3
7	これから起業しようとする人への支援を充実すること	43	4.1	4.3
8	その他	19	1.8	1.9
9	特に条件整備は必要ない	22	2.1	2.2
	不明	48	4.6	
	N (%ベース)	1044	100.0	996

女性が仕事を続けるため必要な支援では、女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること 66.7%、育児や介護のための施設を充実すること 57.3%、育児や介護の休業利用者が不利な扱いを受けず、身分保障がされていること 48.9%、パートタイマーや派遣労働者の労働条件をよくすること 37.2%、在宅勤務やフレックス制をもうけること 22.2%、給与などで男女間格差をなくすこと 17.4%、これから起業しようとする人への支援を充実すること 4.1%、その他 1.8%、特に条件整備は必要ない 2.1%、不明 4.6%となっています。前回の調査項目とは項目がかなり異なり比較ができません。

性別で大きな違いはありませんが、パートタイマーや派遣労働者の労働条件をよくすることが女性 43.0%・男性 34.0%と女性が多くなっています。女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があることが年齢が高いほど多く、30 歳代で育児や介護のための施設を充実することが 68.2%と多くなっています。給与などで男女間格差をなくすことや、パートタイマーや派遣労働者の労働条件をよくすることは若い人ほど多い傾向があります。パートタイマーや派遣労働者の労働条件をよくすることが臨時・パート・アルバイトで 62.8%・契約社員で 47.1%、在宅勤務やフレックス制をもうけることが公務員で 36.7%・契約社員で 35.3%と多くなっています。

		合計	女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	育児や介護のための施設を充実すること	育児や介護の休業利用者が不利な扱いを受けず、身分保障がされていること	給与などで男女間格差をなくすこと	パートタイマーや派遣労働者の労働条件をよくすること	在宅勤務やフレックス制をもうけること	これから起業しようとする人への支援を充実すること
性別	全体	993	69.9	60.0	51.1	18.2	39.0	23.3	4.3
	1 女性	549.0	71.0	60.1	51.2	17.3	43.0	24.4	3.3
	2 男性	444.0	68.5	59.9	50.9	19.4	34.0	21.8	5.6
年齢	全体	994.0	69.9	60.1	51.1	18.3	38.9	23.3	4.3
	20～29 歳	76.0	60.5	60.5	51.3	23.7	46.1	25.0	—
	30～39 歳	151.0	60.9	68.2	50.3	19.2	27.8	39.1	3.3
	40～49 歳	164.0	66.5	56.7	43.3	21.3	44.5	29.3	3.7
	50～59 歳	188.0	72.3	59.6	51.1	19.1	42.6	18.6	5.9
	60～69 歳	242.0	71.9	58.3	57.9	15.3	38.4	20.7	6.2
	70 歳以上	173.0	79.8	59.0	49.7	15.6	37.0	12.1	3.5
職業	全体	987.0	69.7	60.2	51.0	18.4	38.9	23.3	4.4
	自営業	143.0	73.4	53.8	46.2	16.1	30.1	18.2	11.9
	正社員	224.0	62.9	59.4	49.1	21.4	35.7	26.8	2.7
	契約社員	34.0	73.5	50.0	55.9	11.8	47.1	35.3	2.9
	公務員	49.0	69.4	65.3	55.1	12.2	26.5	36.7	2.0
	教職員	11.0	81.8	63.6	63.6	36.4	18.2	18.2	—
	臨時、パート、アルバイト	148.0	69.6	57.4	47.3	23.6	62.8	19.6	2.0
	家事専業	194.0	73.2	65.5	55.7	10.8	37.6	25.8	2.6
	無職	92.0	72.8	66.3	51.1	18.5	35.9	19.6	4.3
	学生	6.0	83.3	83.3	83.3	16.7	16.7	—	—
	その他	86.0	66.3	58.1	51.2	26.7	34.9	17.4	7.0

## 5、地域活動について

問 10 自治会などの地域の集まりや作業の中で、女性も男性とともに参加することができにくい雰囲気や状況はあると思いますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	17年3月
1	1.できにくい雰囲気や状況があると思う	288	27.6	28.5	28.1
2	2.そういうことはないと思う	542	52.0	53.7	52.9
3	3.分からない	179	17.2	17.7	15.6
	不明	34	3.3		3.4
	N (%ベース)	1043	100.0	1009	

自治会などの地域の集まりや作業の中で、女性も男性とともに参加することができにくい雰囲気や状況はあると思いますかという質問について、できにくい雰囲気や状況があると思う27.6%(前回28.1%)、そういうことはないと思う52.0%(前回52.9%)、分からない17.2%(前回15.6%)、不明3.3%(前回3.4%)となっています。前回調査とほとんど変わっていません。

%		問 10 自治会などの地域の集まりや作業の中で、女性も男性とともに参加することができにくい雰囲気や状況はあると思いますか。			
		合計	1.できにくい雰囲気や状況があると思う	2.そういうことはないと思う	3.分からない 3.分からない
性別	全体	1006	28.6	53.6	17.8
	1 女性	553	31.5	47.9	20.6
	2 男性	453	25.2	60.5	14.3
年齢	全体	1007	28.6	53.6	17.8
	1. 20～29 歳	74	18.9	36.5	44.6
	2. 30～39 歳	158	19.6	44.3	36.1
	3. 40～49 歳	164	36.6	43.9	19.5
	4. 50～59 歳	189	35.4	57.7	6.9
	5. 60～69 歳	242	26.4	63.2	10.3
	6. 70 歳以上	180	28.9	60.6	10.6
職業	全体	1000	28.6	53.5	17.9
	1. 自営業	149	28.9	59.7	11.4
	2. 正社員・正規職員	230	24.3	52.6	23.0
	3. 契約社員	32	28.1	40.6	31.3
	4. 公務員	49	36.7	46.9	16.3
	5. 教職員	10	20.0	50.0	30.0
	6. 臨時、パート、アルバイト	149	32.9	50.3	16.8
	7. 家事専業	198	28.8	52.0	19.2
	8. 無職	91	23.1	67.0	9.9
	9. 学生	6	—	33.3	66.7
	10. その他	86	36.0	50.0	14.0

年齢別と職業別で有意な関連があります。年齢が高いほどそういうことはないと思うが多くなっています。また、参加することができにくい雰囲気があるが40・50歳代が多くなっています。職業別ではそういうことはないが、無職・自営業で多く、参加できにくい雰囲気があるが公務員・臨時・パート・アルバイトが多くなっています。

参加することができにくい状況について

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前 回
1	役員は男性のみで、女性の意見が受け入れられない	52	18.1	18.5	21.0
2	決定事項については、従来、男性が取り仕切っている	110	38.2	39.1	42.7
3	主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれる	94	32.6	33.5	33.5
4	お茶だしや皿洗いなどは女性だけがする暗黙の役割分担がある	111	38.5	39.5	42.7
5	地域活動で女性が発言することはでしゃばりと思われがちである	107	37.2	38.1	36.3
6	地域活動に参加出来るような家族の理解や協力が無い	11	3.8	3.9	5.2
7	参加する女性側の努力がまだ足りない	40	13.9	14.2	
8	その他	8	2.8	2.8	1.4
	不明	7	2.4		1.9
	N (%ベース)	288	100.0	281	424

女性も男性とともに参加することができにくい雰囲気や状況があるとされた288人について、活動しにくい状況の内容について、お茶だしや皿洗いなどは女性だけがする暗黙の役割分担がある38.5%(前回42.7%)、決定事項については、従来、男性が取り仕切っている38.2%(前回42.7%)、地域活動で女性が発言することはでしゃばりと思われがちである37.2%(前回36.3%)、主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれる32.6%(前回33.5%)、役員は男性のみで、女性の意見が受け入れられない18.1%(前回21.0%)、参加する女性側の努力がまだ足りない13.9%(前回は項目なし)、地域活動に参加出来るような家族の理解や協力が無い3.8%(前回5.2%)、その他2.8%(前回1.4%)、不明2.4%(前回1.9%)となっています。お茶だしや皿洗いなどは女性だけがする暗黙の役割分担があるや、決定事項については、従来、男性が取り仕切っているはやや減っています。

		合計	1 役員は男性のみで、女性の意見が受け入れられない	2 決定事項については、従来、男性が取り仕切っている	3 主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれる	4 お茶だしや皿洗いなどは女性だけがする暗黙の役割分担がある	5 地域活動で女性が発言することはでしゃばりと思われがちである	6 地域活動に参加出来るような家族の理解や協力が無い	7 参加する女性側の努力がまだ足りない
性別	全体	281	18.5	39.1	33.5	39.5	38.1	3.9	14.2
	女性	171.0	18.7	38.6	27.5	42.1	45.6	4.1	12.9
	男性	110.0	18.2	40.0	42.7	35.5	26.4	3.6	16.4
年齢	全体	281.0	18.5	39.1	33.5	39.5	38.1	3.9	14.2
	20～29歳	13.0	15.4	15.4	61.5	61.5	23.1	15.4	7.7
	30～39歳	31.0	19.4	29.0	38.7	38.7	38.7	6.5	12.9
	40～49歳	57.0	24.6	43.9	31.6	49.1	35.1	1.8	5.3
	50～59歳	65.0	15.4	41.5	36.9	33.8	40.0	6.2	18.5
	60～69歳	63.0	19.0	47.6	28.6	34.9	41.3	1.6	12.7
	70歳以上	52.0	15.4	32.7	26.9	36.5	38.5	1.9	23.1
職業	全体	279.0	18.6	39.1	33.7	39.4	38.0	3.9	14.3
	自営業	42.0	9.5	47.6	19.0	40.5	38.1	2.4	11.9
	正社員	53.0	20.8	41.5	41.5	41.5	28.3	9.4	15.1
	契約社員	8.0	37.5	62.5	25.0	37.5	12.5	12.5	12.5
	公務員	18.0	11.1	66.7	44.4	27.8	22.2	—	11.1
	教職員	2.0	—	—	50.0	100.0	50.0	—	—
	臨時パート	49.0	20.4	18.4	30.6	53.1	51.0	—	16.3
	家事専業	56.0	21.4	35.7	37.5	35.7	42.9	3.6	14.3
	無職	21.0	14.3	52.4	38.1	23.8	28.6	4.8	19.0
	学生	—	—	—	—	—	—	—	—
	その他	30.0	23.3	33.3	30.0	33.3	46.7	3.3	13.3

茶だしや皿洗いなどは女性だけがする暗黙の役割分担があるや、地域活動で女性が発言することはでしゃばりと思われがちであるは女性で多く、主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれるや、参加する女性側の努力がまだ足りないは男性で多くなっています。主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれるや、お茶だしや皿洗いなどは女性だけがする暗黙の役割分担があるは若い人で多く、決定事項については、従来、男性が取り仕切っているは年配の人で多くなっています。地域活動で女性が発言することはでしゃばりと思われがちであるは臨時・パート・アルバイトと家事専業で多くなっています。

## 6、教育

問 11 あなたは、子どものしつけや教育についてどのような考え方をお持ちですか。

( a ) 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方が良い

	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	賛成	764	73.3	78.5
2	どちらかといえば賛成	176	16.9	18.1
3	どちらかといえば反対	10	1.0	1.0
4	反対	3	0.3	0.3
5	分からない	20	1.9	2.1
	不明	70	6.7	
	N (%ベース)	1043	100.0	973

女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方が良いという質問について、賛成 73.3%、どちらかといえば賛成 16.9%、どちらかといえば反対 1.0%、反対 0.3%、分からない 1.9%、不明 6.7%となっています。反対・どちらかといえば反対はごくわずかです。

%		a.女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方が良い					
		合計	1.賛成	2.どちらかとい えば賛成	3.どちらかとい えば反対	4.反対	5.分からない 5.分からない
F1. あ なたの 性別は	全体	971	78.5	18.1	1.0	0.3	2.1
	1 女性	545	79.3	17.8	0.7	0.2	2.0
	2 男性	426	77.5	18.5	1.4	0.5	2.1
F2 年 齢	全体	972	78.5	18.1	1.0	0.3	2.1
	1. 20～29 歳	78	83.3	12.8	1.3	—	2.6
	2. 30～39 歳	158	74.1	22.8	0.6	—	2.5
	3. 40～49 歳	163	78.5	17.8	1.2	0.6	1.8
	4. 50～59 歳	187	78.1	18.7	1.6	—	1.6
	5. 60～69 歳	225	79.1	16.9	0.9	0.4	2.7
	6. 70 歳以上	161	80.1	17.4	0.6	0.6	1.2
F7. あ なたの 職業は	全体	964	78.4	18.2	1.0	0.3	2.1
	1. 自営業	137	81.8	16.1	0.7	—	1.5
	2. 正社員・正規 職員	227	75.8	19.4	2.2	0.4	2.2
	3. 契約社員	36	83.3	13.9	—	—	2.8
	4. 公務員	47	80.9	19.1	—	—	—
	5. 教職員	11	90.9	9.1	—	—	—
	6. 臨時、パート、	145	75.9	19.3	0.7	—	4.1
	7. 家事専業	191	79.1	19.9	0.5	—	0.5
	8. 無職	83	74.7	21.7	1.2	—	2.4
	9. 学生	6	100.0	—	—	—	—
10. その他	81	80.2	12.3	1.2	2.5	3.7	

年齢と職業で有意な関連があります。職業の方が規定力は大きいです。学生・教職員・契約社員で賛成が多く、無職・専業主婦でどちらかといえば賛成が多くなっています。年齢では 20 歳代と 70 歳以上で賛成が多く、30 歳代でどちらかといえば賛成が多くなっています。

(b) 男の子にも炊事・掃除・洗濯など、家庭に必要な技術を身につけさせる方が良い

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	賛成	637	61.1	66.7
2	どちらかといえば賛成	276	26.5	28.9
3	どちらかといえば反対	19	1.8	2.0
4	反対	8	0.8	0.8
5	分からない 5.分からない	15	1.4	1.6
	不明	88	8.4	
	N (%ベース)	1043	100.0	955

男の子にも炊事・掃除・洗濯など、家庭に必要な技術を身につけさせる方が良いについて、賛成 61.1%、どちらかといえば賛成 26.5%、どちらかといえば反対 1.8%、反対 0.8%、分からない 1.4%、不明 8.4%となっています。反対・どちらかといえば反対はごくわずかです。

%		b.男の子にもすいじ・掃除・洗濯など、家庭に必要な技術を身につけさせる方が良い					
		合計	1.賛成	2.どちらか といえば賛成	3.どちらか といえば反対	4.反対	5.分からない
F1. あなたの性別は	全体	953	66.6	29.0	2.0	0.8	1.6
	1 女性	533	73.0	24.4	1.3	0.4	0.9
	2 男性	420	58.6	34.8	2.9	1.4	2.4
F2 年齢	全体	954	66.7	28.9	2.0	0.8	1.6
	1. 20～29 歳	78	76.9	19.2	1.3	—	2.6
	2. 30～39 歳	158	75.3	22.2	0.6	—	1.9
	3. 40～49 歳	164	73.2	25.0	0.6	1.2	—
	4. 50～59 歳	189	65.1	30.7	3.2	0.5	0.5
	5. 60～69 歳	220	60.5	33.2	2.3	0.9	3.2
F7. あなたの職業は	全体	948	66.7	28.9	2.0	0.8	1.6
	1. 自営業	122	67.2	28.7	1.6	—	2.5
	2. 正社員・正規職員	227	62.6	31.7	3.1	1.3	1.3
	3. 契約社員	36	72.2	22.2	2.8	—	2.8
	4. 公務員	47	66.0	29.8	2.1	—	2.1
	5. 教職員	11	100.0	—	—	—	—
	6. 臨時、パート、	147	74.8	23.8	1.4	—	—
	7. 家事専業	187	67.4	29.4	2.7	—	0.5
	8. 無職	83	53.0	41.0	—	2.4	3.6
	9. 学生	6	100.0	—	—	—	—
	10. その他	82	65.9	25.6	1.2	3.7	3.7

性別・年齢別・職業別で有意な関連があります。年齢・性別が規定力が大きく、職業の規定力はやや小さいです。年齢が高いほど賛成が少なく、どちらかといえば賛成が多くなっています。かなりはっきりとした結果が出ています。女性に賛成が多く、男性で少ない、どちらかといえば賛成が男性で多く女性で少ない。職業別では教職員・学生・臨時パートアルバイト・契約社員で賛成が多く、無職・正社員でどちらかといえば賛成が多くなっています。世代や性別で見解が分かれる問題であるといえます。

(c) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる方が良い

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	1.賛成	306	29.3	32.5
2	2.どちらかといえば賛成	354	33.9	37.6
3	3.どちらかといえば反対	111	10.6	11.8
4	4.反対	82	7.9	8.7
5	5.分からない	89	8.5	9.4
	不明	101	9.7	
	N (%ベース)	1043	100.0	942

女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる方が良いについて、賛成 29.3%、どちらかといえば賛成 33.9%、どちらかといえば反対 10.6%、反対 7.9%、分からない 8.5%、不明 9.7%となっています。賛成・どちらかといえば賛成が 6 割、不明を除くと 7 割近くになります。

%		c.女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる方が良い					
		合計	1.賛成	2.どちらかといえば賛成	3.どちらかといえば反対	4.反対	5.分からない 5.分からない
F1. あなたの性別は	全体	940	32.4	37.6	11.8	8.7	9.5
	1 女性	517	26.1	37.3	14.9	10.1	11.6
	2 男性	423	40.2	37.8	8.0	7.1	6.9
F2 年齢	全体	940	32.4	37.6	11.8	8.7	9.5
	1. 20~29 歳	77	19.5	28.6	19.5	19.5	13.0
	2. 30~39 歳	157	26.1	42.7	12.1	6.4	12.7
	3. 40~49 歳	162	30.2	35.2	12.3	8.6	13.6
	4. 50~59 歳	184	29.9	41.3	12.5	9.2	7.1
	5. 60~69 歳	211	37.0	38.4	10.9	7.6	6.2
	6. 70 歳以上	149	45.0	33.6	7.4	6.7	7.4
F7. あなたの職業は	全体	936	32.5	37.5	11.9	8.8	9.4
	1. 自営業	123	36.6	39.8	7.3	7.3	8.9
	2. 正社員職員	226	36.3	36.3	10.6	6.2	10.6
	3. 契約社員	36	33.3	33.3	22.2	2.8	8.3
	4. 公務員	46	15.2	47.8	8.7	17.4	10.9
	5. 教職員	10	10.0	30.0	20.0	30.0	10.0
	6. 臨時、パート、アルバイト	143	23.1	42.0	13.3	9.8	11.9
	7. 家事専業	184	29.3	37.5	15.8	9.8	7.6
	8. 無職	85	44.7	31.8	8.2	9.4	5.9
	9. 学生	6	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3
10. その他	77	40.3	33.8	10.4	7.8	7.8	

性別・年齢別・職業別で有意な関連があり、年齢・性別・職業別の順に規定力が大きくなっています。年齢が高いほど賛成が多く、年齢が若いほど反対が多くなっています。男性で賛成が多く、女性でどちらかといえば反対・反対が多くなっています。無職・その他・自営業・正社員で賛成が多く、教職員・学生・公務員で反対が多くなっています。

( d ) 男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方が良い

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	1.賛成	20	1.9	2.2
2	2.どちらかといえば賛成	43	4.1	4.7
3	3.どちらかといえば反対	138	13.2	15.0
4	4.反対	473	45.3	51.3
5	5.分からない	248	23.8	26.9
	不明	121	11.6	
	N (%ベース)	1043	100.0	922

男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方が良いについて、賛成 1.9%、どちらかといえば賛成 4.1%、どちらかといえば反対 13.2%、反対 45.3%、分からない 23.8%、不明 11.6%となっています。賛成・どちらかといえば賛成は多くありません。

%		d.男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方が良い					
		合計	1.賛成	2.どちらか といえば賛成	3.どちらか といえば反対	4.反対	5.分からない 5.分からない
F1. あなたの性別は	全体	920	2.2	4.7	14.9	51.3	27.0
	1 女性	509	1.0	3.5	14.7	51.9	28.9
	2 男性	411	3.6	6.1	15.1	50.6	24.6
F2 年齢	全体	921	2.2	4.7	15.0	51.2	26.9
	1. 20～29 歳	78	—	1.3	23.1	56.4	19.2
	2. 30～39 歳	157	1.3	1.9	14.6	50.3	31.8
	3. 40～49 歳	162	1.9	3.7	14.2	48.1	32.1
	4. 50～59 歳	182	0.5	3.8	11.0	65.4	19.2
	5. 60～69 歳	206	3.4	4.9	14.6	48.5	28.6
	6. 70 歳以上	136	5.1	11.8	17.6	38.2	27.2
F7. あなたの職業は	全体	916	2.2	4.5	15.1	51.5	26.7
	1. 自営業	115	3.5	7.8	13.9	47.0	27.8
	2. 正社員職員	224	1.8	4.0	14.7	52.2	27.2
	3. 契約社員	36	2.8	2.8	19.4	50.0	25.0
	4. 公務員	46	—	—	17.4	56.5	26.1
	5. 教職員	11	—	—	9.1	90.9	—
	6. 臨時、パート、アルバイト	143	—	1.4	14.0	59.4	25.2
	7. 家事専業	180	0.6	5.0	13.3	48.9	32.2
	8. 無職	80	6.3	8.8	20.0	48.8	16.3
	9. 学生	6	—	—	16.7	50.0	33.3
10. その他	75	6.7	5.3	16.0	42.7	29.3	

年齢と職業別で有意な関連があります。年齢が職業別より規定力が大きくなっています。年齢が若いほど反対が多く、教職員・臨時パート・アルバイトで反対が多くなっています。

問12 あなたは子どもの学歴はどこまで必要だと思いますか。

( a )男の子ども

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	17年3月
1	高等学校	193	18.5	19.1	20.7
2	専門学校	127	12.2	12.6	14.3
3	短大・高専	68	6.5	6.7	5.2
4	大学以上	521	50.0	51.6	50.4
5	その他	100	9.6	9.9	9.3
	不明	34	3.3		
	N (%ベース)	1043	100.0	1009	

男の子の学歴はどこまで必要かという質問では、高等学校 18.5%(不明を除く19.1%・前回 20.7%)、専門学校 12.2%(不明を除く 12.6%・前回 14.3%)、短大・高専 6.5%(不明を除く 6.7%・前回 5.2%)、大学以上 50.0%(不明を除く 51.6%・前回 50.4%)、その他 9.6%(不明を除く9.9%・前回 9.3%)、不明 3.3%となっています。約半数が大学以上と答えています。前回とあまり変わっていません。

%		子どもの学歴はどこまで (a)男の子ども					
		合計	1.高等学校	2.専門学校	3.短大・高専	4.大学以上	5.その他
F1. あなたの性別は	全体	1006	19.2	12.5	6.8	51.6	9.9
	1 女性	557	17.8	13.8	7.4	50.1	11.0
	2 男性	449	20.9	10.9	6.0	53.5	8.7
F2 年齢	全体	1007	19.2	12.5	6.8	51.6	9.9
	1. 20~29 歳	77	35.1	13.0	7.8	35.1	9.1
	2. 30~39 歳	155	24.5	14.2	5.2	45.2	11.0
	3. 40~49 歳	163	27.6	10.4	3.1	46.6	12.3
	4. 50~59 歳	192	16.7	11.5	4.7	53.1	14.1
	5. 60~69 歳	242	15.3	13.6	8.3	57.0	5.8
	6. 70 歳以上	178	7.9	12.4	11.2	60.1	8.4
F7. あなたの職業は	全体	1000	19.2	12.5	6.6	51.9	9.8
	1. 自営業	147	19.0	8.8	14.3	48.3	9.5
	2. 正社員職員	229	24.5	15.3	3.1	47.6	9.6
	3. 契約社員	36	22.2	13.9	5.6	52.8	5.6
	4. 公務員	48	35.4	4.2	2.1	50.0	8.3
	5. 教職員	11	18.2	9.1	—	45.5	27.3
	6. 臨時、パート、アルバイト	149	22.8	12.8	7.4	45.6	11.4
	7. 家事専業	199	13.6	17.1	7.5	54.8	7.0
	8. 無職	91	13.2	8.8	4.4	64.8	8.8
	9. 学生	6	16.7	—	—	66.7	16.7
10. その他	84	8.3	9.5	6.0	60.7	15.5	

年齢と職業で有意な関連があります。年齢が大きな規定力を持ちます。年齢が高いほど大学以上が多く、若いほど高等学校までが多くなっています。無職・学生・その他で大学以上、公務員・正社員で高等学校が多くなっています。

## ( a )女の子ども

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	17年3月
1	高等学校	222	21.3	22.1	26.2
2	専門学校	176	16.9	17.5	17.4
3	短大・高専	212	20.3	21.1	20.1
4	大学以上	293	28.1	29.2	26.4
5	その他	100	9.6	10.0	9.9
	不明	40	3.8		
	N (%ベース)	1043	100.0	1003	

女の子の学歴はどこまで必要かという質問では、高等学校 21.3%(不明を除く22.1%・前回26.2%)、専門学校 16.9%(不明を除く17.5%・前回17.4%)、短大・高専 20.3%(不明を除く21.1%・前回20.1%)、大学以上 28.1%(不明を除く29.2%・前回26.4%)、その他 9.6%(不明を除く10.0%・前回9.9%)、不明 3.8%となっています。約半数が大学以上と答えています。男の子と比べ大学以上が 28.1%(男の子 50.0%)と少なく、短大高専が 20.3%(男の子 6.5%)、高等学校が 21.3%(男の子 18.5%)と多くなっています。前回と比べ大学以上が増え高等学校が少なくなっています。

%		子どもの学歴はどこまで (b)女の子ども					
		合計	1.高等学校	2.専門学校	3.短大・高専	4.大学以上	5.その他
F1. あなたの性別は	全体	1000	22.1	17.6	21.2	29.1	10.0
	1 女性	556	19.8	21.2	18.5	29.3	11.2
	2 男性	444	25.0	13.1	24.5	28.8	8.6
F2 年齢	全体	1001	22.1	17.6	21.2	29.2	10.0
	1. 20～29 歳	77	33.8	16.9	15.6	24.7	9.1
	2. 30～39 歳	154	25.3	16.9	18.2	29.2	10.4
	3. 40～49 歳	163	29.4	13.5	20.2	24.5	12.3
	4. 50～59 歳	190	21.1	15.8	16.3	32.6	14.2
	5. 60～69 歳	242	18.6	21.9	24.0	28.9	6.6
	6. 70 歳以上	175	13.1	18.3	28.6	32.0	8.0
F7. あなたの職業は	全体	994	22.3	17.3	21.1	29.4	9.9
	1. 自営業	143	23.8	13.3	28.7	23.8	10.5
	2. 正社員職員	229	26.6	17.9	20.5	25.3	9.6
	3. 契約社員	35	25.7	20.0	11.4	37.1	5.7
	4. 公務員	48	35.4	4.2	14.6	35.4	10.4
	5. 教職員	11	18.2	9.1	—	45.5	27.3
	6. 臨時、パート、アルバイト	149	26.8	19.5	17.4	24.8	11.4
	7. 家事専業	199	16.1	23.6	21.1	32.2	7.0
	8. 無職	89	16.9	12.4	22.5	40.4	7.9
	9. 学生	6	16.7	—	—	66.7	16.7
10. その他	85	12.9	17.6	27.1	28.2	14.1	

年齢別と職業別で有意な関連があります。年齢が大きな規定力を持ちます。若い人ほど高等学校が多くなっています。学生・教職員・公務員・契約社員で大学以上が多くなっています。

子どもの学歴について、男の子の方が大学以上が多く、女の子の場合と差があります。しかし、これは縮小する傾向にあります。若い人ほど男の子も女の子も高等学校までで良いとする傾向があります。これが性差別の縮小なのか、学歴離れなのかこれ以上はまだわかりません。

## 7、女性の人権

問 13 女性が生涯にわたり心身ともに健康であるためにどのようなことが大事だと思いますか。(3つまで)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前 回
1	女性が性生活について、主体的・総合的に判断でいる力をつける	304	29.1	30.1	28.0
2	妊娠・出産・否認・中絶に関する情報提供	174	16.7	17.2	10.1
3	思春期、妊娠・出産、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進	585	56.0	57.9	53.1
4	学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施	350	33.5	34.6	32.3
5	受診機会の少ない女性が健康診断を受診できるような環境作り	491	47.0	48.6	38.5
6	心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の充実	431	41.3	42.6	48.2
7	不妊に関する悩みに対応する相談機関の充実	129	12.4	12.8	9.4
8	女性の人権 その他	21	2.0	2.1	2.3
9	女性の人権 特にない	46	4.4	4.5	3.1
10	女性の人権 わからない	61	5.8	6.0	5.1
	不明	33	3.2		6.4
	N (%ベース)	1044	100.0	1011	1511

女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために、どのようなことが必要ですかという質問について、思春期、妊娠・出産、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進 56.0%(前回 53.1%)、受診機会の少ない女性が健康診断を受診できるような環境作り 47.0%(前回 38.5%)、心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の充実 41.3%(前回 48.2%)、学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施 33.5%(前回 32.3%)、女性が性生活について、主体的・総合的に判断でいる力をつける 29.1%(前回 28.0%)、妊娠・出産・否認・中絶に関する情報提供 16.7%(前回 10.1%)、不妊に関する悩みに対応する相談機関の充実 12.4%(前回 9.4%)、その他 2.0%(前回 2.3%)、特にない 4.4%(前回 3.1%)、わからない 5.8%(前回 5.1%)、不明 3.2%(前回 6.4%)となっています。第 1 位の思春期、妊娠・出産、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進は少し減ったものの順位は変わらず、受診機会の少ない女性が健康診断を受診できるような環境作りが前回よりもふえて第 2 位に、前回 2 位だった心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の充実が少し減って今回は第 3 位になっています。健康診断の充実を希望する人が増えているようです。

性別で大きな違いはありませんが、学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施が女性 37.1%に対して男性 31.3%と女性の方が人権教育の必要性を感じています。1 位の思春期、妊娠・出産、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進は 20 歳代で 47.4%と少なく・60 歳代で 66.3%と多くなっています。前回よりふえて今回 2 位の受診機会の少ない女性が健康診断を受診できるような環境作りは、20・30・40 歳代で多く、とくに 30 歳代では 62.7%となっています。3 位の心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の充実はとくに年齢による違いはありません。学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施は 70 歳以上で 42.4%と多く、20 歳代では 20.5%と少なくなっています。妊娠・出産・否認・中絶に関する情報提供と不妊に関する悩みに対応する相談機関の充実は 20・30・40 歳代で多くなっています。思春期、妊娠・出産、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進は無職・家事専業で多く、受診機会の少ない女性が健康診断を受診できるような環境作りは臨時・パート・アルバイト 59.2%と多くなっています。学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施は家事専業で 40.5%と多くなっています。

		合計	女性が性生活について、主体的・総合的に判断している力をつける	妊娠・出産・否認・中絶に関する情報提供	思春期、妊娠・出産、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進	学校における人権尊重及び健康の視点到った性教育の実施	受診機会の少ない女性が健康診断を受診できるような環境作り	心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の充実	不妊に関する悩みに専門的に対応する相談機関の充実
性別	全体	1008	30.2	17.3	57.8	34.5	48.5	42.6	12.7
	女性	564.0	30.0	17.6	58.5	37.1	48.6	42.0	13.3
	男性	444.0	30.4	16.9	57.0	31.3	48.4	43.2	11.9
年齢	全体	1009.0	30.1	17.2	57.9	34.6	48.5	42.6	12.7
	20～29歳	78.0	23.1	34.6	47.4	20.5	53.8	39.7	23.1
	30～39歳	158.0	22.8	19.6	55.7	29.7	62.7	39.9	17.1
	40～49歳	163.0	20.9	20.2	54.0	29.4	56.4	49.1	13.5
	50～59歳	193.0	35.8	13.0	56.0	38.9	45.1	42.0	9.8
	60～69歳	240.0	34.2	15.4	66.3	36.7	41.3	44.6	12.1
	70歳以上	177.0	36.7	11.9	58.8	42.4	39.5	38.4	7.3
職業	全体	1003.0	30.0	17.3	57.7	34.4	48.6	42.9	12.8
	自営業	145.0	36.6	15.2	56.6	37.2	35.9	42.1	10.3
	正社員	233.0	23.6	21.5	55.4	27.5	47.6	42.1	17.2
	契約社員	35.0	37.1	11.4	57.1	22.9	48.6	42.9	11.4
	公務員	49.0	30.6	26.5	46.9	34.7	44.9	32.7	14.3
	教職員	11.0	18.2	27.3	36.4	36.4	63.6	63.6	9.1
	臨時パート、アルバイト	147.0	21.1	17.7	59.9	34.7	59.2	48.3	12.2
	家事専業	200.0	31.0	17.0	61.0	40.5	50.5	42.5	10.5
	無職	91.0	39.6	13.2	63.7	44.0	39.6	37.4	7.7
	学生	6.0	33.3	—	50.0	50.0	66.7	50.0	—
	その他	86.0	37.2	11.6	58.1	26.7	58.1	46.5	17.4

\* その他・とくにない・わからない・不明を省略

## 8、ドメスティック・バイオレンス(夫婦・恋人間の暴力)について

問 14 あなたはこれまでに、配偶者や恋人など親しい人間関係にある人との間で、次のようなことを受けたことがありますか。

( a ) たたく、突き飛ばす

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	何度もあった	44	4.2	4.5
2	1, 2度あった	120	11.5	12.3
3	ない	811	77.8	83.2
	不明	68	6.5	
	N (%ベース)	1043	100.0	975

たたく、突き飛ばすについて、何度もあった 4.2%、1, 2度あった 11.5%、ない 77.8%、不明 6.5%となっています。前回の調査では選択肢が今回と異なっています。されたことがあるとなっていますが、これが 9.7%となっており、何度もあった・1, 2度あったあわせると今回が 15.7%ですから少しふえています。女性だけでは何度もあった、1, 2度あったあわせて今回が 20.3%、前回されたことがあるが女性だけで 15.2%で、かなり増えています。

%		(a) たたく、突き飛ばす			
		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F1. あなたの性別は	全体	973	4.5	12.3	83.1
	1 女性	537	6.9	13.4	79.7
	2 男性	436	1.6	11.0	87.4
F2 年齢	全体	974	4.5	12.3	83.2
	1. 20～29 歳	76	7.9	10.5	81.6
	2. 30～39 歳	160	3.8	12.5	83.8
	3. 40～49 歳	162	4.9	11.1	84.0
	4. 50～59 歳	188	4.8	15.4	79.8
	5. 60～69 歳	228	4.4	10.5	85.1
	6. 70 歳以上	160	3.1	13.1	83.8
F7. あなたの職業は	全体	966	4.5	12.4	83.1
	1. 自営業	136	5.1	11.0	83.8
	2. 正社員・職員	227	5.7	11.9	82.4
	3. 契約社員	34	2.9	8.8	88.2
	4. 公務員	48	—	4.2	95.8
	5. 教職員	11	—	9.1	90.9
	6. 臨時、パート、アルバイト	144	6.3	16.0	77.8
	7. 家事専業	193	5.7	12.4	81.9
	8. 無職	87	—	10.3	89.7
	9. 学生	5	—	—	100.0
10. その他	81	2.5	19.8	77.8	

性別と職業別で有意な関連があります。年齢別ではありません。性別の規定力が大きくなっています。何度もあったが女性で6.9%、男性で1.6%、1・2度あったが女性13.4%、男性11.0%となっています。臨時・パート・アルバイトで何度もあった・1・2度あったが多くなっています。今後の分析では何度もあったが多い女性だけについて要因別分析を行います。

女性だけについて、年齢別・配偶関係別・職業別に見たものです。配偶関係・職業・年齢の順で関連があります。配偶関係では離別・死別で何度もあったがかなり多く、1・2度あったも多くなっています。離婚の背景にDVが関係していることがわかります。未婚者でも何度もあるが5.3%あります。結婚前の恋愛関係などにおけるDV、いわゆるデートDVが少なくないことを示しています。職業別では正社員・正規職員で何度もあったがかなり多くでています。臨時・パート・アルバイトと自営業でも何度もあったが対象者全体を大きく上回る7%台となっています。これは女性の就労をめぐる問題や家事育児分担などが背景にあると考えられます。

1 女性 %		(a) たたく、突き飛ばす			
		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F2 年齢	全体	537	6.9	13.4	79.7
	1. 20～29 歳	54	7.4	14.8	77.8
	2. 30～39 歳	92	6.5	15.2	78.3
	3. 40～49 歳	97	8.2	11.3	80.4
	4. 50～59 歳	109	7.3	16.5	76.1
	5. 60～69 歳	110	5.5	10.0	84.5
	6. 70 歳以上	75	6.7	13.3	80.0
F3. あなたは結婚(事実婚を含む)をしますか。	全体	537	6.9	13.4	79.7
	1.結婚している(事実婚含む)	379	5.8	14.2	79.9
	2.結婚したことがない	76	5.3	5.3	89.5
	3.結婚していたが離死別した	82	13.4	17.1	69.5
F7. あなたの職業は	全体	532	6.8	13.5	79.7
	1. 自営業	57	7.0	8.8	84.2
	2. 正社員・正規職員	83	12.0	13.3	74.7
	3. 契約社員	16	6.3	18.8	75.0
	4. 公務員	12	—	8.3	91.7
	5. 教職員	5	—	20.0	80.0
	6. 臨時、パート、アルバイト	119	7.6	16.0	76.5
	7. 家事専業	185	5.4	13.0	81.6
	8. 無職	16	—	12.5	87.5
	9. 学生	4	—	—	100.0
10. その他	35	5.7	17.1	77.1	

( b ) 殴る、蹴る

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	何度もあった	45	4.3	4.6
2	1, 2度あった	71	6.8	7.3
3	ない	856	82.1	88.1
	不明	71	6.8	
	N (%ベース)	1043	100.0	972

殴る、蹴るについて、何度もあった4.3%、1,2度あった6.8%、ない82.1%、不明6.8%となっています。前回の調査ではされたことが5.8%となっており、かなりふえています。女性だけでは何度もあった、1,2度あったあわせて15.3%、前回のされたことがある8.8%よりかなり増えています。

%		(b) 殴る、蹴る			
		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F1. あなたの性別は	全体	970	4.6	7.3	88.0
	1 女性	538	7.1	8.2	84.8
	2 男性	432	1.6	6.3	92.1

何どもあったが女性で7.1%、男性で1.6%、1・2度あったが女性8.2%、男性6.3%となっています。

1 女性 %		(b) 殴る、蹴る			
		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F2 年齢	全体	538	7.1	8.2	84.8
	1. 20～29 歳	54	5.6	18.5	75.9
	2. 30～39 歳	91	5.5	13.2	81.3
	3. 40～49 歳	96	6.3	8.3	85.4
	4. 50～59 歳	110	6.4	6.4	87.3
	5. 60～69 歳	112	9.8	3.6	86.6
	6. 70 歳以上	75	8.0	4.0	88.0
F3. あなたは結婚(事実婚を含む)をしますか。	全体	538	7.1	8.2	84.8
	1.結婚している(事実婚含む)	382	6.3	8.9	84.8
	2.結婚したことがない	76	5.3	6.6	88.2
	3.結婚していたが、離死別	80	12.5	6.3	81.3
F7. あなたの職業は	全体	533	6.9	8.3	84.8
	1. 自営業	59	6.8	6.8	86.4
	2. 正社員・正規職員	82	11.0	11.0	78.0
	3. 契約社員	16	—	18.8	81.3
	4. 公務員	12	—	8.3	91.7
	5. 教職員	5	—	20.0	80.0
	6. 臨時、パート、アルバイト	119	6.7	10.9	82.4
	7. 家事専業	186	6.5	5.9	87.6
	8. 無職	16	6.3	—	93.8
	9. 学生	4	—	—	100.0
10. その他	34	8.8	5.9	85.3	

年齢・職業・配偶関係の順で関連が大きくなっています。何どもあったが 60 歳代と 70 歳以上でやや多くなっています。職業別では正社員・正規職員で何どもあったが多くなっています。離死別で 12.5%と多く、未婚者でも 5.3%かなりあります。

(c) 身体を傷つける可能性のある物で殴る

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	何どもあった	11	1.1	1.1
2	1, 2度あった	19	1.8	2.0
3	ない	931	89.3	96.9
	不明	82	7.9	
	N (%ベース)	1043	100.0	961

身体を傷つける可能性のある物で殴るは、何どもあった 1.1%、1,2 度あった 1.8%、ない 89.3%、不明 7.9%となっています。前回の調査ではされたことが 1.2%となっており、かなり増えています。女性だけでは何どもあった、1,2 度あったあわせて 3.1%、前回のされたことがある 1.2%よりかなり増えています。

%		(c) 身体を傷つける可能性のある物で殴る			
		合計	1.何どもあった	2.1, 2度あった	3.ない
F1. あなたの性別は	全体	959	1.1	2.0	96.9
	1 女性	528	1.9	2.5	95.6
	2 男性	431	0.2	1.4	98.4

1 女性 %		(c) 身体を傷つける可能性のある物で殴る			
		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F2 年齢	全体	528	1.9	2.5	95.6
	1. 20～29 歳	54	3.7	3.7	92.6
	2. 30～39 歳	89	1.1	4.5	94.4
	3. 40～49 歳	95	—	3.2	96.8
	4. 50～59 歳	106	0.9	2.8	96.2
	5. 60～69 歳	109	1.8	0.9	97.2
	6. 70 歳以上	75	5.3	—	94.7
F3. あなたは結婚(事実婚を含む)をしますか。	全体	528	1.9	2.5	95.6
	1.結婚している(事実婚含む)	372	1.3	2.7	96.0
	2.結婚したことがない	76	1.3	3.9	94.7
	3.結婚していたが、離婚死別	80	5.0	—	95.0
F7. あなたの職業は	全体	523	1.9	2.5	95.6
	1. 自営業	58	5.2	1.7	93.1
	2. 正社員・正規職員	81	1.2	4.9	93.8
	3. 契約社員	16	—	—	100.0
	4. 公務員	12	—	—	100.0
	5. 教職員	5	—	—	100.0
	6. 臨時、パート、アルバイト	115	0.9	3.5	95.7
	7. 家事専業	181	1.7	1.7	96.7
	8. 無職	16	—	—	100.0
	9. 学生	4	—	—	100.0
	10. その他	35	5.7	2.9	91.4

女性だけについて年齢別・配偶関係別・職業別の見たものが上の表です。年齢と職業で関連があり配偶関係では有意な関連がありません。何度もあったが70歳以上と20歳代が多く、1,2度あったも30歳代・20歳代・40歳代で多くなっています。職業別では何度もあったが、その他と自営業で多く、1,2度あったが正社員・正規職員と臨時・パート・アルバイトで多くなっています。

(d) 「殺す」「けがをさせる」などとおどす

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	何度もあった	27	2.6	2.8
2	1, 2度あった	28	2.7	2.9
3	ない	903	86.6	94.3
	不明	85	8.1	
	N (%ベース)	1043	100.0	958

「殺す」「けがをさせる」などとおどすは、何どもあった2.6%、1,2度あった2.7%、ない86.6%、不明8.1%となっています。前回の調査ではされたことが1.8%となっており、増えています。女性だけでは何どもあった、1,2度あったあわせて5.7%、前回のされたことがある3.0%よりかなり増えています。

%		(d) 「殺す」「けがをさせる」などとおどす			
		合計	1.何どもあった	2.1, 2度あった	3.ない
F1. あなたの性別は	全体	956	2.8	2.9	94.2
	1 女性	529	4.7	3.6	91.7
	2 男性	427	0.5	2.1	97.4

1 女性 %		(d) 「殺す」「けがをさせる」などと言っておどす			
		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F2 年齢	全体	529	4.7	3.6	91.7
	1. 20～29 歳	54	9.3	9.3	81.5
	2. 30～39 歳	91	5.5	5.5	89.0
	3. 40～49 歳	96	4.2	5.2	90.6
	4. 50～59 歳	107	4.7	2.8	92.5
	5. 60～69 歳	108	3.7	—	96.3
	6. 70 歳以上	73	2.7	1.4	95.9
F3. あなたは結婚(事実婚を含む)をしますか。	全体	529	4.7	3.6	91.7
	1.結婚している(事実婚含む)	374	4.5	2.9	92.5
	2.結婚したことがない	76	2.6	6.6	90.8
	3.結婚していたが、離死別	79	7.6	3.8	88.6
F7. あなたの職業は	全体	524	4.8	3.6	91.6
	1. 自営業	57	3.5	1.8	94.7
	2. 正社員・正規職員	82	8.5	7.3	84.1
	3. 契約社員	16	12.5	—	87.5
	4. 公務員	12	—	—	100.0
	5. 教職員	5	—	—	100.0
	6. 臨時、パート、アルバイト	115	4.3	7.8	87.8
	7. 家事専業	183	3.8	1.6	94.5
	8. 無職	16	—	—	100.0
	9. 学生	4	—	—	100.0
10. その他	34	5.9	—	94.1	

年齢・職業・配偶関係の順で有意な関連が大きくなっています。女性だけでは、何度もあった、1・2度あったとも 20 歳代で多く、若い人ほど多い傾向があります。職業別では契約社員で何度もあったが 12.5%、正社員・正規職員で 8.5%と多くなっています。1・2度あったが臨時・パート・アルバイトと正社員・正規職員で多くなっています。離死別で 7.6%と多く、1・2度あったが未婚者で 6.6%と多くなっています。

( e ) なぐるふりをしておどす

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	何度もあった	41	3.9	4.3
2	1, 2度あった	61	5.8	6.4
3	ない	856	82.1	89.4
	不明	85	8.1	
	N (%ベース)	1043	100.0	958

なぐるふりをしておどすは、何度もあった 3.9%、1,2 度あった 5.8%、ない 82.1%、不明 8.1%となっています。前回の調査ではされたことが 3.8%となっており、ふえています。女性だけでは何度もあった、1,2 度あったあわせて 10.7%、前回のされたことがある 6.1%よりかなり増えています。

%		(e) なぐるふりをしておどす			
		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F1. あなたの性別は	全体	956	4.3	6.4	89.3
	1 女性	528	6.6	5.3	88.1
	2 男性	428	1.4	7.7	90.9

1 女性 %		(e) ながるふりをしておどす			
		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F2 年齢	全体	528	6.6	5.3	88.1
	1. 20～29 歳	54	7.4	9.3	83.3
	2. 30～39 歳	91	7.7	7.7	84.6
	3. 40～49 歳	95	6.3	8.4	85.3
	4. 50～59 歳	106	6.6	0.9	92.5
	5. 60～69 歳	108	6.5	3.7	89.8
	6. 70 歳以上	74	5.4	4.1	90.5
F3. あなたは結婚(事実婚を含む)をしますか。	全体	528	6.6	5.3	88.1
	1.結婚している(事実婚含む)	372	6.5	5.1	88.4
	2.結婚したことがない	76	3.9	3.9	92.1
	3.結婚していたが、離死別	80	10.0	7.5	82.5
F7. あなたの職業は	全体	523	6.7	5.4	88.0
	1. 自営業	56	5.4	7.1	87.5
	2. 正社員・正規職員	82	12.2	4.9	82.9
	3. 契約社員	16	—	6.3	93.8
	4. 公務員	12	—	—	100.0
	5. 教職員	5	—	—	100.0
	6. 臨時、パート、アルバイト	115	7.0	7.8	85.2
	7. 家事専業	182	5.5	4.4	90.1
	8. 無職	16	—	6.3	93.8
	9. 学生	4	—	—	100.0
10. その他	35	11.4	2.9	85.7	

女性だけで見てみると、年齢・職業・配偶関係の順で有意な関連があります。何度もあったと 1,2 度あったとも若い人が多い傾向があります。何度もあったが正社員・正規職員 12.2%、その他で 11.4%あります。離死別で何どもあった 10.0%・1,2 度あった 7.5%と多く、未婚でも何どもあったが 3.9%あります。

( f ) 刃物などをつきつけて、おどす

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	何どもあった	9	0.9	0.9
2	1, 2度あった	11	1.1	1.1
3	ない	938	89.9	97.9
	不明	85	8.1	
	N (%ベース)	1043	100.0	958

刃物などをつきつけておどすは、何どもあった 0.9%、1,2 度あった 1.1%、ない 89.9%、不明 8.1%となっています。前回の調査ではされたことが 0.7%となっており、増えています。女性だけでは何どもあった、1,2 度あったあわせて 2.1%、前回のされたことがある 1.0%よりかなり増えています。

%		(f) 刃物などをつきつけて、おどす			
		合計	1.何どもあった	2.1, 2度あった	3.ない
F1. あなたの性別は	全体	956	0.9	1.2	97.9
	1 女性	527	1.5	0.6	97.9
	2 男性	429	0.2	1.9	97.9

1 女性		(f) 刃物などをつきつけて、おどす			
%		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F2 年齢	全体	527	1.5	0.6	97.9
	1. 20～29 歳	54	—	—	100.0
	2. 30～39 歳	90	2.2	—	97.8
	3. 40～49 歳	95	1.1	—	98.9
	4. 50～59 歳	107	2.8	0.9	96.3
	5. 60～69 歳	107	1.9	0.9	97.2
	6. 70 歳以上	74	—	1.4	98.6
F3. あなたは結婚(事実婚を含む)をしますか。	全体	527	1.5	0.6	97.9
	1.結婚している(事実婚含む)	370	0.8	0.3	98.9
	2.結婚したことがない	76	1.3	—	98.7
	3.結婚していたが、離死別	81	4.9	2.5	92.6
F7. あなたの職業は	全体	522	1.5	0.6	97.9
	1. 自営業	57	1.8	3.5	94.7
	2. 正社員・正規職員	81	2.5	1.2	96.3
	3. 契約社員	16	—	—	100.0
	4. 公務員	12	—	—	100.0
	5. 教職員	5	—	—	100.0
	6. 臨時、パート、アルバイト	116	2.6	—	97.4
	7. 家事専業	181	—	—	100.0
	8. 無職	16	—	—	100.0
	9. 学生	4	—	—	100.0
10. その他	34	5.9	—	94.1	

配偶関係・職業・年齢の順で有意な関連がでています。離死別、その他、臨時・パート・アルバイト、正社員・正規職員、50歳代で何度もあったが多いです。

(g) 家具や食器、日用品等を投げたりして、おどす

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	何度もあった	42	4.0	4.4
2	1, 2度あった	74	7.1	7.7
3	ない	843	80.8	87.9
	不明	84	8.1	
	N (%ベース)	1043	100.0	959

家具や食器、日用品等を投げたりして、おどすは、何度もあった 4.0%、1,2 度あった 7.1%、ない 80.8%、不明 8.1%となっています。前回の調査ではされたことが 4.8%となっており、増えています。女性だけでは何度もあった、1,2 度あったあわせて 15.1%、前回の女性でのされたことがある 8.1%よりかなり増えています。

%		(g) 家具や食器、日用品等を投げたりして、おどす			
		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F1. あなたの性別は	全体	957	4.4	7.7	87.9
	1 女性	529	7.0	8.1	84.9
	2 男性	428	1.2	7.2	91.6

1 女性		(g) 家具や食器、日用品等を投げたりして、おどす			
%		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F2 年齢	全体	529	7.0	8.1	84.9
	1. 20～29 歳	54	7.4	9.3	83.3
	2. 30～39 歳	91	11.0	8.8	80.2
	3. 40～49 歳	95	6.3	9.5	84.2
	4. 50～59 歳	109	5.5	8.3	86.2
	5. 60～69 歳	107	5.6	9.3	85.0
	6. 70 歳以上	73	6.8	2.7	90.4
F3. あなたは結婚(事実婚を含む)をしますか。	全体	529	7.0	8.1	84.9
	1.結婚している(事実婚含む)	371	6.2	8.9	84.9
	2.結婚したことがない	77	2.6	6.5	90.9
	3.結婚していたが、離死別	81	14.8	6.2	79.0
F7. あなたの職業は	全体	524	7.1	8.0	84.9
	1. 自営業	57	8.8	10.5	80.7
	2. 正社員・正規職員	83	4.8	13.3	81.9
	3. 契約社員	16	12.5	—	87.5
	4. 公務員	12	—	—	100.0
	5. 教職員	5	—	—	100.0
	6. 臨時、パート、アルバイト	116	10.3	6.0	83.6
	7. 家事専業	181	6.1	8.3	85.6
	8. 無職	16	6.3	18.8	75.0
	9. 学生	4	—	—	100.0
10. その他	34	5.9	—	94.1	

配偶関係・職業・年齢の順で有意な関連があります。離死別、契約社員、臨時・パート・アルバイト、30 歳代で何度もあったが多くなっています。

( h ) 大声でどなって威嚇する

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	何度もあった	97	9.3	10.0
2	1, 2度あった	184	17.6	19.0
3	ない	688	66.0	71.0
	不明	74	7.1	
	N (%ベース)	1043	100.0	969

大声でどなって威嚇するは、何度もあった 9.3%、1,2 度あった 17.6%、ない 66.6%、不明 7.1%となっています。前回の調査ではされたことが 10.9%となっており、増えています。女性だけでは何度もあった、1,2 度あったあわせて 31.8%、前回の女性でのされたことがある 17.4%よりかなり増えています。

%		(h) 大声でどなって威嚇する			
		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F1. あなたの性別は	全体	967	10.0	19.0	70.9
	1 女性	534	13.3	18.5	68.2
	2 男性	433	6.0	19.6	74.4

1 女性 %		(h) 大声でどなって威嚇する			
		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F2 年齢	全体	534	13.3	18.5	68.2
	1. 20～29 歳	53	18.9	17.0	64.2
	2. 30～39 歳	90	14.4	16.7	68.9
	3. 40～49 歳	94	13.8	23.4	62.8
	4. 50～59 歳	109	8.3	22.0	69.7
	5. 60～69 歳	111	17.1	15.3	67.6
	6. 70 歳以上	77	9.1	15.6	75.3
F3. あなたは結婚(事実婚を含む)をしますか。	全体	534	13.3	18.5	68.2
	1.結婚している(事実婚含む)	378	13.0	19.0	68.0
	2.結婚したことがない	75	10.7	13.3	76.0
	3.結婚していたが、離死別	81	17.3	21.0	61.7
F7. あなたの職業は	全体	529	13.2	18.7	68.1
	1. 自営業	57	10.5	19.3	70.2
	2. 正社員・正規職員	83	15.7	20.5	63.9
	3. 契約社員	16	18.8	12.5	68.8
	4. 公務員	12	—	16.7	83.3
	5. 教職員	5	—	40.0	60.0
	6. 臨時、パート、アルバイト	118	17.8	18.6	63.6
	7. 家事専業	183	14.2	16.9	68.9
	8. 無職	16	—	25.0	75.0
	9. 学生	4	—	25.0	75.0
10. その他	35	2.9	20.0	77.1	

職業・年齢・配偶関係で有意な関連があります。臨時・パート・アルバイト、契約社員で何度もあるが多くなっています。年齢では 20 歳代と 60 歳代で何度もあるが多くなっています。離死別で何度もあるが 17.3%と多く、未婚でも 10.7%あります。

( i ) 何を言っても長時間無視し続ける

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	何度もあった	49	4.7	5.1
2	1, 2度あった	114	10.9	11.8
3	ない	800	76.7	83.1
	不明	80	7.7	
	N (%ベース)	1043	100.0	963

何を言っても長時間無視し続けるは、何どもあった 4.7%、1,2 度あった 10.9%、ない 76.7%、不明 7.7%となっています。前回の調査ではされたことが 6.8%となっており、増えています。女性だけでは何どもあった、1,2 度あったあわせて 19.3%、前回の女性でされたことがある 8.8%よりかなり増えています。

%		(i) 何を言っても長時間無視し続ける			
		合計	1.何どもあった	2.1, 2度あった	3.ない
F1. あなたの性別は	全体	961	5.1	11.9	83.0
	1 女性	534	7.1	12.2	80.7
	2 男性	427	2.6	11.5	85.9

1 女性		%	(i) 何を言っても長時間無視し続ける			
			合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F2 年齢	全体		534	7.1	12.2	80.7
	1. 20～29 歳		54	5.6	14.8	79.6
	2. 30～39 歳		90	7.8	8.9	83.3
	3. 40～49 歳		95	8.4	15.8	75.8
	4. 50～59 歳		108	10.2	13.9	75.9
	5. 60～69 歳		110	5.5	10.0	84.5
	6. 70 歳以上		77	3.9	10.4	85.7
F3. あなたは結婚(事実婚を含む)をしますか。	全体		534	7.1	12.2	80.7
	1.結婚している(事実婚含む)		375	6.7	13.1	80.3
	2.結婚したことがない		77	5.2	6.5	88.3
	3.結婚していたが、離死別		82	11.0	13.4	75.6
F7. あなたの職業は	全体		529	7.2	12.3	80.5
	1. 自営業		57	8.8	12.3	78.9
	2. 正社員・正規職員		83	8.4	10.8	80.7
	3. 契約社員		16	12.5	18.8	68.8
	4. 公務員		12	—	8.3	91.7
	5. 教職員		5	—	40.0	60.0
	6. 臨時、パート、アルバイト		116	8.6	15.5	75.9
	7. 家事専業		183	6.0	10.9	83.1
	8. 無職		17	11.8	5.9	82.4
	9. 学生		4	—	—	100.0
10. その他		36	2.8	11.1	86.1	

女性だけでは、職業・配偶関係・年齢で有意な関連がでています。何度もあったが契約社員で 12.5%、無職で 11.8%、離死別で 11.0%、50 歳代で 10.2%と多くなっています。

( j ) 「誰のおかげで生活できるんだ」などとののしる

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	何度もあった	30	2.9	3.1
2	1, 2度あった	65	6.2	6.7
3	3 ない	872	83.6	90.2
	不明	76	7.3	
	N (%ベース)	1043	100.0	967

「誰のおかげで生活できるんだ」などとののしるは、何度もあった 2.9%、1,2 度あった 6.2%、ない 83.6%、不明 7.3%となっています。前回の調査ではされたことが 5.5%となっており、増えています。女性だけでは何度もあった、1,2 度あったあわせて 11.8%、前回の女性でされたことがある 7.9%よりかなり増えています。

%		(j) 「誰のおかげで生活できるんだ」などとののしる			
		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F1. あなたの性別は	全体	965	3.1	6.7	90.2
	1 女性	534	5.1	6.7	88.2
	2 男性	431	0.7	6.7	92.6

1 女性		%	(j) 「誰のおかげで生活できるんだ」などののしる			
			合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F2 年齢	全体		534	5.1	6.7	88.2
	1. 20～29 歳		54	11.1	5.6	83.3
	2. 30～39 歳		90	7.8	7.8	84.4
	3. 40～49 歳		95	7.4	6.3	86.3
	4. 50～59 歳		108	3.7	7.4	88.9
	5. 60～69 歳		111	1.8	9.0	89.2
	6. 70 歳以上		76	1.3	2.6	96.1
F3. あなたは結婚(事実婚を含む)をしますか。	全体		534	5.1	6.7	88.2
	1.結婚している(事実婚含む)		375	4.0	6.4	89.6
	2.結婚したことがない		76	7.9	1.3	90.8
	3.結婚していたが、離死別		83	7.2	13.3	79.5
F7. あなたの職業は	全体		529	5.1	6.8	88.1
	1. 自営業		57	—	7.0	93.0
	2. 正社員・正規職員		82	9.8	4.9	85.4
	3. 契約社員		16	12.5	6.3	81.3
	4. 公務員		12	—	—	100.0
	5. 教職員		5	—	—	100.0
	6. 臨時、パート、アルバイト		117	7.7	10.3	82.1
	7. 家事専業		184	3.8	4.9	91.3
	8. 無職		16	—	12.5	87.5
	9. 学生		4	—	—	100.0
10. その他		36	2.8	11.1	86.1	

女性だけについてみると、年齢・配偶関係・職業で有意な関連がでています。何度もあったは20歳代で11.1%と若い人ほど多い傾向があります。未婚者で7.9%と多く、離死別で7.2%と多くなっています。契約社員で何度もあったが12.5%、正社員・正規職員で9.8%と多くなっています。

(k) 大切にしている物をわざと捨てたり、壊したりする

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	何度もあった	15	1.4	1.6
2	1, 2度あった	43	4.1	4.5
3	ない	903	86.6	94.0
	不明	82	7.9	
	N (%ベース)	1043	100.0	961

大切にしている物をわざと捨てたり、壊したりするは、何度もあった1.4%、1,2度あった4.1%、ない86.6%、不明7.9%となっています。前回の調査ではされたことが2.4%となっており、増えています。女性だけでは何度もあった、1,2度あったあわせて7.9%、前回の女性でされたことがある3.3%よりかなり増えています。

%		(k) 大切にしている物をわざと捨てたり、壊したりする			
		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F1. あなたの性別は	全体	959	1.6	4.5	94.0
	1 女性	531	2.4	5.5	92.1
	2 男性	428	0.5	3.3	96.3

1 女性		(k) 大切にしている物をわざと捨てたり、壊したりする			
%		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F2 年齢	全体	531	2.4	5.5	92.1
	1. 20～29 歳	54	5.6	7.4	87.0
	2. 30～39 歳	90	2.2	5.6	92.2
	3. 40～49 歳	96	4.2	6.3	89.6
	4. 50～59 歳	108	0.9	8.3	90.7
	5. 60～69 歳	108	0.9	1.9	97.2
	6. 70 歳以上	75	2.7	4.0	93.3
F3. あなたは結婚(事実婚を含む)をしますか。	全体	531	2.4	5.5	92.1
	1.結婚している(事実婚含む)	374	0.8	5.1	94.1
	2.結婚したことがない	76	3.9	3.9	92.1
	3.結婚していたが、離死別	81	8.6	8.6	82.7
F7. あなたの職業は	全体	526	2.5	5.5	92.0
	1. 自営業	57	3.5	7.0	89.5
	2. 正社員・正規職員	82	4.9	9.8	85.4
	3. 契約社員	16	—	12.5	87.5
	4. 公務員	12	—	—	100.0
	5. 教職員	5	—	20.0	80.0
	6. 臨時、パート、アルバイト	117	2.6	6.8	90.6
	7. 家事専業	182	2.2	2.7	95.1
	8. 無職	16	—	—	100.0
	9. 学生	4	—	—	100.0
10. その他	35	—	2.9	97.1	

配偶関係・職業・年齢の順で有意な関連がでています。離死別で何度もあったが 8.6%、未婚でも 3.9%あります。20 歳代で 5.6%と多く、正社員・正規職員で 4.9%と多くなっています。

(1) 社会的な活動や就職などを許さない

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	何度もあった	14	1.3	1.5
2	1, 2度あった	24	2.3	2.5
3	.ない	921	88.3	96.0
	不明	84	8.1	
	N (%ベース)	1043	100.0	959

社会的な活動や就職などを許さないは、何度もあった 1.3%、1,2 度あった 2.3%、ない 88.3%、不明 8.1%となっています。前回の調査ではされたことがある 1.5%となっており、増えています。女性だけでは何度もあった、1,2 度あったあわせて 4.0%、前回の女性でされたことがある 2.5%よりかなり増えています。

%		(l) 社会的な活動や就職などを許さない			
		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F1. あなたの性別は	全体	957	1.5	2.5	96.0
	1 女性	529	2.6	4.2	93.2
	2 男性	428	—	0.5	99.5

1 女性 %		(I) 社会的な活動や就職などを許さない			
		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F2 年齢	全体	529	2.6	4.2	93.2
	1. 20～29 歳	53	3.8	3.8	92.5
	2. 30～39 歳	91	1.1	5.5	93.4
	3. 40～49 歳	95	5.3	4.2	90.5
	4. 50～59 歳	107	2.8	2.8	94.4
	5. 60～69 歳	109	1.8	5.5	92.7
	6. 70 歳以上	74	1.4	2.7	95.9
F3. あなたは結婚(事実婚を含む)をしますか。	全体	529	2.6	4.2	93.2
	1.結婚している(事実婚含む)	373	1.6	2.9	95.4
	2.結婚したことがない	75	2.7	2.7	94.7
	3.結婚していたが、離死別	81	7.4	11.1	81.5
F7. あなたの職業は	全体	524	2.7	4.2	93.1
	1. 自営業	57	1.8	3.5	94.7
	2. 正社員・正規職員	82	7.3	4.9	87.8
	3. 契約社員	16	—	—	100.0
	4. 公務員	12	—	—	100.0
	5. 教職員	5	—	—	100.0
	6. 臨時、パート、アルバイト	116	1.7	4.3	94.0
	7. 家事専業	181	2.8	5.0	92.3
	8. 無職	16	—	—	100.0
	9. 学生	4	—	—	100.0
10. その他	35	—	5.7	94.3	

配偶関係、職業、年齢の順で有意な関連があります。離死別で何度もあったが7.4%、1,2度あったが11.1%と多く、正社員・正規職員で何度もあったが7.3%と多くなっています。年齢では40歳代で何度もあったが多くなっています。

( m ) 交友関係や電話、郵便物やメール等を細かく監視する

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	何度もあった	26	2.5	2.7
2	1, 2度あった	41	3.9	4.3
3	.ない	896	85.9	93.0
	不明	80	7.7	
	N (%ベース)	1043	100.0	963

交友関係や電話、郵便物やメール等を細かく監視するは、何どもあった2.5%、1,2度あった3.9%、ない85.9%、不明7.7%となっています。前回の調査ではされたことがある2.9%となっており、増えています。女性だけでは何どもあった、1,2度あったあわせて10.1%、前回の女性でのされたことがある4.1%よりかなり増えています。

%		(m) 交友関係や電話、郵便物やメール等を細かく監視する			
		合計	1.何どもあった	2.1, 2度あった	3.ない
F1. あなたの性別は	全体	961	2.7	4.3	93.0
	1 女性	531	4.5	5.6	89.8
	2 男性	430	0.5	2.6	97.0

1 女性		(m) 交友関係や電話、郵便物やメール等を細かく監視する			
%		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F2 年齢	全体	531	4.5	5.6	89.8
	1. 20～29 歳	54	9.3	11.1	79.6
	2. 30～39 歳	91	7.7	5.5	86.8
	3. 40～49 歳	96	5.2	6.3	88.5
	4. 50～59 歳	107	2.8	4.7	92.5
	5. 60～69 歳	109	2.8	6.4	90.8
	6. 70 歳以上	74	1.4	1.4	97.3
F3. あなたは結婚(事実婚を含む)をしますか。	全体	531	4.5	5.6	89.8
	1.結婚している(事実婚含む)	374	2.1	5.3	92.5
	2.結婚したことがない	76	6.6	5.3	88.2
	3.結婚していたが、離死別	81	13.6	7.4	79.0
F7. あなたの職業は	全体	526	4.6	5.7	89.7
	1. 自営業	58	3.4	6.9	89.7
	2. 正社員・正規職員	82	11.0	8.5	80.5
	3. 契約社員	16	6.3	6.3	87.5
	4. 公務員	12	—	16.7	83.3
	5. 教職員	5	—	20.0	80.0
	6. 臨時、パート、アルバイト	116	6.0	6.0	87.9
	7. 家事専業	182	2.7	3.3	94.0
	8. 無職	16	—	—	100.0
	9. 学生	4	—	—	100.0
10. その他	35	—	5.7	94.3	

配偶関係・年齢・職業の順で有意な関連があります。何度もあったが、離死別で 13.6%と多く、未婚でも 6.6%あります。結婚しているでは 2.1%と少なくなっています。年齢では、若い人ほど何度もある、1,2 度あるが多い傾向があります。正社員・正規職員で何度もあるが多くなっています。

( n ) 生活費を渡さない、食事をさせない

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	1.何度もあった	12	1.2	1.2
2	2.1, 2度あった	12	1.2	1.2
3	3.ない	937	89.8	97.5
	不明	82	7.9	
	N (%ベース)	1043	100.0	961

生活費を渡さない、食事をさせないは、何度もあった 1.2%、1,2 度あった 1.2%、ない 89.8%、不明 7.9%となっています。前回の調査ではされたことがある 0.9%となっており、増えています。女性だけでは何度もあった、1,2 度あったあわせて 2.6%、前回の女性でされたことがある 1.5%よりかなり増えています。

%		(n) 生活費を渡さない、食事をさせない			
		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F1. あなたの性別は	全体	959	1.3	1.3	97.5
	1 女性	530	2.3	1.1	96.6
	2 男性	429	—	1.4	98.6

1 女性 %		(n) 生活費を渡さない、食事をさせない			
		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F2 年齢	全体	530	2.3	1.1	96.6
	1. 20～29 歳	54	1.9	—	98.1
	2. 30～39 歳	90	1.1	1.1	97.8
	3. 40～49 歳	96	5.2	3.1	91.7
	4. 50～59 歳	106	—	0.9	99.1
	5. 60～69 歳	109	3.7	—	96.3
	6. 70 歳以上	75	1.3	1.3	97.3
F3. あなたは結婚(事実婚を含む)をしますか。	全体	530	2.3	1.1	96.6
	1.結婚している(事実婚含む)	374	1.6	0.5	97.9
	2.結婚したことがない	75	—	1.3	98.7
	3.結婚していたが、離死別	81	7.4	3.7	88.9
F7. あなたの職業は	全体	525	2.3	1.1	96.6
	1. 自営業	58	1.7	1.7	96.6
	2. 正社員・正規職員	82	4.9	2.4	92.7
	3. 契約社員	16	6.3	—	93.8
	4. 公務員	12	—	—	100.0
	5. 教職員	5	—	—	100.0
	6. 臨時、パート、アルバイト	114	2.6	1.8	95.6
	7. 家事専業	183	1.1	0.5	98.4
	8. 無職	16	6.3	—	93.8
	9. 学生	4	—	—	100.0
10. その他	35	—	—	100.0	

配偶関係・職業・年齢の順で有意な関連があります。離死別で何度もあるが7.4%、1,2度あるが3.7%と多く、40歳代で何度もあるが5.2%、1,2度あるが3.1%と多くなっています。正社員・正規職員で4.9%と多くなっています。

(o) みたくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌をみせる

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	何度もあった	2	0.2	0.2
2	1, 2度あった	10	1.0	1.0
3	ない	949	91.0	98.8
	不明	82	7.9	
	N (%ベース)	1043	100.0	961

みたくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌をみせるは、何どもあった0.2%、1,2度あった1.0%、ない91.0%、不明7.9%となっています。実数にして12人ほどで少数です。前回の調査ではされたことがある0.6%となっており、増えています。女性だけでは何どもあった、1,2度あったあわせて1.7%、前回の女性でのされたことがある1.0%より増えています。

実数が少ないので年齢別等の分析は割愛します。

%		(o) みたくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌をみせる			
		合計	1.何どもあった	2.1, 2度あった	3.ない
F1. あなたの性別は	全体	959	0.2	1.0	98.7
	1 女性	531	0.4	1.3	98.3
	2 男性	428	—	0.7	99.3

1 女性		(o) みたくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌をみせる			
%		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F2 年齢	全体	531	0.4	1.3	98.3
	1. 20～29 歳	54	—	1.9	98.1
	2. 30～39 歳	90	—	1.1	98.9
	3. 40～49 歳	96	2.1	—	97.9
	4. 50～59 歳	107	—	2.8	97.2
	5. 60～69 歳	109	—	1.8	98.2
	6. 70 歳以上	75	—	—	100.0
F3. あなたは結婚(事実婚を含む)をしますか。	全体	531	0.4	1.3	98.3
	1.結婚している(事実婚含む)	374	—	0.8	99.2
	2.結婚したことがない	76	1.3	3.9	94.7
	3.結婚していたが、離死別	81	1.2	1.2	97.5
F7. あなたの職業は	全体	526	0.4	1.3	98.3
	1. 自営業	57	—	—	100.0
	2. 正社員・正規職員	82	2.4	2.4	95.1
	3. 契約社員	16	—	6.3	93.8
	4. 公務員	12	—	—	100.0
	5. 教職員	5	—	20.0	80.0
	6. 臨時、パート、アルバイト	116	—	0.9	99.1
	7. 家事専業	183	—	0.5	99.5
	8. 無職	16	—	—	100.0
	9. 学生	4	—	—	100.0
10. その他	35	—	2.9	97.1	

( p ) いやがるのに、性的な行為を強要する

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	何度もあった	26	2.5	2.7
2	1, 2度あった	63	6.0	6.5
3	.ない	876	84.0	90.8
	不明	78	7.5	
	N (%ベース)	1043	100.0	965

いやがるのに、性的な行為を強要するは、何どもあった 2.5%、1,2 度あった 6.0%、ない 84.0%、不明 7.5%となっています。前回の調査ではされたことがある 3.1%となっており、増えています。女性だけでは何どもあった、1,2 度あったあわせて 9.2%、前回の女性でのされたことがある 5.1%より増えています。

%		(p) いやがるのに、性的な行為を強要する			
		合計	1.何どもあった	2.1, 2度あった	3.ない
F1. あなたの性別は	全体	963	2.7	6.5	90.8
	1 女性	534	4.5	9.4	86.1
	2 男性	429	0.5	3.0	96.5

1 女性 %		(p) いやがるのに、性的な行為を強要する			
		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F2 年齢	全体	534	4.5	9.4	86.1
	1. 20～29 歳	54	5.6	16.7	77.8
	2. 30～39 歳	90	3.3	6.7	90.0
	3. 40～49 歳	96	7.3	10.4	82.3
	4. 50～59 歳	109	5.5	11.0	83.5
	5. 60～69 歳	110	2.7	10.0	87.3
	6. 70 歳以上	75	2.7	2.7	94.7
F3. あなたは結婚(事実婚を含む)をしますか。	全体	534	4.5	9.4	86.1
	1.結婚している(事実婚含む)	377	3.4	8.8	87.8
	2.結婚したことがない	76	5.3	9.2	85.5
	3.結婚していたが、離死別	81	8.6	12.3	79.0
F7. あなたの職業は	全体	529	4.5	9.5	86.0
	1. 自営業	58	3.4	10.3	86.2
	2. 正社員・正規職員	83	9.6	14.5	75.9
	3. 契約社員	16	6.3	12.5	81.3
	4. 公務員	12	8.3	—	91.7
	5. 教職員	5	—	20.0	80.0
	6. 臨時、パート、アルバイト	117	5.1	8.5	86.3
	7. 家事専業	183	3.3	7.1	89.6
	8. 無職	16	—	12.5	87.5
	9. 学生	4	—	—	100.0
10. その他	35	—	11.4	88.6	

年齢では 40 歳代、未婚と離死別、正社員・正規職員で何度もあるが多くなっています。

( q ) 避妊に協力しない

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	何度もあった	22	2.1	2.3
2	1, 2度あった	25	2.4	2.6
3	ない	909	87.2	95.1
	不明	87	8.3	
	N (%ベース)	1043	100.0	956

避妊に協力しないは、何どもあった 2.1%、1,2 度あった 2.4%、ない 87.2%、不明 8.3%となっています。前回の調査ではされたことがある 1.1%となっており、増えています。女性だけでは何どもあった、1,2 度あったあわせて 4.9%、前回の女性での、されたことがある 1.8%より増えています。

%		(q) 避妊に協力しない			
		合計	1.何どもあった	2.1, 2度あった	3.ない
F1. あなたの性別は	全体	954	2.3	2.6	95.1
	1 女性	529	4.0	4.0	92.1
	2 男性	425	0.2	0.9	98.8

若い人で多い傾向があります。離死別と未婚で何度もあるが多く、正社員・正規職員・公務員で何度もあるが多くなっています。

( r ) 中絶を強要する

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	何度もあった	6	0.6	0.6
2	1, 2度あった	15	1.4	1.6
3	ない	934	89.5	97.8
	不明	88	8.4	
	N (%ベース)	1043	100.0	955

中絶を強要するは、何度もあった0.6%、1,2度あった1.4%、ない89.5%、不明8.4%となっています。前回の調査ではされたことがある0.6%となっており、増えています。女性だけでは何度もあった、1,2度あったあわせて2.1%、前回の女性での、されたことがある1.0%より増えています。

該当者が実数にして21人程度のため年齢別の分析は割愛します。

%		(r)中絶を強要する			
		合計	1.何度もあった	2.1, 2度あった	3.ない
F1. あなたの性別は	全体	953	0.6	1.5	97.9
	1 女性	529	0.8	2.1	97.2
	2 男性	424	0.5	0.7	98.8

		何どもあった	1, 2度あった	計
<b>身体への攻撃</b>				
	たたく、突き飛ばす	4.2%	11.5%	15.7%
	殴る、蹴る	4.3%	6.8%	11.1%
	身体を傷つける可能性のある物で殴る	1.1%	1.8%	2.9%
<b>威嚇・おどし</b>				
	「殺す」「けがをさせる」などと言っておどす	2.6%	2.7%	5.3%
	なぐるふりをしておどす	3.9%	5.8%	9.7%
	刃物などをつきつけておどす	0.9%	1.1%	2.0%
	家具や食器、日用品等を投げたりして、おどす	4.0%	7.1%	11.1%
	大声でどなって威嚇する	9.3%	17.6%	26.9%
<b>精神的・経済的に追い詰める</b>				
	何を言っても長時間無視し続ける	4.7%	10.9%	15.6%
	「誰のおかげで生活できるんだ」などとののしる	2.9%	6.2%	9.1%
	大切にしている物をわざと捨てたり、壊したりする	1.4%	4.1%	5.5%
	社会的な活動や就職などを許さない	1.3%	2.3%	3.6%
	交友関係や電話、郵便物やメール等を細かく監視する	2.5%	3.9%	6.4%
	生活費を渡さない、食事をさせない	1.2%	1.2%	2.4%
<b>性に関すること</b>				
	みたくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌をみせる	0.2%	1.0%	1.2%
	いやがるのに、性的な行為を強要する	2.5%	6.0%	8.5%
	避妊に協力しない	2.1%	2.4%	4.5%
	中絶を強要する	0.6%	1.4%	2.0%

対象者のうち460人・44.1%の人がこれらの項目のどれかに一度でもあったと答えています。全体を通して、一度でもあったもので多いのが、大声でどなって威嚇する26.9%、たたく、突き飛ばす15.7%、何を言っても長時間無視し続ける15.6%、殴る、蹴る11.1%、家具や食器、日用品等を投げたりして、おどす11.1%、なぐるふりをしておどす9.7%、「誰のおかげで生活できるんだ」などとののしる9.1%、大切にしている物をわざと捨てたり、壊したりする9.1%、いやがるのに、性的な行為を強要する

8.5%などの順となっています。大声で怒鳴る、たたく・突き飛ばす、無視するといった行為は、日常的につい腹を立てて行うこともあるかもしれません。一度でも当人の受け止め方が重要ですが、しかし、何度でもあるとなればこれはもはやドメスティック・バイオレンス(DV)といわざるを得ません。

これらの項目のどれか一つでも何度もあると答えた人は171人16.4%になります。6人に一人の割合です。大声でどなって威嚇する9.3%、何を言っても長時間無視し続ける4.7%、殴る、蹴る4.3%、たたく、突き飛ばす4.2%、なぐるふりをしておどす3.9%、「誰のおかげで生活できるんだ」などののしる2.9%、いやがるのに、性的な行為を強要する2.5%などの順となっています。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	DV 身体への攻撃	212	20.3	46.1
2	DV 威嚇・おどし	313	30.0	68.0
3	DV 精神的経済的	270	25.9	58.7
4	DV 性に関して	115	11.0	25.0
	不明	584	55.9	
	N (%ベース)	1044	100.0	460

身体への攻撃、威嚇・おどし、精神的経済的に追い詰める、性に関することに分類して、一度でもあったものを見たのものです。威嚇・おどしが30.0%、精神的経済的に追い詰める25.9%、身体への攻撃20.3%、性に関すること11.0%となっています。

%		DV 経験の項目					
		合計	身体への攻撃	威嚇・おどし	精神的経済的	性に関して	なし、不明
性別は	全体	1039	20.3	30.1	26.0	11.0	55.8
	女性	575	24.2	33.4	29.6	16.5	51.7
	男性	464	15.5	26.1	21.6	4.1	61.0

女性だけでは、威嚇・おどしが33.4%、精神的経済的に追い詰める29.6%、身体への攻撃24.2%、性に関すること16.5%となっています。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	DV 身体への攻撃 何度も	59	5.7	34.5
2	DV 威嚇・おどし・何度も	111	10.6	64.9
3	DV 精神的経済的 何度も	90	8.6	52.6
4	DV 性的 何度も	40	3.8	23.4
	不明	873	83.6	
	N (%ベース)	1044	100.0	171

何度もあると答えた人では、威嚇・おどし10.6%、精神的経済的に追い詰める8.6%、身体への攻撃5.7%、性に関すること3.8%となっています。

%		DV 何度もあるの項目					
		合計	身体への攻撃	威嚇・おどし	精神的経済的	性的	なし、不明
性別は	全体	1039	5.7	10.7	8.7	3.8	83.5
	女性	575	8.3	14.1	13.2	6.3	77.7
	男性	464	2.4	6.5	3.0	0.9	90.7

女性だけでは、威嚇・おどし14.1%、精神的経済的に追い詰める13.2%、身体への攻撃8.3%、性に関すること6.3%となっています。女性の約6人に一人が威嚇や脅しを何度も受けたと答えています。

%		DV 何度もあるの項目					
		合計	身体への攻撃	威嚇・おどし・	精神的経済的	性的	なし、不明
F2 年 齢	全体	575	8.3	14.1	13.2	6.3	77.7
	20～29 歳	54	7.4	22.2	20.4	13.0	66.7
	30～39 歳	92	7.6	15.2	14.1	6.5	76.1
	40～49 歳	98	8.2	13.3	15.3	9.2	77.6
	50～59 歳	114	7.9	10.5	13.2	5.3	81.6
	60～69 歳	123	8.9	17.9	11.4	4.1	75.6
	70 歳以上	94	9.6	8.5	8.5	3.2	84.0
結 婚	全体	575	8.3	14.1	13.2	6.3	77.7
	1.結婚している	401	7.7	13.7	10.2	4.5	79.8
	結婚したことがない	82.	4.9	11.0	12.2	9.8	80.5
	、離婚死別した	92	14.1	18.5	27.2	10.9	66.3
F7. あ な た の 職 業 は	全体	570	8.2	14.0	13.3	6.3	77.7
	1. 自営業	70.	8.6	8.6	10.0	4.3	82.9
	2. 正社員・正規職員	85.	11.8	16.5	22.4	10.6	71.8
	3. 契約社員	16	6.3	18.8	18.8	6.3	68.8
	4. 公務員	12	-	-	-	8.3	91.7
	5. 教職員	5	-	-			100.0
	臨時、パート、アルバイト	123	9.8	18.7	17.1	8.9	71.5
	7. 家事専業	193	6.7	15.0	10.9	3.6	80.3
	8. 無職	21	4.8	4.8	14.3	14.3	76.2
	9. 学生	4.				25.0	75.0
10. その他	41	9.8	9.8	4.9	-	85.4	

何度もあると答えた項目のある人について、女性だけで、年齢別・配偶関係別・職業別に見たものです。20 歳代で威嚇・おどし 22.2%、精神的経済的に追い詰める 20.4%、性に関する事で 13.0%と若い人で割合が高くなっています。配偶関係では離死別で精神的経済的に追い詰める 27.2%、威嚇・脅し 18.5%、身体への攻撃 14.1%、性に関する事 10.9%と高い割合です。また、未婚者でも威嚇・おどし、精神的経済的に追い詰め、性に関する事で 1 割くらいが何度もあると答えています。DV が離婚に大きく関わっていること、またデート DV が今日放置できないものになっていることがわかります。若い人で多いことは放置すると問題が拡大すること、学校等での積極的取組が必要であることを意味しています。職業別では、正社員・正規職員でいずれも割合が高いことがわかります。家事・育児の分担などをめぐって問題が起きていることが推測できます。

問 14 副問 1 あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	1.相談した	77	16.7	20.1
2	2.相談しなかった	307	66.7	79.9
	不明	76	16.5	
	N (%ベース)	460	100.0	384

DVに関する項目のどれか一つでも該当する人 460 人について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたかときいています。相談した 16.7%、相談しなかった 66.7%、不明 16.5%となっています。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	1.相談した	45	26.3	28.5
2	2.相談しなかった	113	66.1	71.5
	不明	13	7.6	
	N (%ベース)	171	100.0	158

DVに関する項目のうちどれか一つにでも何度でもあるとした人 171 人については、相談した 26.3%、相談しなかった 66.1%、不明 7.6 となっています。DV に該当する程度の被害を受けた人でも 4 人に一人くらいしか相談していないことがわかります。

DV どこに相談したかの項目

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回	全国
1	警察	4	5.2	5.2	2.2	
2	婦人相談所	—	—	—	0.6	
3	その他公的機関(役所の相談窓口など)	3	3.9	3.9	1.5	
4	人権擁護委員会、民生委員、自治委員	1	1.3	1.3	0.6	
5	民間の機関(弁護士会など)	2	2.6	2.6	0.3	
6	医師	5	6.5	6.5	2.5	
7	家族・親戚	50	64.9	64.9	18.0	
8	友人・知人	42	54.5	54.5	22.9	
9	相談 その他	4	5.2	5.2	8.4	
	不明	0	0.0			
	N (%ベース)	77	100.0	77		

相談しなかった理由について、相談するほどのことではないと思った 55.7%(前回 59.5%)、自分にも悪いところがあると思った 45.3%(前回 33.0%)、自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思った 28.0%(前回 23.8%)、相談しても無駄だと思った 26.7%(前回 27.6%)、恥ずかしくて誰にもいえなかった 19.5%(前回 12.4%)、他人を巻き込みたくなかった 16.6%(前回 10.8%)、世間体が悪い 8.1%(前回 7.0%)、そのことについて思い出したくなかった 7.2%(前回 7.0%)、どこ(だれ)に相談して良いのか分からなかった 6.8%(前回 3.8%)、相談したことが分ると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った 4.9%(前回 3.8%)、相談窓口などの担当者の言動により不快な思いをすと思った 1.3%(前回 1.1%)、その他 4.9%(前回 3.8%)などとなっています。相談するほどのことではないと思ったは前回と変わりませんが、自分にも悪いところがあると思った、自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思った、恥ずかしくて誰にもいえなかったなどは増えています。

何度もあると答えた人では、相談するほどのことではないと思ったは 39.8%と少ないですが、自分にも悪いところがあると思った 40.7%、自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思った 42.5%、相談しても無駄だと思った 37.2%、恥ずかしくて誰にもいえなかった 28.3%などが多くなっています。DV のことについてもっと認識を深めることが必要ではないでしょうか。問題が潜在化する危険性を感じます。

## DV 相談しなかった理由

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回
1	どこ(だれ)に相談して良いのか分からなかった	21	6.8	7.1	3.8
2	恥ずかしくて誰にもいえなかった	60	19.5	20.2	12.4
3	相談しても無駄だと思った	82	26.7	27.6	27.6
4	相談したことが分かると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った	15	4.9	5.1	2.7
5	相談窓口などの担当者の言動により不快な思いをすと思った	4	1.3	1.3	1.1
6	自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思った	86	28.0	29.0	23.8
7	世間体が悪い	25	8.1	8.4	7.0
8	他人を巻き込みたくなかった	51	16.6	17.2	10.8
9	そのことについて思い出したくなかった	22	7.2	7.4	7.0
10	自分にも悪いところがあると思った	139	45.3	46.8	33.0
11	相談するほどのことではないと思った	171	55.7	57.6	59.5
12	相談しなかった理由 その他	15	4.9	5.1	5.9
	不明	10	3.3		
	N (%ベース)	307	100.0	297	

## 9、セクシュアル・ハラスメント等について

問 15 次のような行為を、職場の上司・同僚・学校やサークルなどの指導者・関係者、近所や地域などでつきあいのある人にされたことがありますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回
1	(a)「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」という	172	16.5	53.9	5.1
2	(b)結婚や出産など、プライベートなことについてしつこく言う	103	9.9	32.3	10.9
3	(c)性的な話や冗談を言う	175	16.8	54.9	7.5
4	(d)性的なうわさを流す	48	4.6	15.0	1.8
5	(e)容姿や年齢について話題にしたりする	168	16.1	52.7	4.9
6	(f)性的な内容の手紙やメール、電話をしたりする	18	1.7	5.6	1.6
7	(g)宴会などでお酒やデュエット、ダンスを強要する	94	9.0	29.5	11.0
8	(h)さわる、抱きつく	107	10.2	33.5	12.9
9	(i)地位や権限を利用して、性的関係を強要する	23	2.2	7.2	1.8
	不明	725	69.4		
	N (%ベース)	1044	100.0	319	

性的な話や冗談を言う 16.8%(前回 7.5%)、「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」という 16.5%(前回 10.9%)、容姿や年齢について話題にしたりする 16.1%(前回 4.9%)、さわる、抱きつく 10.2%(前回 12.9%)、結婚や出産など、プライベートなことについてしつこく言う 9.9%(前回 10.9%)、宴会などでお酒やデュエット、ダンスを強要する 9.0%(前回 12.9%)、性的なうわさを流す 4.6%(前回 1.8%)、地位や権限を利用して、性的関係を強要する 2.2%(前回 1.8%)、性的な内容の手紙やメール、電話をしたりする 1.7%(前回 1.6%)などとなっています。前回と比べ質問が少し簡単になっていますが、内容はあまり変わってはいません。性的な話や冗談を言う、「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」という、容姿や年齢について話題にしたりする、性的なうわさを流す、地位や権限を利用して、性的関係を強要するなどは前回よりもふえています。全体的にセクシュアル・ハラスメントは減ったとはいえない状況にあるようです。

%		セクシュアル・ハラスメント										
		合計	「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」という	結婚や出産など、プライベートなことについてしつこく言う	性的な話や冗談を言う	性的なうわさを流す	容姿や年齢について話題にしたりする	性的な内容の手紙やメール、電話をしたりする	宴会などでお酒やデュエット、ダンスを強要する	さわる、抱きつく	地位や権限を利用して、性的関係を強要する	不明
性別	全体	1039	16.6	9.9	16.8	4.6	16.2	1.7	9.0	10.3	2.2	69.3
	女性	575	22.6	13.7	23.7	6.3	21.7	3.0	13.7	18.3	3.8	58.6
	男性	464	9.1	5.2	8.4	2.6	9.3	0.2	3.2	0.4	0.2	82.5

性別に見ると、女性で「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」という、性的な話や冗談を言う、容姿や年齢について話題にしたりするが 5 人に一人以上経験していることがわかります。さわる、抱きつくもそれに近く、宴会などでお酒やデュエット、ダンスを強要する、プライベートなことについてしつこく言うもかなりの割合です。性的関係の強制も 3.8%あり、問題はかなり深刻です。

1 女 性 %		セクシュアル・ハラスメント										
		合計	(a)「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」という	(b)結婚や出産など、プライベートなことについてしつこく言う	(c)性的な話や冗談を言う	(d)性的なうわさを流す	(e)容姿や年齢について話題にしたりする	(f)性的な内容の手紙やメール、電話をしたりする	(g)宴会などでお酒やデュエット、ダンスを強要する	(h)さわる、抱きつく	(i)地位や権限を利用して、性的関係を強要する	不明
年 齢	全体	575	22.6	13.7	23.7	6.3	21.7	3.0	13.7	18.3	3.8	58.6
	1. 20～29 歳	54.0	29.6	20.4	42.6	13.0	35.2	7.4	13.0	25.9	5.6	40.7
	2. 30～39 歳	92.0	20.7	19.6	28.3	6.5	30.4	3.3	10.9	23.9	3.3	51.1
	3. 40～49 歳	98.0	39.8	28.6	39.8	11.2	35.7	6.1	32.7	28.6	6.1	37.8
	4. 50～59 歳	114.0	20.2	9.6	22.8	0.9	16.7	0.9	14.9	21.1	3.5	61.4
	5. 60～69 歳	123.0	18.7	6.5	14.6	6.5	15.4	1.6	7.3	11.4	3.3	69.9
	6. 70 歳以上	94.0	10.6	3.2	4.3	3.2	5.3	1.1	4.3	3.2	2.1	79.8
結 婚	全体	575.0	22.6	13.7	23.7	6.3	21.7	3.0	13.7	18.3	3.8	58.6
	結婚している	401.0	17.7	10.0	18.0	3.7	17.7	1.7	12.0	15.2	2.0	64.1
	結婚していない	82.0	35.4	28.0	41.5	9.8	39.0	6.1	20.7	32.9	7.3	41.5
	離死別	92.0	32.6	17.4	32.6	14.1	23.9	5.4	15.2	18.5	8.7	50.0
職 業	全体	570.0	22.6	13.9	23.7	6.3	21.9	3.0	13.9	18.4	3.9	58.4
	自営業	70.0	30.0	11.4	15.7	4.3	12.9	1.4	10.0	15.7	1.4	68.6
	正社員職員	85.0	29.4	25.9	38.8	12.9	34.1	4.7	21.2	29.4	8.2	40.0
	契約社員	16.0	43.8	37.5	43.8	12.5	31.3	6.3	25.0	56.3	18.8	31.3
	公務員	12.0	25.0	16.7	41.7	-	33.3	8.3	33.3	33.3	-	41.7
	教職員	5.0	40.0	40.0	40.0	-	40.0	-	40.0	-	-	60.0
	臨時、パート、アルバイト	123.0	21.1	13.8	24.4	7.3	21.1	4.1	13.0	19.5	6.5	58.5
	家事専業	193.0	17.1	7.3	19.2	3.1	19.7	2.1	12.4	13.5	1.0	63.2
	無職	21.0	23.8	9.5	14.3	4.8	4.8	-	9.5	9.5	4.8	61.9
	学生	4.0	-	25.0	50.0	-	75.0	-	-	25.0	-	25.0
	その他	41.0	17.1	12.2	12.2	9.8	19.5	2.4	4.9	7.3	-	73.2

女性について、年齢別・配偶関係別・職業別に見たものです。40歳代で、「女のくせに」「女だから」という、性的な話や冗談を言うが4割、容姿や年齢について話題にしたりする、宴会などでお酒やデュエット、ダンスを強要するが3割を超えています。宴会などでお酒やデュエット、ダンスを強要する6.1%と最も多くなっています。20歳代で性的な話や冗談を言うが4割を超えています。性的関係の強制も5.6%とかなり多いです。配偶関係では、未婚者で性的な話や冗談を言うが4割を超えて、さわる、抱きつくも3割を超えています。性的関係の強制も7.3%と高率です。離死別では「女のくせに」「女だから」という、性的な話や冗談を言うが3割を超えています。性的関係の強制も8.7%と最も多く、問題は深刻です。職業別では人数は少ないですが、契約社員でさわる、抱きつく、「女のくせに」「女だから」という、性的な話や冗談を言うがきわめて多く、性的関係の強制も2割近くです。正社員でも性的な話や冗談を言う、容姿や年齢について話題にしたりするなどが多く、性的関係の強制も8.2%と多くなっています。不況下で立場の弱い女性へのセクシュアルハラスメントが増加しているのではないのでしょうか。

セクハラ誰に相談したか

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回
1	上司・同僚	30	9.4	10.6	7.3
2	職場内の相談窓口	-	-	-	0.8
3	公的機関(労働局雇用均等室、役所の相談窓口)	1	0.3	0.4	0.0
4	民間の相談窓口	-	-	-	0.4
5	友人、知人、家族	97	30.4	34.3	28.6
6	その他	17	5.3	6.0	9.7
7	だれ(どこ)にも相談しなかった	149	46.7	52.7	54.8
	不明	36	11.3		
	N (%ベース)	319	100.0	283	

先の項目について一つでもあると答えた 319 人(約 3 割)について、誰に相談したかをきいています。誰にも相談しなかった 46.7%(前回 54.8%)が約半数、前回よりは減っています。友人、知人、家族 30.4%(前回 28.6%)、上司・同僚 9.4%(前回 7.3%)、その他 5.3%(前回 9.7%)などとなっています。公的機関や職場の相談窓口はあまり機能しているとはいえない状態です。

相談した結果、状況は

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回
1	1.問題が解決された	11	8.2	9.9	6.5
2	2.良い方向に向かった	14	10.4	12.6	14.0
3	3.あまり変わらなかった	76	56.7	68.5	56.1
4	4.かえて悪くなった				1.0
5	5.その他	10	7.5	9.0	5.6
	不明	23	17.2		16.8
	N (%ベース)	134	100.0	111	100.0

相談した結果、問題が解決された 8.2%(前回 6.5%)、良い方向に向かった 10.4%(前回 14.0%)、あまり変わらない 56.7%(前回 56.1%)、かえて悪くなったはなし(前回 1.0%)、その他 7.5%(前回 5.6%)、不明 17.2%(前回 16.8%)となっています。

%		相談した結果、状況は						
		合計	1.問題が解決された	2.良い方向に向かった	3.あまり変わらなかった	4.かえて悪くなった	5.その他	不明
性別	全体	134	8.2	10.4	56.7		7.5	17.2
	女性	114	7.0	10.5	58.8		8.8	14.9
	男性	20	15.0	10.0	45.0		-	30.0

相談した人は女性が大半を占めていますが、問題が解決した人は女性 7.0%に対して男性 15.0%、あまり変わらないが女性 58.8%に対して男性 45.0%と、男性で解決した人が多いようです。

問16 女性への暴力・性犯罪をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	法律・制度の制定や見直しを行う	523	50.1	53.9
2	犯罪の取り締まりを強化する	583	55.8	60.1
3	被害者のための相談所や保護施設を整備する	572	54.8	59.0
4	捜査や裁判での担当者に女性を増やし、相談しやすくする	470	45.0	48.5
5	学校における男女平等を推進する教育・学習を充実させる	393	37.6	40.5
6	家庭における男女平等を推進する教育・学習を充実させる	297	28.4	30.6
7	被害者を支援し、暴力に反対する県民運動を盛り上げる	227	21.7	23.4
8	メディアが倫理規定を強化する	220	21.1	22.7
9	過激な内容の雑誌、ビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する	498	47.7	51.3
10	その他	37	3.5	3.8
	不明	74	7.1	
	N (%ベース)	1044	100.0	970

性犯罪、売買春(援助交際含む)、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為等、女性に対する暴力をなくすためにどうしたらよいですかという質問について(複数回答)、犯罪の取り締まりを強化する 55.8%、被害者のための相談所や保護施設を整備する 54.8%、法律・制度の制定や見直しを行う 50.1%、過激な内容の雑誌、ビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する 47.7%、捜査や裁判での担当者に女性を増やし、相談しやすくする 45.0%、学校における男女平等を推進する教育・学習を充実させる 37.6%、メディアが倫理規定を強化する 21.1%、その他 3.5%、不明 7.1%となっています。

被害者のための相談所や保護施設を整備するが、女性で 58.1%・男性 50.9%、過激な内容の雑誌、ビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限するが女性 52.3%・男性 42.2%、捜査や裁判での担当者に女性を増やし、相談しやすくするが女性 50.3%・男性 38.8%と女性の方が多くなっています。法律・制度の制定や見直しを行うが女性 47.1%・男性 53.9%、被害者を支援し、暴力に反対する県民運動を盛り上げるが女性 19.3%・男性 19.3%と多くなっています。女性の方がより具体的な対応を望む人が多いようです。

法律や制度の見直し、犯罪の取り締まりを強化する、被害者のための相談所や保護施設を整備する、捜査や裁判での担当者に女性を増やし、相談しやすくするは、若い人で多く、全般に若い人ほど厳しい傾向があります。犯罪の取り締まりを強化するは学生、教職員、公務員、無職で多く、被害者のための相談所や保護施設を整備するは、学生、教職員、家事専業で多くなっています。学校における男女平等を推進する教育・学習を充実させるは、公務員、学生、無職で多くなっています。

%											
		合計	法律・制度の制定や見直しを行う	犯罪の取り締まりを強化する	被害者のための相談所や保護施設を整備する	捜査や裁判での担当者に女性を増やし、相談しやすくする	学校における男女平等を推進する教育・学習を充実させる	家庭における男女平等を推進する教育・学習を充実させる	被害者を支援し、暴力に反対する県民運動を盛り上げる	メディアが倫理規定を強化する	過激な内容の雑誌、ビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する
性別	全体	1039	50.1	55.9	54.9	45.1	37.7	28.5	21.8	21.2	47.8
	女性	575	47.1	55.1	58.1	50.3	35.8	27.5	19.3	19.7	52.3
	男性	464	53.9	56.9	50.9	38.8	40.1	29.7	25.0	23.1	42.2
年齢	全体	1040	50.2	56.0	54.9	45.2	37.8	28.6	21.8	21.2	47.8
	20～29歳	78	56.4	66.7	64.1	60.3	38.5	29.5	14.1	17.9	34.6
	30～39歳	160	56.9	68.8	61.3	55.6	32.5	27.5	20.6	21.3	40.6
	40～49歳	165	54.5	59.4	59.4	50.9	37.6	30.3	15.2	21.2	49.1
	50～59歳	196	43.4	46.4	59.7	41.3	34.7	27.6	23.0	23.5	47.4
	60～69歳	251	51.8	50.2	53.8	42.2	43.0	29.1	24.7	25.5	55.0
	70歳以上	190	43.2	55.3	38.4	33.2	38.4	27.9	26.8	14.2	48.9
職業	全体	1033	50.0	55.8	55.1	45.2	37.7	28.8	21.7	21.3	47.5
	自営業	154	48.7	50.0	41.6	39.6	37.0	27.9	22.7	17.5	43.5
	正社員	236	48.3	56.8	55.9	48.7	38.1	28.8	19.5	25.8	39.4
	契約社員	36	50.0	58.3	66.7	41.7	41.7	27.8	11.1	19.4	47.2
	公務員	49	53.1	63.3	57.1	42.9	51.0	34.7	20.4	22.4	36.7
	教職員	11	90.9	63.6	72.7	45.5	27.3	27.3	18.2	45.5	63.6
	臨時パート	150	53.3	55.3	58.7	45.3	31.3	26.0	18.0	18.7	51.3
	家事専業	204	45.6	51.5	60.8	49.5	34.3	29.4	22.5	17.2	53.9
	無職	97	55.7	62.9	54.6	36.1	43.3	27.8	25.8	25.8	55.7
	学生	6	66.7	83.3	100.0	100.0	66.7	33.3	50.0	50.0	33.3
	その他	90	47.8	57.8	46.7	44.4	40.0	31.1	28.9	20.0	51.1

\* その他、不明を省略

## 10、メディアでの表現について

問17 以下の項目で、テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどのメディアでの固定的な性別役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現について、あなたの考えに近いものはどれですか。(あてはまるものすべて)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回	全国
1	女性の身体や姿態を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	476	45.6	48.2	26.5	26.2
2	社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう表現をしている	372	35.6	37.7	44.8	37.4
3	女性に対する犯罪を助長するおそれがある	305	29.2	30.9	21.2	19.5
4	子どもが性についてゆがんだ意識をもつおそれがある	488	46.7	49.4		
5	女性や男性のイメージについて偏った表現をしている	178	17.0	18.0	11.0	
6	固定的な男女の役割分担の表現や女性に対する暴力・性の表現を望まない人や子どもの目に触れない配慮必要	488	46.7	49.4	51.8	39.7
7	その他	21	2.0	2.1	2.0	
8	特に問題はない	57	5.5	5.8	10.2	
9	わからない	105	10.1	10.6	11.1	
	不明	57	5.5			
	N (%へース)	1044	100.0	987		

メディアでの表現について、固定的な男女の役割分担の表現や女性に対する暴力・性の表現を望まない人や子どもの目に触れない配慮必要 46.7%(前回 51.8%)、子どもが性についてゆがんだ意識をもつおそれがある 46.7%(前回該当項目なし)、女性の身体や姿態を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ 45.6%(前回 26.5%)、社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう表現をしている 35.6%(前回 44.8%)、女性に対する犯罪を助長するおそれがある 29.2%(前回 21.2%)、女性や男性のイメージについて偏った表現をしている 17.0%(前回 11.0%)、その他 2.0%(前回 2.0%)、特に問題はない 5.5%(前回 10.2%)、わからない 10.1%(前回 11.1%)、不明 5.5%となっています。前回に比べ、社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう表現をしているは減っていますが、女性の身体や姿態を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つはふえています。全国調査ではメディアに問題があるとこと得た人に複数回答で聞いていますが、全体に対するパーセントを計算して比較しています。女性の身体や姿態を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ、女性に対する犯罪を助長するおそれがある、女性に対する暴力・性の表現を望まない人や子どもの目に触れない配慮必要などが全国よりも高い傾向があります。

女性に対する犯罪を助長するおそれがあるが女性 26.6%・男性 32.5%と男性で多く、固定的な男女の役割分担の表現や女性に対する暴力・性の表現を望まない人や子どもの目に触れない配慮必要にが女性 49.4%・男性 43.8%、子どもが性についてゆがんだ意識をもつおそれがあるが女性 49.2%・男性 44.0%と女性で多いようです。

女性の身体や姿態を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ、社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう表現をしているは、年配の人ほど多く、女性や男性のイメージについて偏った表現をしているは若い人ほど多くなっています。女性の身体や姿態を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つは、教職員、無職、自営業で多く、女性や男性のイメージについて偏った表現をしているは、教職員、公務員、無職で多くなっています。固定的な男女の役割分担の表現や女性に対する暴力・性の表現を望まない人や子どもの目に触れない配慮必要は契約社員、臨時・パート・アルバイト、などで多くなっています。

%		メディアの表現について						
		合計	女性の身体や姿態を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう表現をしている	女性に対する犯罪を助長するおそれがある	子どもが性についてゆがんだ意識をもつおそれがある	女性や男性のイメージについて偏った表現をしている	固定的な男女の役割分担の表現や女性に対する暴力・性の表現を望まない人や子どもの目に
性別	全体	1039	45.7	35.7	29.3	46.9	17.1	46.9
	女性	575	47.0	34.3	26.6	49.2	15.8	49.4
	男性	464	44.2	37.5	32.5	44.0	18.8	43.8
年齢	全体	1040	45.8	35.8	29.3	46.9	17.1	46.8
	20～29歳	78	28.2	24.4	26.9	39.7	23.1	42.3
	30～39歳	160	33.1	21.3	23.8	49.4	22.5	46.3
	40～49歳	165	43.6	35.2	35.2	44.8	13.9	47.3
	50～59歳	196	48.5	37.2	30.1	46.4	17.3	45.9
	60～69歳	251	54.2	43.8	31.5	51.8	14.7	56.2
	70歳以上	190	51.6	41.1	26.3	43.7	15.8	37.4
職業	全体	1033	45.6	35.5	29.4	46.6	17.1	46.5
	自営業	154	53.2	34.4	30.5	42.2	16.2	40.9
	正社員	236	36.9	30.5	31.4	38.1	14.4	43.6
	契約社員	36	30.6	33.3	19.4	44.4	19.4	52.8
	公務員	49	34.7	34.7	38.8	49.0	26.5	46.9
	教職員	11	63.6	72.7	45.5	81.8	36.4	45.5
	臨時パート	150	46.0	33.3	24.7	50.7	12.7	52.0
	家事専業	204	48.5	36.8	29.4	50.5	16.2	48.5
	無職	97	54.6	44.3	29.9	49.5	25.8	45.4
	学生	6	50.0	33.3	50.0	50.0	33.3	66.7
その他	90	47.8	38.9	25.6	52.2	16.7	46.7	

\* その他、不明は省略

## 11、女性の社会参画や施策への要望などについて

問18 議員や審議会委員、町内会の長などにまだ女性が少ない理由は何だと思いますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	前回	修正値
1	男性優位の社会の仕組みや制度がある	238	22.8	25.5	42.8	17.6
2	女性は指導力が低いというような女性の能力に対する偏見がある	71	6.8	7.6	21.0	8.6
3	女性の能力発揮のチャンスが男性と同じように与えられていない	86	8.2	9.2	25.0	10.3
4	「女はでしゃばるものではない」という社会通念がある	77	7.4	8.2	25.1	10.3
5	女性の登用に対する認識や理解が足りない	85	8.1	9.1	24.5	10.1
6	地域の会長や政策決定の場に出られるような女性の人材がない	66	6.3	7.1	20.3	8.3
7	男性がなる方が良い(なるものだ)と思っている人が多い	136	13.0	14.6	32.6	13.4
8	女性自身が役職に対する関心やチャレンジ精神がない	115	11.0	12.3	31.6	13.0
9	家族の理解・協力が無い	34	3.3	3.6	19.2	7.9
10	その他	26	2.5	2.8	1.3	0.5
	不明	109	10.5			
	N (%ベース)	1043	100.0	934		

女性の社会的進出が進んでいるにもかかわらず、議員や審議会委員、町内会の長などにまだ女性が少ない理由を一つだけきいたものです。前回の調査では3つまでの複数選択となっています。前回と比較するために前回の%の合計243.4をもとに各前回分の選択肢の%を2.434で割ったものを修正値として比較します。厳密な比較ではありませんが、傾向はわかると思います。

男性優位の社会の仕組みや制度があるが22.8%(前回修正値17.6%)と最も多く、男性がなる方が良い(なるものだ)と思っている人が多い13.0%(前回修正値13.4%)、女性自身が役職に対する関心やチャレンジ精神がない11.0%(前回修正値13.0%)、女性の能力発揮のチャンスが男性と同じように与えられていない8.2%女性の登用に対する認識や理解が足りない8.1%(前回修正値10.1%)、「女はでしゃばるものではない」という社会通念がある7.4%(前回修正値10.3%)、女性は指導力が低いというような女性の能力に対する偏見がある6.8%(前回修正値8.6%)、地域の会長や政策決定の場に出られるような女性の人材がない6.3%(前回修正値8.3%)、家族の理解・協力が無い3.3%(前回修正値7.9%)、その他2.5%(前回修正値0.5%)、不明10.5%となっています。男性優位の社会の仕組みや制度・社会通念に原因を求める人が多いようです。前回と比べ男性優位の社会の仕組みや制度に原因を求める人が増えているようです。

%		議院や審議会委員、町内会の長などにまだ女性が少ない理由											
		合計	1.男性 優位の 社会の 仕組みや 制度が ある	2.女性 は指導 力が低 いとい うよう な女性 の能力 に対する 偏見が ある	3.女性 の能力 発揮の チャン スが男 性と同 じよう に与え られて いない	4.「女 はでし ゃばる もので はな い」と いう社 会通念 がある	5.女性 の登用 に 対する 認識 や理 解が 足りな い	6.地域 の会長 や政策 決定の 場に出 られる ような 女性 の人材 がい ない	7.男性 がなる 方が良 い(なる もの だ)と 思っ てい る人 が多 い	8.女性 自身が 役職に 対する 関心や チャレ ンジ精 神が ない	9.家族 の理 解・協 力が ない	10.そ の他	不明
性別	全体	1039	22.9	6.8	8.3	7.4	8.1	6.4	13.1	11.0	3.3	2.5	10.3
	女性	575	23.1	7.5	7.5	9.2	6.8	5.4	14.4	10.6	3.5	2.3	9.7
	男性	464	22.6	6.0	9.3	5.2	9.7	7.5	11.4	11.4	3.0	2.8	11.0

性別での違いはほとんどありません。「女はでしゃばるものではない」という社会通念があるが女性でやや多く、女性の登用に  
対する認識や理解が足りないが男性でやや多いようです。

%		議院や審議会委員、町内会の長などにまだ女性が少ない理由											
		合計	1.男性 優位の 社会の 仕組みや 制度が ある	2.女性 は指導 力が低 いとい うよう な女性 の能力 に対する 偏見が ある	3.女性 の能力 発揮の チャン スが男 性と同 じよう に与え られて いない	4.「女 はでし ゃばる もので はな い」と いう社 会通念 がある	5.女性 の登用 に 対する 認識 や理 解が 足りな い	6.地域 の会長 や政策 決定の 場に出 られる ような 女性 の人材 がい ない	7.男性 がなる 方が良 い(なる もの だ)と 思っ てい る人 が多 い	8.女性 自身が 役職に 対する 関心や チャレ ンジ精 神が ない	9.家族 の理 解・協 力が ない	10.そ の他	不明
年齢	全体	1040	22.9	6.8	8.3	7.4	8.2	6.3	13.1	11.0	3.3	2.5	10.3
	20～29歳	78	17.9	9.0	11.5	7.7	6.4	9.0	20.5	9.0	1.3	2.6	5.1
	30～39歳	160	21.9	8.8	9.4	5.6	5.0	7.5	14.4	11.3	6.3	2.5	7.5
	40～49歳	165	27.3	5.5	7.9	10.3	6.7	5.5	14.5	7.3	4.8	1.2	9.1
	50～59歳	196	24.5	6.6	8.7	8.2	8.2	6.6	11.7	13.3	2.6	3.6	6.1
	60～69歳	251	25.9	6.0	8.4	7.6	10.0	3.6	12.0	10.4	2.8	2.0	11.6
	70歳以上	190	16.3	6.8	5.8	5.3	10.5	8.4	10.5	13.2	1.6	3.2	18.4

男性がなる方が良い(なるものだ)と思っている人が多い・女性の能力発揮のチャンスが男性と同じように与えられていないが  
若い人ほど多く、女性自身が役職に対する関心やチャレンジ精神がないが年配の人ほど多いようです。

問 19 あなたは以下にあげることがらについて知っていますか。

a 男女共同参画

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	17年3月	全国調査
1	内容まで知っている	261	25.0	26.9	44.6	64.6
2	聞いたことはあるが、内容は知らない	525	50.3	54.1	27.4	
3	全く知らない	184	17.6	19.0	20.6	
	不明	73	7.0		7.4	
	N (%ベース)	1043	100.0	970		

男女共同参画社会について、内容まで知っている 25.0%(前回 44.6%)、聞いたことはあるが、内容は知らない 50.3%(前回 27.4%)、全く知らない 17.6%(前回 20.6%)、不明 7.0%(前回 7.4%)となっています。約半数の人は名前だけは知っています。内容まで知っている人は 4 人に一人くらいです。前回に比べ内容まで知っているが減って、聞いたことはあるが内容は知らないが増えています。全国調査では知っているかだけを聞いていますが、内容まで知っている・聞いたことがある合わせると 75.3%で全国よりも知っている人は多くなっています。

よく知っているが女性で 23.8%・男性で 30.6%、聞いたことはあるが女性 54.7%・男性 53.6%で男性で知っている人が多いです。年齢別では 60 歳代でよく知っているが 32.6%・50 歳代で 28.9%、全く知らないが 20 歳代で 30.2%・30 歳代で 30.2%と若い人で知らない人が多いようです。職業別では教員・公務員・学生でよく知っているが多く、契約社員・正社員・正規職員でよく知っているが少なくなっています。臨時・パート・アルバイトで全く知らないが 27.4%、正社員・正規職員で 25.0%と多くなっています。

b ジェンダー

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	17年3月	全国調査
1	内容まで知っている	149	14.3	15.8	22.8	31.9
2	聞いたことはあるが、内容は知らない	259	24.8	27.4	20.4	
3	全く知らない	538	51.6	56.9	47.5	
	不明	97	9.3		9.4	
	N (%ベース)	1043	100.0	946		

ジェンダーについて、内容まで知っている 14.3%(前回 22.8%)、聞いたことはあるが、内容は知らない 24.8%(前回 20.4%)、全く知らない 51.6%(前回 47.5%)、不明 9.3%(前回 9.4%)となっています。前回よりも内容まで知っている、聞いたことはあるとともに減っています。内容まで知っている・聞いたことがある合わせると 39.2%で全国の 31.9%よりも多くなっています。

性別でほとんど差はありません。20 歳代で 23.4%が内容まで知っていると答え、若い人ほどよく知っています。教員・公務員・学生で内容まで知っているが多く、臨時・パート・アルバイト、正社員・正規職員、契約社員で全く知らないが多くなっています。

c セクシュアル・ハラスメント

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	17年3月
1	内容まで知っている	773	74.1	80.4	83.4
2	聞いたことはあるが、内容は知らない	152	14.6	15.8	4.0
3	全く知らない	36	3.5	3.7	4.4
	不明	82	7.9		8.2
	N (%ベース)	1043	100.0	961	

セクシュアル・ハラスメントについて、内容まで知っている 74.1%(前回 83.4%)、聞いたことはあるが、内容は知らない 14.6%(前回 4.0%)、全く知らない 3.5%(前回 4.4%)、不明 7.9%(前回 8.2%)となっています。前回よりも少なくなっていますが、4 人に 3 人は内容まで知っていると答えています。内容まで知っている・聞いたことがある合わせると 88.7%となっています。全国調査の項目はありません。

内容まで知っているが 20 歳で 93.5%・30 歳代で 90.4%と若い人で内容まで知っているが多くなっています。教職員、公務員、

学生、正社員・正規職員で内容まで知っているが多くなっています。

#### d ドメスティック・バイオレンス

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	17年3月
1	内容まで知っている	748	71.7	77.7	74.3
2	聞いたことはあるが、内容は知らない	160	15.3	16.6	9.2
3	全く知らない	55	5.3	5.7	7.8
	不明	80	7.7		8.6
	N (%ベース)	1043	100.0	963	

ドメスティック・バイオレンスについて、内容まで知っている 71.7%(前回 74.3%)、聞いたことはあるが、内容は知らない 15.3%(前回 9.2%)、全く知らない 5.3%(前回 7.8%)、不明 7.7%(前回 8.6%)となっています。前回よりも内容まで知っている、名前は知っているが少し減っていますが、内容まで知っている・聞いたことがある合わせると 87.0%となっています。全国調査の項目はありません。

内容まで知っているが、女性 79.9%・男性 74.7%、聞いたことはあるが内容までは知らないが女性 14.7%・男性 19.1%と女性の方が知っているようです。若い人ほど内容まで知っているが多く、年齢の人ほど聞いたことはあるが内容までは知らないが多くなっています。教職員、公務員、学生、正社員・正規職員で内容まで知っているが多くなっています。

#### e ポジティブアクション

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	全国調査
1	内容まで知っている	77	7.4	8.1	19.0
2	聞いたことはあるが、内容は知らない	330	31.6	34.6	
3	全く知らない	548	52.5	57.4	
	不明	88	8.4		
	N (%ベース)	1043	100.0	955	

ポジティブアクションとは、社会的弱者とくに女性の職場環境の不利な状況を是正するための改善措置のことです。内容まで知っている 7.4%(前回項目なし)、聞いたことはあるが、内容は知らない 31.6%、全く知らない 52.5%、不明 8.4%となっています。半数の人は知らないと答えています。内容まで知っている・聞いたことがある合わせると 39.0%で全国の 19.0%よりも多くなっています。

内容まで知っているが女性 6.0%・男性 10.5%で男性の方が少し多いです。30歳代・40歳代で1割くらいが内容まで知っていると答えています。20歳代は 5.2%と少なく、全く知らないが 62.3%と多くなっています。教職員、公務員、学生、正社員・正規職員で内容まで知っているが多くなっています。

#### f エンパワメント

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	内容まで知っている	99	9.5	10.4
2	聞いたことはあるが、内容は知らない	281	26.9	29.5
3	全く知らない	571	54.7	60.0
	不明	92	8.8	
	N (%ベース)	1043	100.0	951

エンパワメントについて、内容まで知っている 9.5%(前回項目なし)、聞いたことはあるが、内容は知らない 26.9%、全く知らない 54.7%、不明 8.8%となっています。半数以上はまったく知らないと答えています。全国調査の項目はありません。

内容まで知っているが女性 8.5%・男性 12.7%で男性の方が少し多いです。30歳代・40歳代で内容まで知っていると答えた人が多くなっています。教職員、公務員で内容まで知っているが多くなっています。

g ワーク・ライフ・バランス

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	全国調査
1	内容まで知っている	179	17.2	18.9	37.0
2	聞いたことはあるが、内容は知らない	370	35.5	39.1	
3	全く知らない	398	38.2	42.0	
	不明	96	9.2		
	N (%ベース)	1043	100.0	947	

ワーク・ライフ・バランスとは仕事と家庭のどちらも犠牲にすることなく調和の取れたライフスタイルを目指すことをいいます。ワーク・ライフ・バランスについて、内容まで知っている 17.2% (前回項目なし)、聞いたことはあるが、内容は知らない 35.5%、全く知らない 38.2%、不明 9.2%となっています。内容まで知っている・聞いたことがある合わせると 52.7%で全国の 37.0%よりも多くなっています。

内容まで知っているが女性 16.9%・男性 21.4%で男性の方が少し多いです。若い人ほど内容まで知っていると答えた人が多くなっています。教職員、公務員、正社員・正規職員で内容まで知っているが多くなっています。

h 育児・介護休業

1	内容まで知っている	586	56.2	61.1
2	聞いたことはあるが、内容は知らない	347	33.3	36.2
3	全く知らない	26	2.5	2.7
	不明	84	8.1	
	N (%ベース)	1043	100.0	959

育児・介護休業について、内容まで知っている 56.2% (前回項目なし)、聞いたことはあるが、内容は知らない 33.3%、全く知らない 2.5%、不明 8.1%となっています。内容まで知っている・聞いたことがある合わせると 89.5%でほとんどの人が知っていると答えています。

内容まで知っているが女性で 63.1%・男性が 58.3%で女性の方がよく知っています。30 歳代・40 歳代で内容まで知っていると答えた人が多くなっています。教職員、公務員で内容まで知っているが多くなっています。

i 大分県消費生活・男女共同参画プラザ

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	17 年 3 月
1	内容まで知っている	160	15.3	16.6	18.7
2	聞いたことはあるが、内容は知らない	440	42.2	45.6	29.1
3	全く知らない	365	35.0	37.8	43.9
	不明	78	7.5		8.3
	N (%ベース)	1043	100.0	965	

大分県消費生活・男女共同参画プラザ(愛称 アイネス)について、内容まで知っている 15.3% (前回 18.7%)、聞いたことはあるが、内容は知らない 42.2% (前回 29.1%)、全く知らない 35.0% (前回 43.9%)、不明 7.5% (前回 8.3%)となっています。前回よりも内容まで知っているは少し減ったものの、聞いたことはあるが内容までは知らないは多くなっています。

内容まで知っているが女性で 18.0%・男性が 14.6%で女性の方がよく知っています。20 歳代で約半数、30 歳代で 45%、40 歳代で 4 割が全く知らないと答えています。若い人で知らない人が多いようです。

問 20 男女共同参画社会の実現に向けて、県は今後どのような分野に力を入れていくべきだと思いますか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	政策・方針決定過程への女性の参画を進める	269	25.8	27.5
2	男女共同参画意識を高める	402	38.5	41.1
3	生涯を通じた男女の性と健康を守る	120	11.5	12.3
4	男女間のあらゆる暴力をなくす	188	18.0	19.2
5	家庭生活と職業生活や地域活動とが両立できる環境 づくりを進める	601	57.6	61.4
6	多様な働き方ができる場をつくる	333	31.9	34.0
7	女性のチャレンジを支援する	281	26.9	28.7
8	新しい取組における共同参画を推進	241	23.1	24.6
9	その他	14	1.3	1.4
10	特にない	32	3.1	3.3
11	わからない	62	5.9	6.3
	不明	65	6.2	
	N (%ベース)	1044	100.0	979

家庭生活と職業生活や地域活動とが両立できる環境づくりを進める 57.6%、男女共同参画意識を高める 38.5%、多様な働き方ができる場をつくる 31.9%、女性のチャレンジを支援する 26.9%、政策・方針決定過程への女性の参画を進める 25.8%、新しい取組における共同参画を推進 23.1%、男女間のあらゆる暴力をなくす 18.0%、生涯を通じた男女の性と健康を守る 11.5%、その他 1.3%、特にない 3.1%、わからない 5.9%、不明 6.2%となっています。

%		男女共同参画社会実現に向けて												
		合計	政策・方針決定過程への女性の参画を進める	男女共同参画意識を高める	生涯を通じた男女の性と健康を守る	男女間のあらゆる暴力をなくす	家庭生活と職業生活や地域活動とが両立できる環境づくりを進める	多様な働き方ができる場をつくる	女性のチャレンジを支援する	新しい取組における共同参画を推進	その他	特にな	わかない	不明
性別	全体	1039	25.9	38.6	11.5	18.1	57.7	32.0	26.9	23.1	1.3	3.1	6.0	6.0
	女性	575.0	23.1	35.7	10.4	19.7	59.1	36.3	27.8	20.0	1.6	2.8	7.5	5.2
	男性	464.0	29.3	42.2	12.7	16.2	56.0	26.5	25.9	26.9	1.1	3.4	4.1	6.9
年齢	全体	1040.0	25.9	38.6	11.5	18.1	57.8	31.9	26.9	23.2	1.3	3.1	6.0	6.0
	20～29歳	78.0	10.3	34.6	17.9	26.9	52.6	43.6	26.9	15.4	-	2.6	5.1	1.3
	30～39歳	160.0	21.9	31.3	9.4	20.0	60.6	36.9	36.3	13.8	1.9	1.3	6.9	2.5
	40～49歳	165.0	23.0	34.5	14.5	18.2	60.6	41.2	23.6	16.4	1.8	3.0	8.5	3.0
	50～59歳	196.0	31.1	39.3	12.2	12.8	62.8	30.6	31.6	26.5	1.5	3.1	3.6	2.6
	60～69歳	251.0	30.7	42.2	11.6	17.1	60.6	29.9	26.3	29.9	1.6	2.0	5.2	6.8
	70歳以上	190.0	26.3	44.2	7.4	19.5	46.3	18.9	17.9	27.9	0.5	6.3	6.8	15.8
職業	全体	1033.0	26.0	38.3	11.5	18.1	57.7	32.0	26.8	23.1	1.4	3.1	6.0	6.0
	自営業	154.0	27.9	37.0	9.1	18.8	52.6	28.6	25.3	26.0	1.9	1.3	4.5	11.7
	正社員職員	236.0	23.3	37.7	13.6	14.8	60.2	33.9	26.7	23.3	1.3	4.2	5.9	1.3
	契約社員	36.0	19.4	44.4	22.2	22.2	55.6	30.6	30.6	16.7			5.6	5.6
	公務員	49.0	34.7	46.9	12.2	8.2	59.2	34.7	32.7	14.3	4.1	2.0	2.0	-
	教職員	11.0	36.4	36.4	9.1	18.2	72.7	36.4	27.3	27.3			9.1	9.1
	臨時、パート、アルバイト	150.0	20.0	33.3	10.0	24.0	56.7	39.3	32.0	21.3	0.7	2.7	5.3	4.7
	家事専業	204.0	26.5	36.8	8.8	16.2	62.7	38.7	27.5	18.1	1.0	3.9	7.4	4.9
	無職	97.0	35.1	46.4	11.3	17.5	58.8	20.6	19.6	35.1	1.0	2.1	5.2	11.3
	学生	6.0	16.7	50.0	16.7	16.7	66.7	33.3	50.0	16.7	-			
	その他	90.0	26.7	37.8	14.4	24.4	46.7	16.7	21.1	26.7	2.2	5.6	10.0	11.1

男性で政策・方針決定過程への女性の参画を進める、男女共同参画意識を高めるが多くなっていますが、女性では多様な働き方ができる場をつくるが男性より多くなっています。若い人ほど男女間のあらゆる暴力をなくす、多様な働き方ができる場をつくるが多くなっています。家事専業で家庭生活と職業生活や地域活動とが両立できる環境づくりを進めるが多くなっています。

## 12、調査結果のまとめ

### 1、調査の目的と概要

・大分県民の人権に関する意識の現在の全体状況を把握するとともに、男女共同参画社会づくりに向けた施策展開、「おおいた男女共同参画プラン」改定の基礎資料とするとともに、県民の男女共同参画に関する意識啓発を行うことを目的として、2009（平成 21）年 7 月に調査を実施しました。

・2009（平成 21）年 3 月 2 日現在の県有権者名簿から約 0.3%・3,000 人を抽出し、同年 7 月に調査票を送付、9 月末日までに返送されたものは集計しました。有効回収数 1,043 票で有効回収率は 34.8%でした。前回（平成 17 年県調査）も県内有権者 3000 人を対象に実施していますが、有効回収数 1,511 票・有効回収率 53.6%でした。

・2005（平成 17）年に実施した『男女共同参画社会づくりのための意識調査』（以降、前回調査とします）、内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」、2009（平成 21）年 10 月調査（以降、全国調査）と、比較できる項目は比較しています。

・大分県生活環境部県民生活・男女共同参画課が調査を実施し、調査の集計・分析・報告は「大分県人権問題調査研究会」（代表吉良伸一大分県立芸術文化短期大学情報コミュニケーション学科長・教授）が行いました。

### 2、対象者の概要

・今回調査では不明（無記入）を除くと、女性 55.3%・男性 44.7%と、国勢調査より少し女性が多く男性が少なくなっています。大きな差はありません。前回平成 17 年の調査に比べて、少し女性が少なく男性の回答が多くなっています。

・60 歳代が最も多く 24.1%、次に 50 歳代が 18.8%、70 歳以上 18.2%、40 歳代 15.8%、30 歳代 15.3%、20 歳代 7.5%となっています。前回調査では 60 歳以上をまとめていますが、60 歳以上が上の表から計算すると今回調査 42.3%・前回調査 35.5%・全国調査 40.3%・国勢調査では 38.1%となります。60 歳以上が前回・国勢調査より多くなっていますが、全国調査とあまり変わりません。高齢化が進んでいることを考えれば実勢に近いのではないのでしょうか。

・結婚している（事実婚を含む）が 74.3%・結婚したことがない 13.0%・結婚していたが離別または死別した 12.4%・不明 0.3%となっています。前回調査より結婚しているが少なく未婚と離死別が多くなっています。全国と比べあまり違いはありませんが未婚が少なく離死別が多くなっています。

・結婚している人 775 人について、あなたは共働き（パート・アルバイトなどを含む）ですかという質問では、共働きである 43.4%・共働きでない 32.1%・夫婦共に働いていない 23.0%・不明 1.5%となっています。前回より共働きが 2.9%減って、夫婦共に働いていないが 3.2%増えています。不況や高齢化が影響しているようです。

・結婚している人 775 人について、あなたは共働き（パート・アルバイトなどを含む）ですかという質問では、共働きである 43.4%・共働きでない 32.1%・夫婦共に働いていない 23.0%・不明 1.5%となっています。前回より共働きが 2.9%減って、夫婦共に働いていないが 3.2%増えています。不況や高齢化が影響しているようです。

・二世帯世帯（親と未婚の子ども）31.3%・夫婦のみ 31.2%・一人暮らし 10.6%・三世帯世帯（祖父母と親と子ども）9.6%・その他の世帯 9.0%・二世帯世帯（親と子ども夫婦）7.3%・不明 1.1%となっています。前回調査より二世帯世帯（親と未婚の子ども）が 6.9%・三世帯世帯（祖父母と親と子ども）が 2.6%減って、夫婦のみが 3.3%・一人暮らしが 3.4%増えています。全国的な傾向がこの調査でも出ています。

・企業・団体の正社員・正規職員 22.6%・家事専業 19.6%・自営業 14.8%・臨時雇用、パート、アルバイト 14.4%・無職 9.3%・その他 8.6%・公務員 4.7%・企業・団体の契約社員 3.5%・学生 0.6%・不明 1.0%となっています。前回と分類が異なるので比較しにくいところがありますが、前回調査では雇用者の常勤（フルタイム）が 29.2%、今回調査で正社員正規職員・契約社員・公務員・教職員あわせて 31.9%となります。あまり大きな差はありません。自営業は前回より 6.2%少なくなっています。臨時・パート・アルバイトは前回より 5.2%、家事専業は 5.1%増えています。

・女性では、家事専業 33.9%、臨時・パート・アルバイト 21.6%、正社員・正規職員 14.9%、自営 12.3%などとなっています。男性は、正社員・正規職員 32.8%、自営 18.2%、無職 16.5%、その他 10.6%などです。正社員・正規職員が男性では 32.8%に対して女性で 14.9%、臨時・パート・アルバイトが女性で 21.6%に対して男性 5.9%、契約社員が女性 4.3%に対して男性 2.8%と、不安定就業が女性に多いことがわかります。

・現在の住所は、大分市 38.5%・別府市 8.4%・中津市 5.8%・日田市 5.5%・佐伯市 5.8%・臼杵市 3.3%・津久見市 1.6%・竹田市 2.8%・豊後高田市 1.9%・杵築市 3.6%・宇佐市 4.9%・豊後大野市 5.1%・由布市 3.3%・国東市 3.5%・姫島村 0.2%・日出町 2.3%・九重町 1.0%・玖珠町 1.3%・不明 1.2%となっています。

### 3、男女の意識について

・「男は仕事、女は家庭」についてどう思うか聞いたものです。同感しないが45.3%、どちらともいえない38.4%、同感する12.1%、わからない1.5%、不明2.8%となっています。同感しないが前回調査より1.6%増え、どちらともいえない・わからないが少し減っています。同感するはほとんど変化がありません。同感するが男性14.9%・女性10.2%と差が出ていますが、分析の結果、統計的に有意な差ではありません。職業別で、教職員、公務員、契約社員で同感しないが多く、無職、自営業、その他で同感するが多くなっています。年齢では年齢が高いほど同感するが多い傾向にあり、若いほど同感しないが多い傾向にあります。

#### (1) 男女は平等になったか

・家庭生活で男女は平等になっているでしょうかという質問について、どちらかという男性の方が非常に優遇10.5%、どちらかといえば男性の方が優遇47.9%、平等28.0%、どちらかといえば女性が優遇4.7%、女性が非常に優遇0.7%、わからない5.7%、不明3.0%となっています。前回調査に比べ男性が非常に優遇が2.8%、どちらかといえば男性が優遇が3.8%減って、平等が5.7%増えています。すこし家庭生活で平等になったとする人が増えています。全国調査と比べると(不明を除く%)、男性が非常に優遇が3.0%、どちらかといえば男性が優遇が10.3%少なく、平等が14.7%少なくなっています。年齢・性別・職業で有意な関連があります。年齢と性別の重要度が高いです。女性で男性が非常に優遇されているが多く、男性で平等であるが多くなっています。年齢が高い方が平等である・どちらかといえば男性が優遇が多くなっています。臨時・パート・アルバイトで男性が非常に優遇が多く、公務員・無職で平等が多くなっています。

・職場では男女は平等になっているでしょうかという質問について、どちらかという男性の方が非常に優遇16.5%、どちらかといえば男性の方が優遇47.2%、平等19.7%、どちらかといえば女性が優遇4.4%、女性が非常に優遇0.7%、わからない6.6%、不明5.0%となっています。前回調査とほとんど変わりませんが、どちらかといえば男性が優遇が1.8%増えています。全国とあまり差はありませんが、男性が優遇が少し多く、平等が少し少ないようです。職業・性別・年齢で有意な関連がでています。臨時・パート・アルバイトと専業主婦で男性が非常に優遇が多くとどちらかといえば男性が優遇が多くなっています。若い人で男性が非常に優遇、年配でどちらかといえば男性が優遇が多い傾向にあります。女性で男性が非常に優遇、男性で平等が多くなっています。

・学校教育では男女は平等になっているでしょうかという質問について、どちらかという男性の方が非常に優遇2.6%、どちらかといえば男性の方が優遇12.0%、平等59.5%、どちらかといえば女性が優遇3.1%、女性が非常に優遇0.6%、わからない15.9%、不明6.3%となっています。前回調査とほとんど変わりませんが、平等が5.8%増えています。全国とは、平等が少し少ないようです。職業と年齢が関連しています。公務員と無職で平等が多く、契約社員・学生でどちらかといえば男性が優遇が多いようです。年配の方が平等が多く、若い人でどちらかといえば男性が優遇が多いようです。

・政治の場では男女は平等になっているでしょうかという質問について、どちらかという男性の方が非常に優遇23.5%、どちらかといえば男性の方が優遇41.3%、平等18.2%、どちらかといえば女性が優遇0.9%、女性が非常に優遇0.1%、わからない11.1%、不明4.9%となっています。前回調査より男性が非常に優遇が少し減って平等が少し増えています。全国調査と比べどちらかといえば男性が優遇が少し多いようです。性別・年齢別・職業別に関連があります。女性で男性が非常に優遇が多く、男性で平等が多くなっています。年齢が若い方が男性が非常に優遇が多く、年配の方が平等が多くなっています。教職員・学生・臨時・パート・アルバイトで男性が非常に優遇が多く、無職で平等が多くなっています。

・法律や制度の上では男女は平等になっているでしょうかという質問について、どちらかという男性の方が非常に優遇8.1%、どちらかといえば男性の方が優遇29.6%、平等36.9%、どちらかといえば女性が優遇5.3%、女性が非常に優遇0.5%、わからない13.6%、不明6.0%となっています。前回調査より男性が非常に優遇が少し減って平等が少し増えています。全国調査と比べどちらかといえば平等が少し少ないようです。性別・年齢別・職業別に関連があります。女性で男性が非常に優遇・どちらかといえば男性が優遇が多く、男性で平等が多いようです。若い人で男性が非常に優遇が多く、年配の人で平等が多くなっています。臨時・パート・アルバイトで男性が非常に優遇が多く、教職員・公務員・家事専業でどちらかといえば男性が優遇が多くなっています。

・社会通念・慣習・しきたりにおいて男女は平等になっているでしょうかという質問について、どちらかという男性の方が非常に優遇21.2%、どちらかといえば男性の方が優遇53.3%、平等11.2%、どちらかといえば女性が優遇2.1%、女性が非常に優遇0.2%、わからない7.2%、不明4.9%となっています。前回調査とほとんどかわりません。全国調査と比べ平等が少し少なく男性が優遇が少し多いようです。年齢・性別・職業の順で有意な関連があります。若い人で男性が非常に優遇が多く、年配の人でどちらかといえば男性が優遇が多くなっています。女性で男性が非常に優遇が多く、男性でどちらかといえば男性が優遇が多くなっています。教職員、臨時・パート・アルバイトで男性が非常に優遇が多く、公務員、無職、自営業でどちらかといえば男性が優遇が多くなっています。

・社会全体において男女は平等になっているでしょうかという質問について、どちらかというとなら男性の方が非常に優遇 10.4%、どちらかといえば男性の方が優遇 59.0%、平等 14.4%、どちらかといえば女性が優遇 3.7%、女性が非常に優遇 0.8%、わからない 7.4%、不明 4.4%となっています。前回調査とほとんど変わりません。全国調査と比べ平等が少し少ないようです。性別・職業・年齢の順で関連がでています。女性で男性が非常に優遇が多く、男性で平等が多くなっています。若い人で男性が非常に優遇が多く、年配の人で平等が多くなっています。臨時・パート・アルバイトで男性が非常に優遇が多く、公務員、自営業でどちらかといえば男性が優遇が多くなっています。無職で平等が多くなっています。

・各領域について、不明を除いた割合で比較しました。もっとも平等と考えられているのが学校教育 63.6%で、これだけが半数を超えています。次は法律や制度の上では 39.3%です。逆に、男性が優遇されていると感じられているのが、社会通念・慣習・しきたりにおいては(非常に・どちらかといえば合わせ 79.2%)、社会全体(72.5%)、政治の場(68.1%)、職場(67.0%)、家庭生活(59.8%)となっています。

## (2) 家庭内の役割分担

・家計の管理について、現状では、主に妻が 62.8%、夫婦共同で 17.3%、主に夫 16.1%、主に母 0.4%、主に父 0.3%、その他 0.5%、不明 3.1%となっています。理想では、夫婦共同が 42.3%と最も多く、次いで主に妻が 37.9%、主に夫 6.7%、主に母 0.1%、その他 0.6%、不明 12.3%となっています。現状について、前回調査と比べ主に妻が少し減って夫婦共同が少し増えています。理想については変化がありません。家計の管理の現状では、職業だけが有意な関連があります。臨時・パート・アルバイトで主として妻が 71.4%、契約社員で 71.4%、家事専業で 70.4%、正社員で 70.9%と多く、教職員、公務員、自営業で夫婦共同が多くなっています。家計の管理理想では、職業と年齢が関連しています。自営業で主に夫が多く、契約社員、正社員で主に妻が、教職員、公務員、自営業で夫婦共同が多くなっています。

・食料品などの買い物について、現状では、主に妻が 74.8%、夫婦共同で 18.3%、主に夫 2.5%、主に母 0.6%、主に父 0.1%、その他 0.6%、不明 3.0%となっています。理想では、夫婦共同が 45.3%と最も多く、次いで主に妻が 40.8%、主に夫 0.3%、主に母 0.3%、その他 0.8%、不明 12.6%となっています。現状について、前回調査と比べ主に妻が少し減って夫婦共同が少し増えています。理想についても主に妻が減って夫婦共同が少し増えています。現状では、年齢と職業で関連がでています。若い人ほど主に妻が多く、20歳代では 90.5%となっています。年配で夫婦共同が多く、60歳代で 20.2%、70歳以上で 27.8%となっています。教職員 87.5%・契約社員 81.0%・家事専業 81.1%と主に妻が多く、自営業で夫婦共同が 23.1%と多くなっています。理想では、職業と年齢で関連がでています。主に妻が正社員で 55.7%、家事専業で 51.1%と多く、夫婦共同が公務員で 69.2%、契約社員で 61.9%と多くなっています。

・食事のしたくについて、現状では、主に妻が 88.9%、夫婦共同で 6.1%、主に夫 0.8%、主に母 1.2%、主に父 0.1%、その他 0.5%、不明 2.5%となっています。理想では、主に妻が 44.3%、夫婦共同が 41.2%と多く、主に夫 0.3%、主に母 0.7%、その他 1.4%、不明 12.3%となっています。現状、理想ともに前回とほとんど変化がありません。食事のしたくの現状では、職業と年齢で有意な関連があります。家事専業で主に妻が 96.9%と高く、公務員で夫婦共同が 15.0%と高くなっています。年配ほど主に妻が多く、若い人ほど夫婦共同が多くなっています。食事のしたくの理想では、性別・年齢・職業で有意な関連がでています。主に妻が女性で 44.9%、男性で 56.7%、夫婦共同が女性 51.7%に対して、男性 41.5%となっています。年配ほど主に妻が多く、若い人ほど夫婦共同が多くなっています。正社員で主に妻が 55.0%と多く、教職員・公務員で夫婦共同が多くなっています。

・食事の片づけについて、現状では、主に妻が 82.3%と最も多く、夫婦共同で 11.4%、主に夫 1.5%、主に母 0.6%、主に父 0.3%、その他 0.8%、不明 3.1%となっています。理想では、夫婦共同が 53.3%と最も多く、次いで主に妻が 30.3%、主に夫 1.2%、主に母 0.3%、主に父 0.3%、その他 1.7%、不明 13.0%となっています。現状、理想ともに前回とほとんど変化がありません。食事の後片付けの現状では、職業と年齢で有意な関連がでています。主に妻が契約社員で 95.0%、家事専業で 90.2%と多く、夫婦共同が教職員 25.0%・公務員 20.0%と多くなっています。若い人ほど夫婦共同が多くなっています。食事の後片付けの理想では、性別・職業・年齢で関連があります。主に妻が男性 40.7%・女性 29.7%、夫婦共同が男性 56.5%・女性 65.4%となっています。主に妻が正社員で 41.1%・契約社員で 40.0%と多く、夫婦共同が公務員 76.9%・教職員 75.0%・臨時・パート・アルバイト 70.0%と多くなっています。

・掃除・洗濯について、現状では、主に妻が 80.5%、夫婦共同で 12.6%、主に夫 1.3%、主に母 1.2%、主に父 0.1%、その他 0.5%、不明 3.7%となっています。理想では、夫婦共同が 52.1%と最も多く、次いで主に妻が 31.9%、主に夫 0.4%、主に母 0.5%、その他 1.4%、不明 13.7%となっています。現状、理想ともに前回とほとんど変化がありません。掃除・洗濯の現状では、性別・年齢・職業で有意な関連がでています。主に妻が女性で 88.9%・男性 78.3%、夫婦共同が女性 8.3%・男性 18.1%となっています。主に妻が年配で多く、若い人で夫婦共同が多くなっています。家事専業で主に妻が 90.7%と多く、夫婦共同が正社員 19.7%・公

務員 17.5%・無職 19.1%が多いようです。理想では、職業だけで関連がでています。主として妻が自営業で 46.0%・家事専業で 41.9%と多く、夫婦共同では教職員 87.5%・公務員 74.4%・契約社員 66.7%・臨時・パート・アルバイト 68.4%で多くなっています。

・育児(乳幼児の世話)について、現状では、主に妻が 48.9%、夫婦共同で 14.3%、主に夫 0.4%、主に母 0.8%、その他 4.1%、不明 31.5%となっています。理想では、夫婦共同が 53.0%と最も多く、次いで主に妻が 21.9%、主に夫 0%、主に母 0.1%、その他 1.3%、不明 30.3%となっています。現状、理想ともに前回とほとんど変化がありません。乳幼児の世話の現状では、年齢と職業で有意な関連があります。若い人で夫婦共同が多く 20 歳代では 46.7%・30 歳代で 34.0%になります。主に妻が臨時・パート・アルバイト 79.8%、自営業 78.2%と多く、夫婦共同が公務員で 38.2%・教職員 33.3%・契約社員 28.6%・正社員 26.2%と多くなっています。理想では性別・職業別・年齢別で関連があります。主に妻が女性 12.9%・男性 31.7%、夫婦共同で女性 85.7%・男性 65.6%と異なっています。20 歳はやや異なりますが 30 歳代以上では年齢が高いほど主として妻が多く、若いほど夫婦共同が多くなっています。無職・自営業で主として妻が多く、臨時・パート・アルバイト、教職員、公務員、契約社員で夫婦共同が多くなっています。

・子どもの教育とつけについて、現状では、主に妻が 33.7%、夫婦共同で 33.4%、主に夫 1.8%、主に母 0.5%、その他 3.0%、不明 27.6%となっています。理想では、夫婦共同が 64.0%と最も多く、次いで主に妻が 6.1%、主に夫 1.2%、主に母 0.1%、主に父 0.1%、その他 0.6%、不明 27.9%となっています。現状、理想ともに前回とほとんど変化がありません。子どもの教育とつけの現状では、年齢と職業で関連があります。夫婦共同が 20 歳代で 60.0%・30 歳代で 53.0%と若い人で多くなっています。主に妻が、契約社員 56.3%、臨時・パート・アルバイト 58.7%、家事専業 53.7%と多く、夫婦共同で公務員 61.1%、正社員 53.4%で多くなっています。理想では、職業でだけ関連がでています。夫婦共同が教職員 100.0%、臨時・パート・アルバイト 94.2%、家事専業 92.3%で多くなっています。

・PTAへの出席について、現状では、主に妻が 51.7%、夫婦共同で 10.5%、主に夫 2.1%、主に母 0.6%、主に父 0.5%、その他 4.1%、不明 30.5%となっています。理想では、夫婦共同が 52.9%と最も多く、次いで主に妻が 14.3%、主に夫 1.3%、主に母 0.4%、その他 1.5%、不明 29.5%となっています。現状、理想ともに前回とほとんど変化がありません。PTAの出席、現状では年齢・職業・性別で関連がでています。40 歳代で主として妻が 81.3%と夫婦共同が 20 歳代で 26.7%と多くなっています。主として妻が臨時・パート・アルバイトで 83.0%、家事専業で 81.2%と多く、夫婦共同が教職員で 33.3%、公務員 22.2%、自営業 22.6%と多くなっています。理想では年齢・職業・性別で関連がでています。主として妻が若い人が多い傾向があります。夫婦共同では 50 歳代で多くなっています。主として妻は正社員で 23.6%、無職 21.6%、公務員 21.6%で多く、夫婦共同は臨時・パート・アルバイト 84.7%、教職員 83.3%で多くなっています。主として妻は男性で 26.5%、女性 14.6%、夫婦共同が女性 82.9%・男性 66.7%となっています。

・町内行事等への参加について、現状では、主に夫 28.3%と最も多く、主に妻が 28.0%、夫婦共同で 28.0%、主に父 1.7%、主に母 0.5%、その他 2.7%、不明 10.8%となっています。理想では、夫婦共同が 62.3%と最も多く、次いで主に夫 14.3%、主に妻が 4.3%、主に母 1.4%、その他 1.4%、不明 17.0%となっています。現状、理想ともに前回とほとんど変化がありません。町内会行事等への参加の現状は、年齢と職業で関連があります。主として夫が 70 歳以上で 46.8%、60 歳代で 36.4%と年配ほど多くなっています。主として妻は 40 歳代で 38.8%と多く、夫婦共同は 30 歳代で 39.6%と多くなっています。自営業と無職で主として夫が多く、主として妻は家事専業で 40.8%、公務員で 38.8%と多くなっています。理想では、年齢と職業で関連がでています。主として夫は年齢が高いほど多くなっています。自営業で主として夫が 23.5%と多くなっています。

・高齢者の世話・介護について、現状では、主に妻が 31.4%、夫婦共同で 21.4%、主に夫 1.7%、主に母 0.6%、主に父 0.4%、その他 10.3%、不明 34.2%となっています。理想では、夫婦共同が 57.7%と最も多く、次いで主に妻が 6.5%、主に夫 0.4%、主に父 0.3%、その他 3.1%、不明 32.1%となっています。現状について、前回調査と比べ主に妻が少し減っています。理想について夫婦共同で少し増えています。高齢者の世話・介護の現状では、年齢と性別で関連がでています。年配の人で主として妻が多く、若い人ほど夫婦共同が多くなっています。臨時・パート・アルバイト 54.2%、自営業 52.7%で主として妻が多く、教職員 60.0%・公務員 42.4%・正社員 40.0%で夫婦共同が多くなっています。理想では、年齢・性別・職業で関連がでています。年配ほど主として妻が多くなっています。主として妻が男性で 13.8%・女性 5.5%、夫婦共同が女性 87.5%・男性 82.3%となっています。夫婦共同が自営業で 89.7%・家事専業で 89.8%・無職で 88.9%と多くなっています。

### (3) 家事・育児・介護・地域活動等への男性の参加を進めるために

・家事・育児・介護・地域活動等への男性の参加を進めるために必要なことを聞いてみました。夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかることが対象者の 66.6%で最も多く、職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動等についても理解し、支援することが 56.7%、家事などに参加することに対する男性自信の抵抗感をなくすことが 54.7%と次に多くなっています。社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めることが 49.8%、労働時間の短縮や休暇制度を普及すること 44.0%、家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること 26.8%、国

や地方自治体などの研修等により、男性の家事や、子育て、介護等の技能を高めること 24.8%、男性が育児や介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りを進めること 23.7%、男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと 20.6%、その他 3.5%、とくに必要なことはない 4.7%、不明 5.5%などとなっています。

・職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動等についても理解し、支援することが女性 61.9%・男性 50.2%、家事などに参加することに対する男性自信の抵抗感をなくすことが女性 61.7%・男性 46.3%、社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めることが女性 55.7%・男性 42.7%、国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や、子育て、介護等の技能を高めることが女性 28.5%・男性 20.5%と、多くの質問で男性より女性が問題点を指摘しています。職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動等についても理解し、支援すること、労働時間の短縮や休暇制度を普及すること、社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めることは、若い人ほど多くなっています。職業別より、性別や年齢別の違いが大きいです。

#### 4、仕事について

・卒業して以来、継続して働いている 31.2%(前回 33.3%)・結婚出産で一時やめ、また働いている 14.7%(前回 14.8%)、その他の事情で一時やめ、また働いている 10.1%(前回 9.8%)・卒業してから働いていなかったが、その後働いている 1.1%(前回 1.9%)・卒業してから働いていたが、結婚・育児(出産)のため仕事をやめた 10.2%(前回 13.2%)・卒業してから働いていたが、その他の事情で仕事をやめた 5.3%(前回 4.9%)・これまで働いたことはない 1.3%(前回 1.5%)・定年退職により現在働いていない 13.2%(前回 13.7%)・現在、学生である 0.5%(前回 0.9%)・その他 5.9%(前回 3.2%)・不明 6.6%(前回 2.8%)となっています。前回と大きな差はありませんが、結婚・育児(出産)のために仕事をやめたが少し減っています。

・女性について、20歳代で継続して働いているが前回 49.2%から今回 41.5%と減っています。結婚・出産育児でやめたが前回 19.7%から今回 9.4%と減っています。結婚出産で一時やめたがまた働いているが前回 1.6%が今回 9.4%と増えています。30歳代では結婚・育児・出産でやめたが前回 36.9%から今回 27.8%と減少、結婚・出産で一時やめたがまた働いているが 27.2%から 33.3%と増えています。50歳代で結婚出産で一時やめたがまた働いているが、前回 31.8%から今回 47.2%に増えています。

・現在働いている人について、仕事のやりがいを聞いてみました。やりがいがある 59.9%(前回 53.3%)・やりがいはない 7.9%(前回 8.8%)・どちらともいえない 31.5%(前回 37.1%)・不明 0.7%(前回 0.8%)で、前回よりやりがいがあるが増えています。男性と女性ではやりがいがあるが女性 58.0%に対して男性 62.4%と女性が少し低くなっています。企業等の正社員で女性 60.5%に対して男性 64.1%と低くなっています。契約社員・臨時、パート、アルバイトで正社員よりやりがいがあるが少なくなっています。

・現在働いていないと答えた人に就労意思をたずねました。すぐ働きたい 11.8%(前回 13.8%)・将来働きたい 18.2%(前回 16.4%)・働くつもりはない 48.2%(前回 46.8%)・わからない 8.9%(前回 7.8%)となっています。すぐ働きたいが少し減って将来働きたい・働くつもりがないが少し増えています。女性の20歳代ではすぐ働きたいが 20%(前回 30.4%)、将来働きたい 73.3%(前回 60.9%)、30歳代ではすぐ働きたいが 21.9%(前回 26.8%)、将来働きたい 62.5%(前回 57.1%)、40歳代ではすぐ働きたいが 20.0%(前回 13.3%)、将来働きたい 60.0%(前回 40.0%)と就業意欲が高いことがわかります。しかし、前回調査と比べ将来働きたいが増えています。不況で希望する仕事があるはずにはないためかもしれません。

・女性が職業をもつことについて、結婚や出産にかかわらず職業を持ち続けた方がよい 41.4%(前回 36.7・全国 45.9%)、結婚するまでは職業を持つ方がよい 3.6%(前回 3.7・全国 5.5%)、子どもが出来るまでは職業をもつほうがよい 4.4%(前回 4.0%・全国 10.7%)、子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい 37.7%(前回 45.1・全国 31.3%)、職業を持たない方がよい 0.9%(前回 1.5%・全国 3.5%)、その他 5.7%(前回 3.6%・全国 1.4%)、分からない 2.6%(前回 2.8%・全国 1.8%)、不明 3.7%(前回 2.4%・全国は不明を除く)となっています。前は子どもが小さいうちは職業をやめ大きくなったら働くのがよいが最も多かったのですが、今回は結婚出産にかかわらず職業を持ち続けたほうがよいが増え、子どもが小さいうちは職業をやめ大きくなったら働くのがよいが少なくなっています。全国と比べ結婚出産にかかわらず職業を持ち続けたほうがよいが少し少なく、子どもが小さいうちは職業をやめ大きくなったら働くのがよいが多くなっています。性別ではあまり差がなくなっています。年齢別では50歳以上で子どもが小さいうちは仕事をやめが4割を超え多く、20・30・50歳代で継続して働くのがよいが半数近くになっています。職業別では、教員・学生・公務員・パート・アルバイトで継続して働くが多く、家事専業と自営業で子どもが小さいうちは仕事をやめが多くなっています。

・あなたの今の職場では、女性は男性に比べ、仕事の内容や待遇面で差別されていると思いますかという質問について、差別されていると思う 22.1%(前回 19.7%)、そのようなことはないと思う 40.1%(前回 41.5%)、分からない 15.0%(前回 12.7%)、不明 22.9%(前回 26.1%)となっています。差別されていると思うが少し増えています。職業と年齢で関連がでています。差別されているが70歳以上で、そのようなことはないが20歳代と50歳代でやや多くなっています。職業別では、差別されているが無職・臨時パート・正社員・契約社員でやや多く、そのようなことはないが教員・公務員・正社員などで多くなっています。

・いまの職場について差別があるとした人について、その内容は賃金に格差がある 49.6%(前回 50.0%)、昇進、昇格に差別がある 33.9%(前回 29.9%)、能力を正當に評価しない 25.7%(前回 24.8%)、補助的な仕事しかやらせてくれない 12.2%(前回 18.1%)、女性を幹部職員に登用しない 14.3%(前回 8.4%)、結婚したり子どもが産まれたりすると勤めにくい雰囲気がある 19.1%(前回 23.5%)、女性は定年まで勤めにくい雰囲気がある 10.0%(前回 9.1%)、教育・訓練を受ける機会が少ない 3.9%(前回 4.0%)、その他 7.0%(前回 4.7%)、不明 3.0%(前回 2.3%)となっています。前回と比べ昇進、昇格に差別があるが少し増えています。結婚したり子どもが産まれたりすると勤めにくい雰囲気があると補助的な仕事しかやらせてくれないはやや減っています。賃金に格差があるは女性 55.8%・男性 46.4%、結婚したり子どもが産まると勤めにくい女性 24.8%・男性 14.5%などでは女性の方が多いですが、昇進昇格に差がある女性 30.1%・男性 40.0%、能力を正當に評価してくれない女性 29.2%・男性 23.6%、女性を幹部社員に登用しない女性 13.3%・男性 16.4%では男性の方が多くなっています。賃金や勤務そのものが続けられるかというところで女性は問題を感じていますが、男性は待遇や能力の評価というところで感じているようです。年齢別では、賃金に格差が 50 歳代と 70 歳以上で多く、昇進昇給に差別があるは 40 歳代、能力を正當に評価しないが 40 歳代、子どもが産まると勤めにくい 30 歳代で、補助的な仕事しかやらせてくれないは若い人ほど多い傾向があります。正社員で能力を正當に評価しない、臨時パートアルバイトで補助的な仕事しかさせないが多くなっています。

・男性も育児・介護休業を取ることができますが、このことについてどうおもいますか、という質問では、男性も育児・介護休業を積極的に取るべきである 13.5%(前回 11.3%)、男性も育児・介護休業を取るとは賛成だが、現実にはとりづらいつと思う 71.1%(前回 76.2%)、育児・介護は女性が摺るべきであり、男性が休暇をとる必要はない 6.2%(前回 6.2%)、その他 1.7%(前回 1.6%)、不明 7.4%(前回 4.8%)、となっています。前回よりも男性も育児・介護休業を積極的に取るべきであるが 3.3%増えています。年齢と職業に有意な関連が見られます。職業の方が規定力は大きいです。学生・教職員・家事専業で男性も育児・介護休業を積極的に取るべきであるが多く、契約社員・公務員・正社員・臨時パート・アルバイトで男性も育児・介護休業を取るとは賛成だが、現実にはとりづらいつと思うが多くなっています。現実には育児休業や介護休業をとれるかどうか回答に影響を及ぼしているようにおもわれます。年齢別では 30・40・50 歳代で男性も育児・介護休業を取るとは賛成だが、現実にはとりづらいつと思うが多くなっています。育児・介護は女性が摺るべきであり、男性が休暇をとる必要はないが 60 歳代・70 歳以上で多くなっていますが、70 歳以上でも 13.9%くらいです。

・男性が育児休暇を取るとは賛成だが、育児・介護休業をとりにくい理由について、男性が取ることに、社会全体の認識が十分でない 41.9%(前回 43.9%)、取ると仕事上の人に迷惑がかかる 40.7%(前回 37.2%)、職場に取りやすい雰囲気がない 32.6%(前回 36.3%)、取ると経済的に困る 23.0%(前回 17.3%)、仕事が忙しい 20.1%(前回 21.2%)、過去に取った男性がいない 13.6%(前回 9.1%)、取ると人事評価や昇給などに悪い影響がある 9.8%(前回 10.4%)、その他 1.6%(前回 1.0%)、不明 1.9%(前回 1.3%)となっています。男性が取ることに、社会全体の認識が十分でない、取ると仕事上の人に迷惑がかかるが依然として多く、前回とあまり変化がありません。

・男性が取ることに、社会全体の認識が十分でないが女性 44.3%・男性 40.7%、職場に取りやすい雰囲気がないが女性 35.8%・男性 30.3 と、女性のほうが多くなっています。仕事が忙しいが女性 18.3%・男性 23.2%、過去に取った男性がいないが女性 11.3%・男性 17.1%と男性で多くなっています。職場に取りやすい雰囲気がないが若い人で多く、仕事が忙しいは 40 歳代・50 歳代で多くなっています。男性が取ることに、社会全体の認識が十分でないはずすべての年齢で多く、男性が育児休業や介護休業をとれない基本的な理由と考えられていることがわかります。過去に取った男性がいないは契約社員で 31.0%、正社員で 31.0%と多く、仕事が忙しいは教職員 60.0%・公務員で 33.3%・自営業 25.0%で多い。職場に取りやすいは公務員で 35.7%、取ると他の人に迷惑がかかるは臨時・パート・アルバイトで 47.5%・公務員 45.2%で多くなっています。

・女性が仕事を続けるため必要な支援では、女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること 66.7%、育児や介護のための施設を充実すること 57.3%、育児や介護の休業利用者が不利な扱いを受けず、身分保障がされていること 48.9%、パートタイマーや派遣労働者の労働条件をよくすること 37.2%、在宅勤務やフレックス制をもうけること 22.2%、給与などで男女間格差をなくすこと 17.4%、これから起業しようとする人への支援を充実すること 4.1%、その他 1.8%、特に条件整備は必要ない 2.1%、不明 4.6%となっています。前回の調査項目とは項目がかなり異なり比較ができません。性別で大きな違いはありませんが、パートタイマーや派遣労働者の労働条件をよくすることが女性 43.0%・男性 34.0%と女性が多くなっています。女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があることが年齢が高いほど多く、30 歳代で育児や介護のための施設を充実することが 68.2%と多くなっています。給与などで男女間格差をなくすことや、パートタイマーや派遣労働者の労働条件をよくすることは若い人ほど多い傾向があります。パートタイマーや派遣労働者の労働条件をよくすることが臨時・パート・アルバイトで 62.8%・契約社員で 47.1%、在宅勤務やフレックス制をもうけることが公務員で 36.7%・契約社員で 35.3%と多くなっています。

## 5、地域活動について

・自治会などの地域の集まりや作業の中で、女性も男性とともに参加することができにくい雰囲気や状況はあると思います

かという質問について、できにくい雰囲気や状況があると思う 27.6%(前回 28.1%)、そういうことはないと思う 52.0%(前回 52.9%)、分からない 17.2%(前回 15.6%)、不明 3.3%(前回 3.4%)となっています。前回調査とほとんど変わっていません。年齢別と職業別で有意な関連があります。年齢が高いほどそういうことはないと思うが多くなっています。また、参加することができにくい雰囲気があるが40・50歳代で多くなっています。職業別ではそういうことはないが、無職・自営業で多く、参加できにくい雰囲気があるが公務員・臨時・パート・アルバイトで多くなっています。

・女性も男性とともに参加することができにくい雰囲気や状況があるとした 288 人について、活動しにくい状況の内容について、お茶だしや皿洗いなどは女性だけがする暗黙の役割分担がある 38.5%(前回 42.7%)、決定事項については、従来、男性が取り仕切っている 38.2%(前回 42.7%)、地域活動で女性が発言することはでしゃばりと思われがちである 37.2%(前回 36.3%)、主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれる 32.6%(前回 33.5%)、役員は男性のみで、女性の意見が受け入れられない 18.1%(前回 21.0%)、参加する女性側の努力がまだ足りない 13.9%(前回は項目なし)、地域活動に参加出来るような家族の理解や協力が無い 3.8%(前回 5.2%)、その他 2.8%(前回 1.4%)、不明 2.4%(前回 1.9%)となっています。お茶だしや皿洗いなどは女性だけがする暗黙の役割分担があるや、決定事項については、従来、男性が取り仕切っているはやや減っています。お茶だしや皿洗いなどは女性だけがする暗黙の役割分担があるや、地域活動で女性が発言することはでしゃばりと思われがちであるは女性で多く、主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれるや、参加する女性側の努力がまだ足りないは男性で多くなっています。主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれるや、お茶だしや皿洗いなどは女性だけがする暗黙の役割分担があるは若い人で多く、決定事項については、従来、男性が取り仕切っているは年配の人で多くなっています。地域活動で女性が発言することはでしゃばりと思われがちであるは臨時・パート・アルバイトと家事専業で多くなっています。

## 6、教育

・女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方が良いという質問について、賛成 73.3%、どちらかといえば賛成 16.9%、どちらかといえば反対 1.0%、反対 0.3%、分からない 1.9%、不明 6.7%となっています。反対・どちらかといえば反対はごくわずかです。年齢と職業で有意な関連があります。職業の方が規定力は大きいです。学生・教職員・契約社員で賛成が多く、無職・専業主婦でどちらかといえば賛成が多くなっています。年齢では20歳代と70歳以上で賛成が多く、30歳代でどちらかといえば賛成が多くなっています。

・男の子にもすいじ・掃除・洗濯など、家庭に必要な技術を身につけさせる方が良いについて、賛成 61.1%、どちらかといえば賛成 26.5%、どちらかといえば反対 1.8%、反対 0.8%、分からない 1.4%、不明 8.4%となっています。反対・どちらかといえば反対はごくわずかです。性別・年齢別・職業別で有意な関連があります。年齢・性別が規定力が大きく、職業の規定力はやや小さいです。年齢が高いほど賛成が少なく、どちらかといえば賛成が多くなっています。かなりはっきりとした結果が出ています。女性に賛成が多く、男性で少ない、どちらかといえば賛成が男性で多く女性で少ない。職業別では教職員・学生・臨時パート・アルバイト・契約社員で賛成が多く、無職・正社員でどちらかといえば賛成が多くなっています。世代や性別で見解が分かれる問題であるといえます。

・女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる方が良いについて、賛成 29.3%、どちらかといえば賛成 33.9%、どちらかといえば反対 10.6%、反対 7.9%、分からない 8.5%、不明 9.7%となっています。賛成・どちらかといえば賛成が6割、不明を除くと7割近くになります。性別・年齢別・職業別で有意な関連があり、年齢・性別・職業別の順に規定力が大きくなっています。年齢が高いほど賛成が多く、年齢が若いほど反対が多くなっています。男性で賛成が多く、女性でどちらかといえば反対・反対が多くなっています。無職・その他・自営業・正社員で賛成が多く、教職員・学生・公務員で反対が多くなっています。

・男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方が良いについて、賛成 1.9%、どちらかといえば賛成 4.1%、どちらかといえば反対 13.2%、反対 45.3%、分からない 23.8%、不明 11.6%となっています。賛成・どちらかといえば賛成は多くありません。年齢と職業別で有意な関連があります。年齢が職業別より規定力が大きくなっています。年齢が若いほど反対が多く、教職員・臨時パート・アルバイトで反対が多くなっています。

・男の子の学歴はどこまで必要かという質問では、高等学校 18.5%(不明を除く 19.1%・前回 20.7%)、専門学校 12.2%(不明を除く 12.6%・前回 14.3%)、短大・高専 6.5%(不明を除く 6.7%・前回 5.2%)、大学以上 50.0%(不明を除く 51.6%・前回 50.4%)、その他 9.6%(不明を除く 9.9%・前回 9.3%)、不明 3.3%となっています。約半数が大学以上と答えています。前回とあまり変わっていません。年齢と職業で有意な関連があります。年齢が大きな規定力を持ちます。年齢が高いほど大学以上が多く、若いほど高等学校までが多くなっています。無職・学生・その他で大学以上、公務員・正社員で高等学校が多くなっています。

・女の子の学歴はどこまで必要かという質問では、高等学校 21.3%(不明を除く 22.1%・前回 26.2%)、専門学校 16.9%(不明を除く 17.5%・前回 17.4%)、短大・高専 20.3%(不明を除く 21.1%・前回 20.1%)、大学以上 28.1%(不明を除く 29.2%・前回

26.4%)、その他 9.6%(不明を除く 10.0%・前回 9.9%)、不明 3.8%となっています。約半数が大学以上と答えています。男の子と比べ大学以上が 28.1%(男の子 50.0%)と少なく、短大高専が 20.3%(男の子 6.5%)、高等学校が 21.3%(男の子 18.5%)と多くなっています。前回と比べ大学以上が増え高等学校が少なくなっています。年齢別と職業別で有意な関連があります。年齢が大きな規定力を持ちます。若い人ほど高等学校が多くなっています。学生・教職員・公務員・契約社員で大学以上が多くなっています。

・子どもの学歴について、男の子の方が大学以上が多く、女の子の場合と差があります。しかし、これは縮小する傾向にあります。若い人ほど男の子も女の子も高等学校までで良いとする傾向があります。これが性差別の縮小なのか、学歴離れなのかこれ以上はまだわかりません。

## 7、女性の人権

・女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために、どのようなことが必要ですかという質問について、思春期、妊娠・出産、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進 56.0%(前回 53.1%)、受診機会の少ない女性が健康診断を受診できるような環境作り 47.0%(前回 38.5%)、心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の充実 41.3%(前回 48.2%)、学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施 33.5%(前回 32.3%)、女性が性生活について、主体的・総合的に判断できる力をつける 29.1%(前回 28.0%)、妊娠・出産・否認・中絶に関する情報提供 16.7%(前回 10.1%)、不妊に関する悩みに専門的に対応する相談機関の充実 12.4%(前回 9.4%)、その他 2.0%(前回 2.3%)、特になし 4.4%(前回 3.1%)、わからない 5.8%(前回 5.1%)、不明 3.2%(前回 6.4%)となっています。第 1 位の思春期、妊娠・出産、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進は少し減ったものの順位は変わらず、受診機会の少ない女性が健康診断を受診できるような環境作りが前回よりも増えて第 2 位に、前回 2 位だった心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の充実が少し減って今回は第 3 位になっています。健康診断の充実を希望する人が増えているようです。

・性別で大きな違いはありませんが、学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施が女性 37.1%に対して男性 31.3%と女性の方が人権教育の必要性を感じています。1 位の思春期、妊娠・出産、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進は 20 歳代で 47.4%と少なく・60 歳代で 66.3%と多くなっています。前回より増えて今回 2 位の受診機会の少ない女性が健康診断を受診できるような環境作りは、20・30・40 歳代で多く、とくに 30 歳代では 62.7%となっています。3 位の心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の充実はとくに年齢による違いはありません。学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施は 70 歳以上で 42.4%と多く、20 歳代では 20.5%と少なくなっています。妊娠・出産・否認・中絶に関する情報提供と不妊に関する悩みに専門的に対応する相談機関の充実は 20・30・40 歳代で多くなっています。思春期、妊娠・出産、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進は無職・家事専業で多く、受診機会の少ない女性が健康診断を受診できるような環境作りは臨時・パート・アルバイト 59.2%と多くなっています。学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施は家事専業で 40.5%と多くなっています。

## 8、ドメスティック・バイオレンスについて

・たたく、突き飛ばすについて、何度もあった 4.2%、1,2 度あった 11.5%、ない 77.8%、不明 6.5%となっています。前回の調査では選択肢が今回と異なっています。されたことがあるとなっていますが、これが 9.7%となっており、何度もあった・1,2 度あったあわせると今回が 15.7%ですから少し増えています。女性だけでは何度もあった、1,2 度あったあわせて今回が 20.3%、前回されたことがあるが女性だけで 15.2%で、かなり増えています。性別と職業別で有意な関連があります。年齢別ではありません。性別の規定力が大きくなっています。何度もあったが女性で 6.9%、男性で 1.6%、1,2 度あったが女性 13.4%、男性 11.0%となっています。臨時・パート・アルバイトで何度もあった・1,2 度あったが多くなっています。今後の分析では何度もあったが多い女性だけについて要因別分析を行います。

・女性だけについて、年齢別・配偶関係別・職業別に見たものです。配偶関係・職業・年齢の順で関連があります。配偶関係では離別・死別で何度もあったがかなり多く、1,2 度あったも多くなっています。離婚の背景に DV が関係していることがわかります。未婚者でも何度もあるが 5.3%あります。結婚前の恋愛関係などにおける DV、いわゆるデート DV が少なくないことを示しています。職業別では正社員・正規職員で何度もあったがかなり多くでています。臨時・パート・アルバイトと自営業でも何度もあったが対象者全体を大きく上回る 7%台となっています。これは女性の就労をめぐる問題や家事育児分担などが背景にあると考えられます。

・殴る、蹴るについて、何度もあった 4.3%、1,2 度あった 6.8%、ない 82.1%、不明 6.8%となっています。前回の調査ではされたことが 5.8%となっており、かなり増えています。女性だけでは何度もあった、1,2 度あったあわせて 15.3%、前回のされたことがある 8.8%よりかなり増えています。何度もあったが女性で 7.1%、男性で 1.6%、1,2 度あったが女性 8.2%、男性 6.3%となっています。年齢・職業・配偶関係の順で関連が大きくなっています。何度もあったが 60 歳代と 70 歳以上でやや多くなっています。

職業別では正社員・正規職員で何度もあったが多くなっています。離死別で12.5%と多く、未婚者でも5.3%かなりあります。

・身体を傷つける可能性のある物で殴るは、何度もあった1.1%、1,2度あった1.8%、ない89.3%、不明7.9%となっています。前回の調査ではされたことが1.2%となっており、かなり増えています。女性だけでは何度もあった、1,2度あったあわせて3.1%、前回のされたことがある1.2%よりかなり増えています。女性だけについて年齢別・配偶関係別・職業別に見ています。年齢と職業で関連があり配偶関係では有意な関連がありません。何度もあったが70歳以上と20歳代で多く1,2度あったも30歳代・20歳代・40歳代で多くなっています。職業別では何度もあったが、その他と自営業で多く、1,2度あったが正社員・正規職員と臨時・パート・アルバイトで多くなっています。

・「殺す」「けがをさせる」などと言っておどすは、何度もあった2.6%、1,2度あった2.7%、ない86.6%、不明8.1%となっています。前回の調査ではされたことが1.8%となっており、増えています。女性だけでは何度もあった、1,2度あったあわせて5.7%、前回のされたことがある3.0%よりかなり増えています。年齢・職業・配偶関係の順で有意な関連が大きくなっています。女性だけでは、何度もあった、1,2度あったとも20歳代で多く、若い人ほど多い傾向があります。職業別では契約社員で何度もあったが12.5%、正社員・正規職員で8.5%と多くなっています。1,2度あったが臨時・パート・アルバイトと正社員・正規職員で多くなっています。離死別で7.6%と多く、1,2度あったが未婚者で6.6%と多くなっています。

・なぐるふりをしておどすは、何度もあった3.9%、1,2度あった5.8%、ない82.1%、不明8.1%となっています。前回の調査ではされたことが3.8%となっており、増えています。女性だけでは何度もあった、1,2度あったあわせて10.7%、前回のされたことがある6.1%よりかなり増えています。女性だけで見てみると、年齢・職業・配偶関係の順で有意な関連があります。何度もあったと1,2度あったとも若い人多い傾向があります。何度もあったが正社員・正規職員12.2%、その他で11.4%あります。離死別で何度もあった10.0%・1,2度あった7.5%と多く、未婚でも何度もあったが3.9%あります。

・刃物などをつきつけておどすは、何度もあった0.9%、1,2度あった1.1%、ない89.9%、不明8.1%となっています。前回の調査ではされたことが0.7%となっており、増えています。女性だけでは何度もあった、1,2度あったあわせて2.1%、前回のされたことがある1.0%よりかなり増えています。配偶関係・職業・年齢の順で有意な関連がでています。離死別、その他、臨時・パート・アルバイト、正社員・正規職員、50歳代で何度もあったが多いです。

・家具や食器、日用品等を投げたりして、おどすは、何度もあった4.0%、1,2度あった7.1%、ない80.8%、不明8.1%となっています。前回の調査ではされたことが4.8%となっており、増えています。女性だけでは何度もあった、1,2度あったあわせて15.1%、前回の女性でのされたことがある8.1%よりかなり増えています。配偶関係・職業・年齢の順で有意な関連があります。離死別、契約社員、臨時・パート・アルバイト、30歳代で何度もあったが多くなっています。

・大声でどなって威嚇するは、何度もあった9.3%、1,2度あった17.6%、ない66.6%、不明7.1%となっています。前回の調査ではされたことが10.9%となっており、増えています。女性だけでは何度もあった、1,2度あったあわせて31.8%、前回の女性でのされたことがある17.4%よりかなり増えています。職業・年齢・配偶関係で有意な関連があります。臨時・パート・アルバイト、契約社員で何度もあるが多くなっています。年齢では20歳代と60歳代で何度もあるが多くなっています。離死別で何度もあるが17.3%と多く、未婚でも10.7%あります。

・何を言っても長時間無視し続けるは、何度もあった4.7%、1,2度あった10.9%、ない76.7%、不明7.7%となっています。前回の調査ではされたことが6.8%となっており、増えています。女性だけでは何度もあった、度1,2あったあわせて19.3%、前回の女性でされたことがある8.8%よりかなり増えています。女性だけでは、職業・配偶関係・年齢で有意な関連がでています。何度もあったが契約社員で12.5%、無職で11.8%、離死別で11.0%、50歳代で10.2%と多くなっています。

・「誰のおかげで生活できるんだ」などとののしるは、何度もあった2.9%、1,2度あった6.2%、ない83.6%、不明7.3%となっています。前回の調査ではされたことが5.5%となっており、増えています。女性だけでは何度もあった、1,2度あったあわせて11.8%、前回の女性でされたことがある7.9%よりかなり増えています。女性だけについてみると、年齢・配偶関係・職業で有意な関連がでています。何度もあったは20歳代で11.1%と若い人ほど多い傾向があります。未婚者で7.9%と多く、離死別で7.2%と多くなっています。契約社員で何度もあったが12.5%、正社員・正規職員で9.8%と多くなっています。

・大切にしている物をわざと捨てたり、壊したりするは、何度もあった1.4%、1,2度あった4.1%、ない86.6%、不明7.9%となっています。前回の調査ではされたことが2.4%となっており、増えています。女性だけでは何度もあった、1,2度あったあわせて7.9%、前回の女性でされたことがある3.3%よりかなり増えています。配偶関係・職業・年齢の順で有意な関連がでています。離死別で何度もあったが8.6%、未婚でも3.9%あります。20歳代で5.6%と多く、正社員・正規職員で4.9%と多くなっています。

・社会的な活動や就職などを許さないは、何度もあった1.3%、1,2度あった2.3%、ない88.3%、不明8.1%となっています。前回の調査ではされたことがある1.5%となっており、増えています。女性だけでは何度もあった、1,2度あったあわせて4.0%、前回の女性でされたことがある2.5%よりかなり増えています。配偶関係、職業、年齢の順で有意な関連があります。離死別で何度もあったが7.4%、1,2度あったが11.1%と多く、正社員・正規職員で何度もあったが7.3%と多くなっています。年齢では40歳代で何度もあったが多くなっています。

・交友関係や電話、郵便物やメール等を細かく監視するは、何度もあった 2.5%、1,2 度あった 3.9%、ない 85.9%、不明 7.7% となっています。前回の調査ではされたことがある 2.9%となっており、増えています。女性だけでは何度もあった、1,2 度あったあわせて 10.1%、前回の女性でのされたことがある 4.1%よりかなり増えています。配偶関係・年齢・職業の順で有意な関連があります。何どもあったが、離死別で 13.6%と多く、未婚でも 6.6%あります。結婚しているでは 2.1%と少なくなっています。年齢では、若い人ほど何どもある、1,2 度あるが多い傾向があります。正社員・正規職員で何どもあるが多くなっています。

・生活費を渡さない、食事をさせないは、何どもあった 1.2%、1,2 度あった 1.2%、ない 89.8%、不明 7.9%となっています。前回の調査ではされたことがある 0.9%となっており、増えています。女性だけでは何どもあった、1,2 度あったあわせて 2.6%、前回の女性でされたことがある 1.5%よりかなり増えています。配偶関係・職業・年齢の順で有意な関連があります。離死別で何どもあるが 7.4%、1,2 度あるが 3.7%と多く、40 歳代で何どもあるが 5.2%、1・2 度あるが 3.1%と多くなっています。正社員・正規職員で 4.9%と多くなっています。

・みたくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌をみせるは、何どもあった 0.2%、1,2 度あった 1.0%、ない 91.0%、不明 7.9%となっています。実数にして 12 人ほどで少数です。前回の調査ではされたことがある 0.6%となっており、増えています。女性だけでは何どもあった、1,2 度あったあわせて 1.7%、前回の女性でのされたことがある 1.0%より増えています。実数が少ないので年齢別等の分析は割愛します。

・いやがるのに、性的な行為を強要するは、何どもあった 2.5%、1,2 度あった 6.0%、ない 84.0%、不明 7.5%となっています。前回の調査ではされたことがある 3.1%となっており、増えています。女性だけでは何どもあった、1,2 度あったあわせて 9.2%、前回の女性でのされたことがある 5.1%より増えています。年齢では 40 歳代、未婚と離死別、正社員・正規職員で何どもあるが多くなっています。

・避妊に協力しないは、何どもあった 2.1%、1,2 度あった 2.4%、ない 87.2%、不明 8.3%となっています。前回の調査ではされたことがある 1.1%となっており、増えています。女性だけでは何どもあった、1,2 度あったあわせて 4.9%、前回の女性での、されたことがある 1.8%より増えています。若い人で多い傾向があります。離死別と未婚で何どもあるが多く、正社員・正規職員・公務員で何どもあるが多くなっています。

・中絶を強要するは、何どもあった 0.6%、1,2 度あった 1.4%、ない 89.5%、不明 8.4%となっています。前回の調査ではされたことがある 0.6%となっており、増えています。女性だけでは何どもあった、1,2 度あったあわせて 2.1%、前回の女性での、されたことがある 1.0%より増えています。該当者が実数にして 21 人程度のため年齢別の分析は割愛します。

・対象者のうち 460 人・44.1%の人がこれらの項目のどれかに一度でもあったと答えています。一度でもあったもので多いのが、大声でどなって威嚇する 26.9%、たたく、突き飛ばす 15.7%、何を言っても長時間無視し続ける 15.6%、殴る、蹴る 11.1%、家具や食器、日用品等を投げたりして、おどす 11.1%、なぐるふりをしておどす 9.7%、「誰のおかげで生活できるんだ」などとののしる 9.1%、大切にしている物をわざと捨てたり、壊したりする 9.1%、いやがるのに、性的な行為を強要する 8.5%などの順となっています。大声で怒鳴る、たたく・突き飛ばす、無視するといった行為は、日常的につい腹を立てて行うこともあるかもしれません。一度でも当人の受け止め方が重要ですが、しかし、何どもあるとなればこれはもはやドメスティック・バイオレンス(DV)といわざるを得ません。

・これらの項目のどれか一つでも何どもあると答えた人は 171 人 16.4%になります。6 人に一人の割合です。大声でどなって威嚇する 9.3%、何を言っても長時間無視し続ける 4.7%、殴る、蹴る 4.3%、たたく、突き飛ばす 4.2%、なぐるふりをしておどす 3.9%、「誰のおかげで生活できるんだ」などとののしる 2.9%、いやがるのに、性的な行為を強要する 2.5%などの順となっています。

・身体への攻撃、威嚇・おどし、精神的経済的に追い詰める、性に関することに分類して、一度でもあったものを見たのものです。威嚇・おどしが 30.0%、精神的経済的に追い詰める 25.9%、身体への攻撃 20.3%、性に関すること 11.0%となっています。

・女性だけでは、威嚇・おどしが 33.4%、精神的経済的に追い詰める 29.6%、身体への攻撃 24.2%、性に関すること 16.5%となっています。

・何どもあると答えた人では、威嚇・おどし 10.6%、精神的経済的に追い詰める 8.6%、身体への攻撃 5.7%、性に関すること 3.8%となっています。

・女性だけでは、威嚇・おどし 14.1%、精神的経済的に追い詰める 13.2%、身体への攻撃 8.3%、性に関すること 6.3%となっています。女性の約 6 人に一人が威嚇や脅しを何ども受けたと答えています。

・何どもあると答えた項目のある人について、女性だけで、年齢別・配偶関係別・職業別に見たものです。20 歳代で威嚇・おどし 22.2%、精神的経済的に追い詰める 20.4%、性に関すること 13.0%と若い人で割合が高くなっています。配偶関係では離死別で精神的経済的に追い詰める 27.2%、威嚇・脅し 18.5%、身体への攻撃 14.1%、性に関すること 10.9%と高い割合です。また、未婚者でも威嚇・おどし、精神的経済的に追い詰め、性に関すること 1 割くらいが何どもあると答えています。DV が離婚に大き

く関わっていること、またデートDVが今日放置できないものになっていることがわかります。若い人で多いことは放置すると問題が拡大すること、学校等での積極的取組が必要であることを意味しています。職業別では、正社員・正規職員でいずれも割合が高いことがわかります。家事・育児の分担などをめぐって問題が起きていることが推測できます。

・DVに関する項目のどれか一つでも該当する人 460 人について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたかときいています。相談した 16.7%、相談しなかった 66.7%、不明 16.5%となっています。

・DVに関する項目のうちどれか一つにでも何度でもあるとした人 171 人については、相談した 26.3%、相談しなかった 66.1%、不明 7.6%となっています。DVに該当する程度の被害を受けた人でも 4 人に一人くらいしか相談していないことがわかります。

・相談しなかった理由について、相談するほどのことではないと思った 55.7%(前回 59.5%)、自分にも悪いところがあると思った 45.3%(前回 33.0%)、自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思った 28.0%(前回 23.8%)、相談しても無駄だと思った 26.7%(前回 27.6%)、恥ずかしくて誰にもいえなかった 19.5%(前回 12.4%)、他人を巻き込みたくなかった 16.6%(前回 10.8%)、世間体が悪い 8.1%(前回 7.0%)、そのことについて思い出したくなかった 7.2%(前回 7.0%)、どこ(だれ)に相談して良いのかわからなかった 6.8%(前回 3.8%)、相談したことが分かる、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った 4.9%(前回 3.8%)、相談窓口などの担当者の言動により不快な思いをすと思った 1.3%(前回 1.1%)、その他 4.9%(前回 3.8%)などとなっています。相談するほどのことではないと思ったは前回と変わりませんが、自分にも悪いところがあると思った、自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思った、恥ずかしくて誰にもいえなかったなどは増えています。

何度もあると答えた人では、相談するほどのことではないと思ったは 39.8%と少ないですが、自分にも悪いところがあると思った 40.7%、自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思った 42.5%、相談しても無駄だと思った 37.2%、恥ずかしくて誰にもいえなかった 28.3%などが多くなっています。DV のことについてもっと認識を深めることが必要ではないでしょうか。問題が潜在化する危険性を感じます。

## 9、セクシュアル・ハラスメントについて

・性的な話や冗談を言う 16.8%(前回 7.5%)、「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」という 16.5%(前回 10.9%)、容姿や年齢について話題にしたりする 16.1%(前回 4.9%)、さわる、抱きつく 10.2%(前回 12.9%)、結婚や出産など、プライベートなことについてしつこく言う 9.9%(前回 10.9%)、宴会などでお酒やデュエット、ダンスを強要する 9.0%(前回 12.9%)、性的なうわさを流す 4.6%(前回 1.8%)、地位や権限を利用して、性的関係を強要する 2.2%(前回 1.8%)、性的な内容の手紙やメール、電話をしたりする 1.7%(前回 1.6%)などとなっています。前回と比べ質問が少し簡単になっていますが、内容はあまり変わってはいません。性的な話や冗談を言う、「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」という、容姿や年齢について話題にしたりする、性的なうわさを流す、地位や権限を利用して、性的関係を強要するなどは前回よりも増えています。全体的にセクシュアル・ハラスメントは減ったとはいえない状況にあるようです。

・性別を見ると、女性で「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」という、性的な話や冗談を言う、容姿や年齢について話題にしたりするが 5 人に一人以上経験していることがわかります。さわる、抱きつくもそれに近く、宴会などでお酒やデュエット、ダンスを強要する、プライベートなことについてしつこく言うもかなりの割合です。性的関係の強制も 3.8%あり、問題はかなり深刻です。

・女性について、年齢別・配偶関係別・職業別に見たものです。40 歳代で、「女のくせに」「女だから」という、性的な話や冗談を言うが 4 割、容姿や年齢について話題にしたりする、宴会などでお酒やデュエット、ダンスを強要するが 3 割を超えています。宴会などでお酒やデュエット、ダンスを強要する 6.1%と最も多くなっています。20 歳代で性的な話や冗談を言うが 4 割を超えています。性的関係の強制も 5.6%とかなり多いです。配偶関係では、未婚者で性的な話や冗談を言うが 4 割を超えて、さわる、抱きつくも 3 割を超えています。性的関係の強制も 7.3%と高率です。離死別では「女のくせに」「女だから」という、性的な話や冗談を言うが 3 割を超えています。性的関係の強制も 8.7%と最も多く、問題は深刻です。職業別では人数は少ないですが、契約社員でさわる、抱きつく、「女のくせに」「女だから」という、性的な話や冗談を言うがきわめて多く、性的関係の強制も 2 割近くです。正社員でも性的な話や冗談を言う、容姿や年齢について話題にしたりするなどが多く、性的関係の強制も 8.2%と多くなっています。不況下で立場の弱い女性へのセクシュアルハラスメントが増加しているのではないのでしょうか。

・先の項目について一つでもあると答えた 319 人(約 3 割)について、誰に相談したかを聞いています。誰にも相談しなかった 46.7%(前回 54.8%)が約半数、前回よりは減っています。友人、知人、家族 30.4%(前回 28.6%)、上司・同僚 9.4%(前回 7.3%)、その他 5.3%(前回 9.7%)などとなっています。公的機関や職場の相談窓口はあまり機能しているとはいえない状態です。

・相談した結果、問題が解決された 8.2%(前回 6.5%)、良い方向に向かった 10.4%(前回 14.0%)、あまり変わらない 56.7%(前回 56.1%)、かえって悪くなったはなし(前回 1.0%)、その他 7.5%(前回 5.6%)、不明 17.2%(前回 16.8%)となっています。相談した人は女性が大半を占めていますが、問題が解決した人は女性 7.0%に対して男性 15.0%、あまり変わらないが女性 58.8%に対して男

性 45.0%と、男性で解決した人が多いようです。

・性犯罪、売買春(援助交際含む)、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為等、女性に対する暴力をなくすためにどうしたらよいですかという質問について(複数回答)、犯罪の取り締まりを強化する 55.8%、被害者のための相談所や保護施設を整備する 54.8%、法律・制度の制定や見直しを行う 50.1%、過激な内容の雑誌、ビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する 47.7%、捜査や裁判での担当者に女性を増やし、相談しやすくする 45.0%、学校における男女平等を推進する教育・学習を充実させる 37.6%、メディアが倫理規定を強化する 21.1%、その他 3.5%、不明 7.1%となっています。

・被害者のための相談所や保護施設を整備するが、女性で 58.1%・男性 50.9%、過激な内容の雑誌、ビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限するが女性 52.3%・男性 42.2%、捜査や裁判での担当者に女性を増やし、相談しやすくするが女性 50.3%・男性 38.8%と女性の方が多くなっています。法律・制度の制定や見直しを行うが女性 47.1%・男性 53.9%、被害者を支援し、暴力に反対する県民運動を盛り上げるが女性 19.3%・男性 19.3%と多くなっています。女性の方がより具体的な対応を望む人が多いようです。

・法律や制度の見直し、犯罪の取り締まりを強化する、被害者のための相談所や保護施設を整備する、捜査や裁判での担当者に女性を増やし、相談しやすくするは、若い人で多く、全般に若い人ほど厳しい傾向があります。犯罪の取り締まりを強化するは学生、教職員、公務員、無職で多く、被害者のための相談所や保護施設を整備するは、学生、教職員、家事専業で多くなっています。学校における男女平等を推進する教育・学習を充実させるは、公務員、学生、無職で多くなっています。

## 10、メディアでの表現

・メディアでの表現について、固定的な男女の役割分担の表現や女性に対する暴力・性の表現を望まない人や子どもの目に触れない配慮必要 46.7%(前回 51.8%)、子どもが性についてゆがんだ意識をもつおそれがある 46.7%(前回該当項目なし)、女性の身体や姿態を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ 45.6%(前回 26.5%)、社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう表現をしている 35.6%(前回 44.8%)、女性に対する犯罪を助長するおそれがある 29.2%(前回 21.2%)、女性や男性のイメージについて偏った表現をしている 17.0%(前回 11.0%)、その他 2.0%(前回 2.0%)、特に問題はない 5.5%(前回 10.2%)、わからない 10.1%(前回 11.1%)、不明 5.5%となっています。前回に比べ、社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう表現をしているは減っていますが、女性の身体や姿態を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つは増えています。全国調査ではメディアに問題があるとこたえた人に複数回答で聞いていますが、全体に対するパーセントを計算して比較しています。女性の身体や姿態を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ、女性に対する犯罪を助長するおそれがある、女性に対する暴力・性の表現を望まない人や子どもの目に触れない配慮必要などが全国よりも高い傾向があります。性別で大きな差はありませんが、女性に対する犯罪を助長するおそれがあるが女性 26.6%・男性 32.5%と男性で多く、固定的な男女の役割分担の表現や女性に対する暴力・性の表現を望まない人や子どもの目に触れない配慮必要にが女性 49.4%・男性 43.8%、子どもが性についてゆがんだ意識をもつおそれがあるが女性 49.2%・男性 44.0%と女性で多いようです。

・女性の身体や姿態を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ、社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう表現をしているは、年配の人ほど多く、女性や男性のイメージについて偏った表現をしているは若い人ほど多くなっています。女性の身体や姿態を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つは、教職員、無職、自営業で多く、女性や男性のイメージについて偏った表現をしているは、教職員、公務員、無職で多くなっています。固定的な男女の役割分担の表現や女性に対する暴力・性の表現を望まない人や子どもの目に触れない配慮必要は契約社員、臨時・パート・アルバイト、などで多くなっています。

## 11、女性の参画や施策への要望について

・女性の社会的進出が進んでいるにもかかわらず、議員や審議会委員、町内会の長などにまだ女性が少ない理由を一つだけ聞いたものです。前回の調査では 3 つまでの複数選択となっています。前回と比較するために前回の%の合計 243.4 をもとに各前回分の選択肢の%を 2.434 で割ったものを修正値として比較します。厳密な比較ではありませんが、傾向はわかると思います。男性優位の社会の仕組みや制度があるが 22.8%(前回修正値 17.6%)と最も多く、男性になる方が良い(なるものだ)と思っている人が多い 13.0%(前回修正値 13.4%)、女性自身が役職に対する関心やチャレンジ精神がない 11.0%(前回修正値 13.0%)、女性の能力発揮のチャンスが男性と同じように与えられていない 8.2%女性の登用に対する認識や理解が足りない 8.1%(前回修正値 10.1%)、「女はでしゃばるものではない」という社会通念がある 7.4%(前回修正値 10.3%)、女性是指導力が低いというような女性の能力に対する偏見がある 6.8%(前回修正値 8.6%)、地域の会長や政策決定の場に出られるような女性の

人材がいない 6.3%(前回修正値 8.3%)、家族の理解・協力がいない 3.3%(前回修正値 7.9%)、その他 2.5%(前回修正値 0.5%)、不明 10.5%となっています。男性優位の社会の仕組みや制度・社会通念に原因を求める人が多いようです。前回と比べ男性優位の社会の仕組みや制度に原因を求める人が増えているようです。性別での違いはほとんどありません。「女はでしゃばるものではない」という社会通念があるが女性でやや多く、女性の登用に対する認識や理解が足りないが男性でやや多いようです。男性になる方が良い(なるものだ)と思っている人が多い・女性の能力発揮のチャンスが男性と同じように与えられていないが若い人ほど多く、女性自身が役職に対する関心やチャレンジ精神がないが年配の人ほど多いようです。

・男女共同参画社会について、内容まで知っている 25.0%(前回 44.6%)、聞いたことはあるが、内容は知らない 50.3%(前回 27.4%)、全く知らない 17.6%(前回 20.6%)、不明 7.0%(前回 7.4%)となっています。約半数の人は名前だけは知っています。内容まで知っている人は 4 人に一人くらいです。前回に比べ内容まで知っているが減って、聞いたことはあるが内容は知らないが増えています。全国調査では知っているかだけを聞いていますが、内容まで知っている・聞いたことがある合わせると 75.3%で全国よりも知っている人は多くなっています。よく知っているが女性で 23.8%・男性で 30.6%、聞いたことはあるが女性 54.7%・男性 53.6%で男性で知っている人が多いです。年齢別では 60 歳代でよく知っているが 32.6%・50 歳代で 28.9%、全く知らないが 20 歳代で 30.2%・30 歳代で 30.2%と若い人で知らない人が多いようです。職業別では教員・公務員・学生でよく知っているが多く、契約社員・正社員・正規職員でよく知っているが少なくなっています。臨時・パート・アルバイトで全く知らないが 27.4%、正社員・正規職員で 25.0%と多くなっています。

・ジェンダーについて、内容まで知っている 14.3%(前回 22.8%)、聞いたことはあるが、内容は知らない 24.8%(前回 20.4%)、全く知らない 51.6%(前回 47.5%)、不明 9.3%(前回 9.4%)となっています。前回よりも内容まで知っている、聞いたことはあるともに減っています。内容まで知っている・聞いたことがある合わせると 39.2%で全国の 31.9%よりも多くなっています。

性別でほとんど差はありません。20 歳代で 23.4%が内容まで知っていると答え、若い人ほどよく知っています。教員・公務員・学生で内容まで知っているが多く、臨時・パート・アルバイト、正社員・正規職員、契約社員で全く知らないが多くなっています。

・セクシュアル・ハラスメントについて、内容まで知っている 74.1%(前回 83.4%)、聞いたことはあるが、内容は知らない 14.6%(前回 4.0%)、全く知らない 3.5%(前回 4.4%)、不明 7.9%(前回 8.2%)となっています。前回よりも少なくなっていますが、4 人に三人は内容まで知っていると答えています。内容まで知っている・聞いたことがある合わせると 88.7%となっています。全国調査の項目はありません。内容まで知っているが 20 歳代で 93.5%・30 歳代で 90.4%と若い人で内容まで知っているが多くなっています。教職員、公務員、学生、正社員・正規職員で内容まで知っているが多くなっています。

・ドメスティック・バイオレンスについて、内容まで知っている 71.7%(前回 74.3%)、聞いたことはあるが、内容は知らない 15.3%(前回 9.2%)、全く知らない 5.3%(前回 7.8%)、不明 7.7%(前回 8.6%)となっています。前回よりも内容まで知っている、名前は知っているが少し減っていますが、内容まで知っている・聞いたことがある合わせると 87.0%となっています。全国調査の項目はありません。内容まで知っているが、女性 79.9%・男性 74.7%、聞いたことはあるが内容までは知らないが女性 14.7%・男性 19.1%と女性の方が知っているようです。若い人ほど内容まで知っているが多く、年配の人ほど聞いたことはあるが内容までは知らないが多くなっています。教職員、公務員、学生、正社員・正規職員で内容まで知っているが多くなっています。

・ポジティブアクションとは、社会的弱者とくに女性の職場環境の不利な状況を是正するための改善措置のことです。内容まで知っている 7.4%(前回項目なし)、聞いたことはあるが、内容は知らない 31.6%、全く知らない 52.5%、不明 8.4%となっています。半数の人は知らないと答えています。内容まで知っている・聞いたことがある合わせると 39.0%で全国の 19.0%よりも多くなっています。内容まで知っているが女性 6.0%・男性 10.5%で男性の方が少し多いです。30 歳代・40 歳代で 1 割くらいが内容まで知っていると答えています。20 歳代は 5.2%と少なく、全く知らないが 62.3%と多くなっています。教職員、公務員、学生、正社員・正規職員で内容まで知っているが多くなっています。

・エンパワーメントについて、内容まで知っている 9.5%(前回項目なし)、聞いたことはあるが、内容は知らない 26.9%、全く知らない 54.7%、不明 8.8%となっています。半数以上はまったく知らないと答えています。全国調査の項目はありません。内容まで知っているが女性 8.5%・男性 12.7%で男性の方が少し多いです。30 歳代・40 歳代で内容まで知っていると答えた人が多くなっています。教職員、公務員で内容まで知っているが多くなっています。

・ワーク・ライフ・バランスとは仕事と家庭のどちらも犠牲にすることなく調和の取れたライフスタイルを目指すことをいいます。ワーク・ライフ・バランスについて、内容まで知っている 17.2%(前回項目なし)、聞いたことはあるが、内容は知らない 35.5%、全く知らない 38.2%、不明 9.2%となっています。内容まで知っている・聞いたことがある合わせると 52.7%で全国の 37.0%よりも多くなっています。内容まで知っているが女性 16.9%・男性 21.4%で男性の方が少し多いです。若い人ほど内容まで知っていると答えた人が多くなっています。教職員、公務員、正社員・正規職員で内容まで知っているが多くなっています。

・育児・介護休業について、内容まで知っている 56.2%(前回項目なし)、聞いたことはあるが、内容は知らない 33.3%、全く知らない 2.5%、不明 8.1%となっています。内容まで知っている・聞いたことがある合わせると 89.5%でほとんどの人が知っていると答えています。内容まで知っているが女性で 63.1%・男性が 58.3%で女性の方がよく知っています。30 歳代・40 歳代で内容

まで知っていると答えた人が多くなっています。教職員、公務員で内容まで知っているが多くなっています。

・大分県消費生活・男女共同参画プラザ(愛称 アイネス)について、内容まで知っている 15.3%(前回 18.7%)、聞いたことはあるが、内容は知らない 42.2%(前回 29.1%)、全く知らない 35.0%(前回 43.9%)、不明 7.5%(前回 8.3%)となっています。前回よりも内容まで知っているは少し減ったものの、聞いたことはあるが内容までは知らないは多くなっています。内容まで知っているが女性で 18.0%・男性が 14.6%で女性の方がよく知っています。20 歳代で約半数、30 歳代で 45%、40 歳代で 4 割が全く知らないと答えています。若い人で知らない人が多いようです。

・男女共同参画社会の実現に向けて、県は今後どのような分野に力を入れていくべきだと思いますかという質問について、家庭生活と職業生活や地域活動とが両立できる環境づくりを進める 57.6%、男女共同参画意識を高める 38.5%、多様な働き方ができる場をつくる 31.9%、女性のチャレンジを支援する 26.9%、政策・方針決定過程への女性の参画を進める 25.8%、新しい取組における共同参画を推進 23.1%、男女間のあらゆる暴力をなくす 18.0%、生涯を通じた男女の性と健康を守る 11.5%、その他 1.3%、特になし 3.1%、わからない 5.9%、不明 6.2%となっています。男性で政策・方針決定過程への女性の参画を進める、男女共同参画意識を高めるが多くなっていますが、女性では多様な働き方ができる場をつくるが男性より多くなっています。若い人ほど男女間のあらゆる暴力をなくす、多様な働き方ができる場をつくるが多くなっています。家事専業で家庭生活と職業生活や地域活動とが両立できる環境づくりを進めるが多くなっています。

# アンケート調査票



**F8. あなたは現在どこにお住まいですか。**

1. 大分市	2. 別府市	3. 中津市	4. 日田市	5. 佐伯市	6. 臼杵市
7. 津久見市	8. 竹田市	9. 豊後高田市	10. 杵築市	11. 宇佐市	12. 豊後大野市
13. 由布市	14. 国東市	15. 姫島村	16. 日出町	17. 九重町	18. 玖珠町

**男女の意識について**

**問1 「男は仕事、女は家庭」などと性別によって役割を固定する考え方がありますが、あなたはその考え方をどう思いますか。あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選び、番号に○印をつけてください。**

- |         |          |              |          |
|---------|----------|--------------|----------|
| 1. 同感する | 2. 同感しない | 3. どちらともいえない | 4. わからない |
|---------|----------|--------------|----------|

**問2 あなたは、次の分野において男女の地位は平等になっていると思いますか。次の(a)～(g)のそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものをそれぞれ1つだけ選び、番号に○印をつけてください。**

項目	男性の方が非常に優遇されている	どちらが優遇されれば男性	平等である	どちらが優遇されれば女性	女性の方が非常に優遇されている	わからない
a. 家庭生活	1	2	3	4	5	6
b. 職場	1	2	3	4	5	6
c. 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
d. 政治の場	1	2	3	4	5	6
e. 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
f. 社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
g. 社会全体	1	2	3	4	5	6

問3 結婚している方(事実婚を含む)におうかがいします。(それ以外の方は問4にお進みください)

あなたの家庭では、次の役割分担を誰がしていますか。あなたの家庭にあてはまるものの番号を

【回答欄(1):現状】から、あなたが理想とお考えの番号を【回答欄(2):理想】から、それぞれ1つずつ選び、番号に○印をつけてください。

(注) (a)~(j)のうち、あてはまらない項目については記入する必要はありません。

項目	回答欄(1):現状						回答欄(2):理想					
	※1 主に夫	※2 主に妻	夫婦 共同で	※3 主に父	※4 主に母	その他	※1 主に夫	※2 主に妻	夫婦 共同で	※3 主に父	※4 主に母	その他
a. 家計の管理	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
b. 食料品などの買い物	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
c. 食事のしたく	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
d. 食事の片づけ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
e. 掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
f. 育児(乳幼児の世話)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
g. 子どもの教育としつけ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
h. PTAへの出席	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
i. 町内行事等への参加	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
j. 高齢者の世話・介護	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

※1・※2は、回答者ご自身のことを示します。

※3・※4は、回答者のご両親あるいは義理のご両親を示します。

問4 あなたは今後、男性が女性とともに家事、育児、介護、地域活動等への男性の参加を進めるために必要なことは何だと思えますか。あてはまる番号をすべて○印をつけてください。

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
4. 職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動についても理解し、支援すること
5. 労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多くもてるようにすること
6. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること
7. 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
8. 男性が育児や介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りを進めること
9. 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
10. その他(具体的に )
11. 特に必要なことはない

## 仕事について

問5 あなたと仕事の関係は次のどれですか。あてはまる番号を1つだけ選び、番号に○印をつけてください。

現在働いている方 ↓ (副問1へ)	1. 卒業して以来、継続して働いている。 2. 卒業してから働いていたが、結婚・育児(出産)のため一時やめ、また働いている 3. 卒業してから働いていたが、その他の事情で一時やめ、また働いている 4. 卒業してから働いていなかったが、その後働いている
現在働いていない方 ↓ (副問2へ)	5. 卒業してから働いていたが、結婚・育児(出産)のため仕事をやめた 6. 卒業してから働いていたが、その他の事情で仕事をやめた 7. これまで働いたことはない 8. 定年退職により現在働いていない 9. 現在、学生である 10. その他

(副問1) 現在働いている方におうかがいします。(現在働いていない方は次の(副問2)にお進みください)  
今のあなたの仕事がやりがいがありますか。あてはまるものを1つだけ選び、番号に○印をつけてください。

1. やりがいがある      2. やりがいはない      3. どちらともいえない

(副問2) 現在働いていない方におうかがいします。

あなたは、今後のご自身の仕事についてどうお考えですか。あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選び、番号に○印をつけてください。

1. すぐ働きたい    2. 将来働きたい    3. 働くつもりはない    4. わからない

問6 女性が職業をもつことについて、あなたはどのように思いますか。あなたのお考えに最も近いものを1つ番号に○印をつけてください。

1. 結婚や出産にかかわらず職業をもち続けた方がよい  
 2. 結婚するまでは職業をもつ方がよい  
 3. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい  
 4. 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい  
 5. 職業をもたない方がよい  
 6. その他(具体的に )  
 7. わからない

問7 あなたの今の職場では、女性は男性に比べ、仕事の内容や待遇面で差別されていると思いますか。別にそのようなことはないと思いますか。あてはまるものを1つだけ選び、番号に○印をつけてください。

1. 差別されていると思う → 副問1へ  
 2. そのようなことはないと思う } 問8へ  
 3. わからない }

(副問1) 問7で「1. 差別されていると思う」を選んだ方におうかがいします。

それは具体的にどのようなことですか。あてはまる番号を2つまで選び、番号に○印をつけてください。

1. 賃金に格差がある
2. 昇進、昇格に差別がある
3. 能力を正當に評価しない
4. 補助的な仕事しかやらせてもらえない
5. 女性を幹部職員に登用しない
6. 結婚したり子どもが生まれたりすると勤めにくい雰囲気がある
7. 女性は定年まで勤めにくい雰囲気がある
8. 教育・訓練を受ける機会が少ない
9. その他(具体的に )

問8 男性も育児・介護休業を取ることができますが、このことについてあなたはどのように思いますか。

あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選び、番号に○印をつけてください。

1. 男性も育児・介護休業を積極的に取るべきである → 問9へ
2. 男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う → 副問1へ
3. 育児・介護は女性がするべきであり、男性が休暇を取る必要がない } 問9へ
4. その他(具体的に )

(副問1) 問8で「2. 男性も育児・介護休暇を取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」を選んだ方におうかがいします。

現実に取りづらい理由は何だと思えますか。あてはまる番号を2つまで選び、番号に○印をつけてください。

1. 過去に取った男性がいない。
2. 職場に取りやすい雰囲気がない
3. 仕事が忙しい
4. 取ると仕事上周りの人に迷惑がかかる
5. 取ると人事評価や昇給などに悪い影響がある
6. 取ると経済的に困る
7. 男性が取ることについて、社会全体の認識が十分でない
8. その他(具体的に )

**問9 あなたは女性が仕事を続けていくためには、どのような支援改善が必要だと思いますか。必要だと思うものを3つまで選んでください。**

1. 女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること
2. 育児や介護のための施設を充実すること
3. 育児や介護の休業利用者が不利な扱いを受けず、身分保障がされていること
4. 給与などで男女間格差をなくすこと
5. パートタイマーや派遣労働者の労働条件をよくすること
6. 在宅勤務やフレックス制(始業と終業時刻を労働者意思で決定できる勤務体制)をもうけること
7. これから起業(新しく事業を起こすこと)しようとする人への支援を充実すること
8. その他( )
9. 特に条件整備は必要ない

## 地域活動について

**問10 自治会などの地域の集まりや作業の中で、女性も男性と共に参加したり、男性と同じように発言することができにくい雰囲気や状況はあると思いますか。あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選び、番号に○印をつけてください。**

1. できにくい雰囲気や状況があると思う → 副問1へ
2. そういうことはないと思う } 問11へ
3. わからない

**(副問1) 問10で「1. できにくい雰囲気や状況があると思う」と答えた方におうかがいします。**

**それはどんな雰囲気や状況だと思いますか。あなたのお考えに近いものを2つまで選び、番号に○印をつけてください。**

1. 役員は男性のみで、女性の意見が受け入れられない
2. 決定事項については、従来、男性が取り仕切っているので女性が口をはさみにくい
3. 主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれる
4. お茶だしや皿洗いなどは女性だけがする暗黙の役割分担がある
5. 地域活動で女性が発言することはでしゃばりと思われがちである
6. 地域活動に参加できるような家族の理解や協力が無い
7. 参加する女性側の努力がまだ足りない
8. その他(具体的に )

## 教育

問11 あなたは、子どものしつけや教育について、どのような考え方をお持ちですか。次の(a)～(d)のそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選び、番号に○印をつけてください。

項目	賛成	どちらかと いえば賛	どちらかと いえば反	反対	わからない
(a) 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方がよい	1	2	3	4	5
(b) 男の子にも炊事・掃除・洗濯など、家庭に必要な技術を身につけさせる方がよい	1	2	3	4	5
(c) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる方がよい	1	2	3	4	5
(d) 男の子は理科系、女の子は文化系に進んだ方がよい	1	2	3	4	5

問12 あなたは子どもの学歴はどこまで必要だと思いますか。(a)、(b)のそれぞれについてあなたのお考えに最も近いものを1つずつ選び、番号に○印をつけてください。

項目	高等学校	専門学校	短大・高専	大学以上	その他
(a) 男の子ども	1	2	3	4	5( )
(b) 女の子ども	1	2	3	4	5( )

## 女性の人権

問13 妊娠・出産を担う女性は、男性とは異なった体や心の問題に直面することがありますが、女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために、どのようなことが大事だと思いますか。あなたのお考えに最も近いものを3つまで選び、番号に○印をつけてください。

1. 女性が性生活について、主体的・総合的に判断できる力をつけること
2. 妊娠・出産・避妊・中絶に関する情報提供
3. 思春期、妊娠・出産、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進
4. 学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施
5. 受診機会の少ない女性が健康診断を受診できるような環境づくり
6. 心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の充実
7. 不妊に関する悩みに対応する相談機関の充実
8. その他(具体的に )
9. 特にない
10. わからない

ドメスティック・バイオレンス(夫婦・恋人間の暴力)について

問16 あなたはこれまでに、配偶者や恋人など親しい人間関係にある人との間で、次のようなことを受けたことがありますか。(a)～(r)のそれぞれについてあてはまるものすべての番号に○印をつけてください。

項目		あ何 つ度 たも	1、 2 度 あ つ た	な い
身 攻 撃 へ の	(a) たたく、突き飛ばす	1	2	3
	(b) 殴る、蹴る	1	2	3
	(c) 身体を傷つける可能性のある物で殴る	1	2	3
威 嚇 ・ お ど し	(d) 「殺す」「けがをさせる」などと言っておどす	1	2	3
	(e) なぐるふりをしておどす	1	2	3
	(f) 刃物などをつきつけて、おどす	1	2	3
	(g) 家具や食器、日用品等を投げたりして、おどす	1	2	3
精 神 的 ・ 経 済 的 に 追 詰 め る こ と	(h) 大声でどなって威嚇する	1	2	3
	(i) 何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3
	(j) 「誰のおかげで生活できるんだ」などとののしる	1	2	3
	(k) 大切にしている物をわざと捨てたり、壊したりする	1	2	3
	(l) 社会的な活動や就職などを許さない	1	2	3
性 に 関 す る こ と	(m) 交友関係や電話、郵便物やメール等を細かく監視する	1	2	3
	(n) 生活費を渡さない、食事をさせない	1	2	3
	(o) みたくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌をみせる	1	2	3
	(p) いやがるのに、性的な行為を強要する	1	2	3
	(q) 避妊に協力しない	1	2	3
	(r) 中絶を強要する	1	2	3

ひとつでも該当すれば副問

1へ

副問2へ

※問16で1つでも「何度もあった」または「1、2度あった」と答えた方におうかがいします。

(副問1) あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

1. 相談した → 副問2へ

2. 相談しなかった → 副問4へ

(副問2) (副問1)で「1. 相談した」と答えた方にうかがいます。

あなたが相談した人(場所)を教えてください。あてはまるものすべての番号に○印をつけてください。

- |                     |                  |                       |
|---------------------|------------------|-----------------------|
| 1. 警察               | 2. 婦人相談所         | 3. その他公的機関(役所の相談窓口など) |
| 4. 人権擁護委員、民生委員、自治委員 | 5. 民間の機関(弁護士会など) |                       |
| 6. 医師               | 7. 家族・親せき        | 8. 友人・知人              |
| 9. その他(具体的に         |                  | )                     |

回答後  
副問3へ

(副問3) 問16の(副問2)で「2. 相談した」と答えた方におうかがいします。

相談した結果、状況はどうなりましたか。あてはまる番号を1つだけ選び、番号に○印をつけてください。

- |               |              |
|---------------|--------------|
| 1. 問題が解決された   | 2. 良い方向に向かった |
| 3. あまり変わらなかった | 4. かえって悪くなった |
| 5. その他(具体的に   | )            |

※(回答後、問17へお進みください)

(副問4) 問16の(副問1)で、「2. 相談しなかった」と答えた方におうかがいます。

あなたが、誰(どこにも)相談できなかったのはなぜですか。あてはまるものをすべての番号○印をつけてください。

- |  |   |
|--|---|
| 1. どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかった                |   |
| 2. 恥ずかしくてだれにもいえなかった                      |   |
| 3. 相談してもむだだと思った                          |   |
| 4. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った |   |
| 5. 相談窓口などの担当者の言動により不快な思いをすと思った           |   |
| 6. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った         |   |
| 7. 世間体が悪い                                |   |
| 8. 他人をまきこみたくなかった                         |   |
| 9. そのことについて思い出したくなかった                    |   |
| 10. 自分にも悪いところがあると思った                     |   |
| 11. 相談するほどのことではないと思った                    |   |
| 12. その他(具体的に                             | ) |

セクシュアル\*・ハラスメント等について

問17 あなたは、これまでに、次のような行為を、職場の上司・同僚、学校やサークルなどの指導者・関係者、近所や地域などで付き合いのある人にされたことがありますか。

次の(a)~(i)のそれぞれについて、あてはまるものをすべての番号に○印をつけてください。

項目	された ことが ある	ない
(a) 「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」と言う	1	2
(b) 結婚や出産など、プライベートなことについてしつこく言う	1	2
(c) 性的な話や冗談を言う	1	2
(d) 性的なうわさをながす	1	2
(e) 容姿や年齢について話題にしたりする	1	2
(f) 性的な内容の手紙やメール、電話をしたりする	1	2
(g) 宴会などでお酒やデュエット、ダンスを強要する	1	2
(h) さわる、抱きつく	1	2
(i) 地位や権限を利用して、性的関係を迫る	1	2

↓ ↓  
副問1へ 問18へ

(副問1) 問17で1つでも「されたことがある」と答えた方におうかがいします。

あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

あてはまるものすべての番号に○印をつけてください。

- |                           |             |                           |        |
|---------------------------|-------------|---------------------------|--------|
| 1. 上司・同僚                  | 2. 職場内の相談窓口 | 3. 公的機関(労働局雇用均等室、役所の相談窓口) | } 問18へ |
| 4. 民間の相談窓口                | 5. 友人、知人、家族 | 6. その他( )                 |        |
| 6. だれ(どこ)にも相談しなかった → 副問2へ |             |                           |        |

(副問2) 問17の(副問1)でだれ(どこ)かに相談したと答えた方におうかがいします。

相談した結果、状況はどうになりましたか。あてはまる番号を1つだけ選び、番号に○印をつけてください。

- |               |              |
|---------------|--------------|
| 1. 問題が解決された   | 2. 良い方向に向かった |
| 3. あまり変わらなかった | 4. かえって悪くなった |
| 5. その他(具体的に ) |              |

**問18 性犯罪、売買春(援助交際を含む)、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為等、女性に対する暴力をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。あてはまるものの番号をすべて選んで○印をつけてください。**

1. 法律・制度の制定や見直しを行う
2. 犯罪の取り締まりを強化する
3. 被害者のための相談所や保護施設を整備する
4. 捜査や裁判での担当者に女性を増やし、相談しやすくする
5. 学校における男女平等を推進する教育・学習を充実させる
6. 家庭における男女平等等を推進する教育・学習を充実させる
7. 被害者を支援し、暴力に反対する県民運動を盛り上げる
8. メディアが倫理規定を強化する
9. 過激な内容の雑誌、ビデオソフト、ゲームソフト等にお販売や貸出を制限する
10. その他(具体的に )

## メディアでの表現について

**問19 テレビ、新聞、雑誌、インターネット等などのメディアでの固定的な性別役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現について、あなたのお考えに近いものすべての番号に○印をつけてください。**

1. 女性の身体や姿態を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ
2. 社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう表現をしている
3. 女性に対する犯罪を助長するおそれがある
4. 子どもが性についてゆがんだ意識を持つおそれがある
5. 女性や男性のイメージについて偏った表現をしている
6. 固定的な男女の役割分担の表現や女性に対する暴力・性の表現をのぞまない人や子どもの目に触れないような配慮がたりない
7. その他( )
8. 特に問題はない
9. わからない

## 女性の参画や施策への要望などについて

問20 女性の社会進出が進んでいますが、議員や審議会委員、町内会の長などにはまだ女性が少ないのが現状です。このように女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選び、番号に○印をしてください。

- |                                  |   |
|----------------------------------|---|
| 1. 男性優位の社会の仕組みや制度がある             |   |
| 2. 女性は指導力が低いというような女性の能力に対する偏見がある |   |
| 3. 女性の能力発揮のチャンスが男性と同じように与えられていない |   |
| 4. 「女はでしゃばるものではない」という社会通念がある     |   |
| 5. 女性の登用に対する認識や理解がたりない           |   |
| 6. 地域の会長や政策決定の場に出られるような女性の人材がいない |   |
| 7. 男性になる方がよい(なるものだ)と思っている人が多い    |   |
| 8. 女性自身が役職に対する関心やチャレンジ精神がない      |   |
| 9. 家族の理解・協力が得にくい                 |   |
| 10. その他(具体的に                     | ) |

問21 あなたは次にあげることがらについて知っていますか。次の(a)～(h)のそれぞれについてあてはまる番号を1つずつ選び、番号に○印をつけてください。

項目	内容まで知っている	あ聞 知る いた ら が た な い 内 容 と は は	知ま ら つ た く い く
(a) 男女共同参画	1	2	3
(b) ジェンダー(社会的・文化的な性のありよう)	1	2	3
(c) セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)	1	2	3
(d) ドメスティック・バイオレンス(夫婦、恋人間の暴力)	1	2	3
(e) ポジティブアクション(積極的改善措置)	1	2	3
(f) エンパワーメント(力をつけ、発揮すること)	1	2	3
(g) ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3
(h) 大分県消費生活・男女共同参画プラザ(愛称:アイネス)	1	2	3

**問22 男女共同参画社会の実現に向けて、県は今後どのような分野に力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。**

- 1. 政策・方針決定過程への女性の参画を進める
- 2. 男女共同参画意識を高める
- 3. 生涯を通じた男女の性と健康を守る
- 4. 男女間のあらゆる暴力をなくす
- 5. 家庭生活と職業生活や地域活動とが両立できる環境づくりを進める
- 6. 多様な働き方ができる場をつくる
- 7. 女性のチャレンジを支援する
- 8. 科学技術、防災、地域おこし、環境といった新しい取組を必要とする分野における男女共同参画を推進する
- 9. その他(具体的に )
- 10. 特にない
- 11. わからない

**問23 男性と女性が、家庭、職場、地域社会、政治の場などあらゆる分野に共同で参画する社会を実現するために、県に対してのご意見やご要望などがございましたら、以下の【回答欄】に自由にご記入ください。**

【回答欄】

以上で、質問はすべて終了です。ご協力、誠にありがとうございました。

お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずにポストに投函してください。

男女共同参画社会づくりのための意識調査報告書

平成 22 年 3 月発行

編集・発行者 大分県生活環境部県民生活・男女共同参画課

〒870-8501 大分市大手町 3 丁目 1 - 1

TEL : 097-506-3047

FAX : 097-506-1744